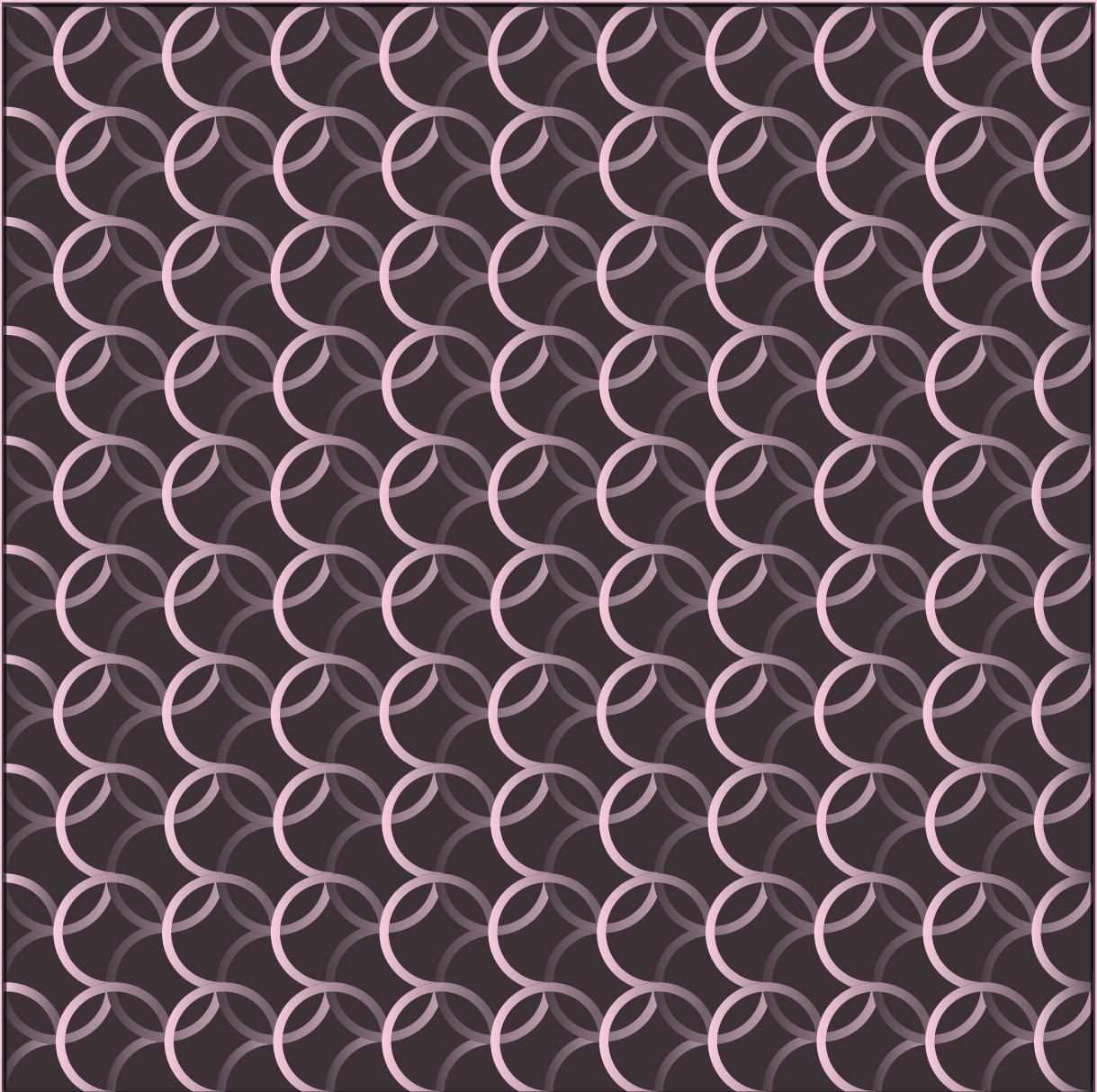

2017年度

シラバス

ドイツ語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合がありますので注意してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科	経： 経済学部	律： 法律学科
英： 英語学科	済： 経済学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科	営： 経営学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科	環： 国際環境経済学科	免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： ドイツ語学科以外の全学部・全学科		

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③		④
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。『授業時間割表』の「定員」の欄を参照してください。

③履修登録

学期ごとに第1回目の授業で選考または抽選を行う授業もあるので、必ずシラバスを参照してください。

—— 目 次 ——

ドイツ語学科授業科目（2009 年度以降入学者用）

外国語科目、演習科目	-----	2
概論・専門講義・テキスト研究科目	-----	4
交流文化論	-----	6
外国語学部共通科目	-----	7
担当者別シラバス	-----	9

ドイツ語学科 授業科目(2009～2017年度入学者用)

外国語科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既 修	総合ドイツ語Ⅰ	M. ラインデル/堤 那美子	春	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅱ	M. ラインデル/堤 那美子	秋	—	1	1	全	9
	総合ドイツ語Ⅲ	T. カーラー/秋野 有紀	春	—	1	2	全	10
	総合ドイツ語Ⅳ	T. カーラー/秋野 有紀	秋	—	1	2	全	10
	基礎ドイツ語Ⅰ	M. ビティヒ	春	—	1	1	全	11
	基礎ドイツ語Ⅱ	A. ヴェルナー	秋	—	1	1	全	11
	応用ドイツ語Ⅰ	I. アルブレヒト	春	—	1	2	全	12
	応用ドイツ語Ⅱ	I. アルブレヒト	秋	—	1	2	全	12
未 修	総合ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	13
	総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	春	—	1	2	全	14
	総合ドイツ語Ⅳ	各担当教員	秋	—	1	2	全	14
	基礎ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	1	全	15
	基礎ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	1	全	15
	応用ドイツ語Ⅰ	各担当教員	春	—	1	2	全	16
	応用ドイツ語Ⅱ	各担当教員	秋	—	1	2	全	16
レ ベル A	中級ドイツ語リーディング a	S. ヴィーク	春	火3	1	2		17
	中級ドイツ語リーディング b	S. ヴィーク	秋	火3	1	2		17
	中級ドイツ語ライティング a	E. ビリック	春	木1	1	2		18
	中級ドイツ語ライティング b	E. ビリック	秋	木1	1	2		18
	中級ドイツ語スピーキング a	J. シュトライト	春	月4	1	2		19
	中級ドイツ語スピーキング b	J. シュトライト	秋	月4	1	2		19
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	H. W. ラーデケ	春	火4	1	2		20
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	H. W. ラーデケ	秋	火4	1	2		20
レ ベル B	中級ドイツ語リーディング a	R. ヘニング	春	月4	1	2		21
	中級ドイツ語リーディング b	R. ヘニング	秋	月4	1	2		21
	中級ドイツ語ライティング a	H. W. ラーデケ	春	金4	1	2		22
	中級ドイツ語ライティング b	H. W. ラーデケ	秋	金4	1	2		22
	中級ドイツ語スピーキング a	H. J. トロル	春	金1	1	2		23
	中級ドイツ語スピーキング b	H. J. トロル	秋	金1	1	2		23
	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	D. オルランド	春	木2	1	2		24
	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	D. オルランド	秋	木2	1	2		24
英語	M. J. クロフォード	春	金2	1	2		25	
英語	M. J. クロフォード	秋	金2	1	2		25	

09～17年度入学者用

外国語科目

科目名		担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
既 修 ・ パ ー	総合ドイツ語Ⅴ	D. H. マッコイ	春	火3/木2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅵ	D. H. マッコイ	秋	火3/木2	2	3		26
	総合ドイツ語Ⅶ	M. ビティヒ	春	月4/水2	2	3		27
	総合ドイツ語Ⅷ	M. ビティヒ	秋	月4/水2	2	3		27
標 準	総合ドイツ語Ⅴ	各担当教員	春	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅵ	各担当教員	秋	—	2	3		28
	総合ドイツ語Ⅶ	E. ビリック	春	火2/木2	2	3		29
	総合ドイツ語Ⅷ	E. ビリック	秋	火2/木2	2	3		29
上級ドイツ語リーディング a		R. ヘニング	春	金2	2	3		30
上級ドイツ語リーディング b		R. ヘニング	秋	金2	2	3		30
上級ドイツ語リーディング a		未定	春	未定	2	3		31
上級ドイツ語リーディング b		未定	秋	未定	2	3		31
上級ドイツ語ライティング a		H. W. ラーデケ	春	火2	2	3		32
上級ドイツ語ライティング b		H. W. ラーデケ	秋	火2	2	3		32
上級ドイツ語ライティング a		S. メルテンス	春	火2	2	3		33
上級ドイツ語ライティング b		S. メルテンス	秋	火2	2	3		33
上級ドイツ語ライティング a		未定	春	未定	2	3		34
上級ドイツ語ライティング b		未定	秋	未定	2	3		34
上級ドイツ語スピーキング a		D. H. マッコイ	春	火4	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング b		D. H. マッコイ	秋	火4	2	3		35
上級ドイツ語スピーキング a		R. メッツィング	春	金2	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング b		R. メッツィング	秋	金2	2	3		36
上級ドイツ語スピーキング a		未定	春	未定	2	3		37
上級ドイツ語スピーキング b		未定	秋	未定	2	3		37
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		R. ヘニング	春	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		R. ヘニング	秋	月2	2	3		38
上級ドイツ語リスニング(CAL) a		S. メルテンス	春	木1	2	3		39
上級ドイツ語リスニング(CAL) b		S. メルテンス	秋	木1	2	3		39
中世ドイツ語 a		I. アルブレヒト	春	水2	2	3		40
中世ドイツ語 b		I. アルブレヒト	秋	水2	2	3		40
ビジネスドイツ語 a		D. H. マッコイ	春	火2	2	3		41
ビジネスドイツ語 b		D. H. マッコイ	秋	火2	2	3		41
上級英語		飯島 優雅	春	木1	2	3		42
上級英語		飯島 優雅	秋	木1	2	3		42

09~17年度入学用

演習科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏入門Ⅰ	黒田 多美子	春	水3	2	1	全	43
ドイツ語圏入門Ⅱ	黒田 多美子	秋	水3	2	1	全	43
基礎演習Ⅰ	各担当教員	春	水2	2	2	全	44
基礎演習Ⅱ	各担当教員	秋	水2	2	2	全	44
通訳特殊演習	中山 純	春	水3	2	3		45
通訳特殊演習	中山 純	秋	水3	2	3		45
翻訳特殊演習	上田 浩二	春	金4	2	3		46
インターンシップ特殊演習	I. アルブレヒト	春	木1	2	3		47
留学準備特殊演習	M. ラインデル	春	水1	2	3		48
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	春	月5	2	3		49
外国語教育特殊演習	M. ラインデル	秋	月5	2	3		49
外国語教育特殊演習	上田 浩二	秋	金4	2	3		50

概論・専門講義・テキスト研究科目

語学・文学・思想研究コース

09~17年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語概論 a	金井 満	春	火4	2	1	交	51
ドイツ語概論 b	金井 満	秋	火4	2	1	交	51
ドイツ語圏文学・思想概論 a	渡部 重美	春	水2	2	1	交	52
ドイツ語圏文学・思想概論 b	渡部 重美	秋	水2	2	1	交	52
ドイツ語圏の言語 a	黒子 葉子	春	金4	2	2		53
ドイツ語圏の言語 b	黒子 葉子	秋	金4	2	2		53
ドイツ語圏の文学 a	高橋 輝暁	春	火2	2	2		54
ドイツ語圏の文学 b	高橋 輝暁	秋	火2	2	2		54
ドイツ語圏の思想 a	工藤 達也	春	月3	2	2		55
ドイツ語圏の思想 b	工藤 達也	秋	月3	2	2		55
テキスト研究(語学・文学・思想) b	A. ヴェルナー	秋	木5	2	3		56
テキスト研究(語学・文学・思想) b	M. ビティヒ	秋	水1	2	3		57
テキスト研究(語学・文学・思想) a	M. ラインデル	春	水2	2	3		58
テキスト研究(語学・文学・思想) b	M. ラインデル	秋	水2	2	3		58
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	火3	2	3		59
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	火3	2	3		59
テキスト研究(語学・文学・思想) a	高橋 輝暁	春	水2	2	3		60
テキスト研究(語学・文学・思想) b	高橋 輝暁	秋	水2	2	3		60
テキスト研究(語学・文学・思想) a	中山 純	春	水4	2	3		61
テキスト研究(語学・文学・思想) b	中山 純	秋	水4	2	3		61
テキスト研究(語学・文学・思想) a	本橋 右京	春	木2	2	3		62
テキスト研究(語学・文学・思想) b	本橋 右京	秋	木2	2	3		62

芸術・文化研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏芸術・文化概論 a	山本 淳	春	木1	2	1	交	63
ドイツ語圏芸術・文化概論 b	山本 淳	秋	木1	2	1	交	63
ドイツ語圏の美術 a	青山 愛香	春	月3	2	2		64
ドイツ語圏の美術 b	青山 愛香	秋	月3	2	2		64
ドイツ語圏の音楽 a	木村 佐千子	春	金2	2	2		65
ドイツ語圏の音楽 b	木村 佐千子	秋	金2	2	2		65
ドイツ語圏の演劇 a	上田 浩二	春	金3	2	2		66
ドイツ語圏の演劇 b	上田 浩二	秋	金3	2	2		66
ドイツ語圏のメディア文化 a	秋野 有紀	春	月5	2	2	全	67
ドイツ語圏のメディア文化 b	秋野 有紀	秋	月5	2	2	全	67
テキスト研究(芸術・文化) b	I. アルブレヒト	秋	木1	2	3		68
テキスト研究(芸術・文化) a	青山 愛香	春	水2	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) b	青山 愛香	秋	木3	2	3		69
テキスト研究(芸術・文化) a	木村 佐千子	春	水2	2	3		70
テキスト研究(芸術・文化) b	木村 佐千子	秋	水2	2	3		70
テキスト研究(芸術・文化) a	高橋 輝暁	春	水3	2	3		71
テキスト研究(芸術・文化) b	高橋 輝暁	秋	水3	2	3		71
テキスト研究(芸術・文化) a	辻本 勝好	春	金2	2	3		72
テキスト研究(芸術・文化) b	辻本 勝好	秋	金2	2	3		72
テキスト研究(芸術・文化) a	前田 智	春	木4	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) b	前田 智	秋	木4	2	3		73
テキスト研究(芸術・文化) a	矢羽々 崇	春	金3	2	3		74

概論・専門講義・テキスト研究科目

現代社会・歴史研究コース

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
ドイツ語圏現代社会概論 a	古田 善文	春	木4	2	1		75
ドイツ語圏現代社会概論 b	古田 善文	秋	木4	2	1		75
ドイツ語圏歴史概論 a	上村 敏郎	春	火1	2	1	交	76
ドイツ語圏歴史概論 b	上村 敏郎	秋	火1	2	1	交	76
ドイツ語圏の政治・経済 a	大重 光太郎	春	木3	2	2		77
ドイツ語圏の政治・経済 b	大重 光太郎	秋	木3	2	2		77
ドイツ語圏の歴史 a	黒田 多美子	春	火3	2	2		78
ドイツ語圏の歴史 b	黒田 多美子	秋	火3	2	2		78
ドイツ語圏の地域・環境問題 a	不開講	—	—	2	2		—
ドイツ語圏の地域・環境問題 b	不開講	—	—	2	2		—
ドイツ語圏とEU a	伊豆田 俊輔	春	金3	2	2	全	79
ドイツ語圏とEU b	伊豆田 俊輔	秋	金3	2	2	全	79
テキスト研究(現代社会・歴史) a	H. W. ラーデケ	春	金2	2	3		80
テキスト研究(現代社会・歴史) b	H. W. ラーデケ	秋	金2	2	3		80
テキスト研究(現代社会・歴史) b	S. ヴィーク	秋	木4	2	3		81
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. カーラー	春	火2	2	3		82
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. カーラー	秋	火2	2	3		82
テキスト研究(現代社会・歴史) a	T. マイヤー	春	木2	2	3		83
テキスト研究(現代社会・歴史) b	T. マイヤー	秋	木2	2	3		83
テキスト研究(現代社会・歴史) a	秋山 大輔	春	金5	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) b	秋山 大輔	秋	金5	2	3		84
テキスト研究(現代社会・歴史) a	有信 真美菜	春	木4	2	3		85
テキスト研究(現代社会・歴史) b	有信 真美菜	秋	木4	2	3		85
テキスト研究(現代社会・歴史) a	大重 光太郎	春	月4	2	3		86
テキスト研究(現代社会・歴史) a	黒田 多美子	春	木3	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) b	黒田 多美子	秋	木3	2	3		87
テキスト研究(現代社会・歴史) a	中川 純子	春	木2	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) b	中川 純子	秋	木2	2	3		88
テキスト研究(現代社会・歴史) a	宮村 重徳	春	月2	2	3		89
テキスト研究(現代社会・歴史) b	宮村 重徳	秋	月2	2	3		89

09~17年度入学者用

交流文化論

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	月2	2	2	交・養・経・法	91
交流文化論(航空産業論)	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	92
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養・経・法	93
交流文化論(ツーリズム特殊講義 (紛争事例から学ぶ旅行契約法入門))【2013年度以降入学者】	花本 広志	春	月3	2	2	交・養・経・法	94
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	95
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル化と子ども))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	水2	2	2	交・養・経・法	96
交流文化論(トランスナショナル・メディア論)	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	97
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	木4	2	2	交・養・経・法	98
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	99
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル社会での平和))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	春	金2	2	2	交・養・経・法	100
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	101
交流文化論(ツーリズム政策論)	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	102
交流文化論(地域開発論)【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(市民参加のまちづくり論)【2012年度以前入学者】	北野 収	秋	火1	2	2	交・養・経・法	103
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	火2	2	2	交・養・経・法	104
交流文化論(ツーリズム文化論)	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	105
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル経済とジェンダー))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	水2	2	2	交・養・経・法	106
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (「観る」ことの文化史))【2013年度以降入学者】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	107
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (シティズンシップ教育論))【2013年度以降入学者】	花本 広志	秋	木3	2	2	交・養・経・法	108
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	109
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	木4	2	2	交・養・経・法	110
交流文化論(ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論))【2013年度以降入学者】/ 交流文化論(ツーリズム・メディア論)【2012年度以前入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	111
交流文化論(トランスナショナル文化特殊講義 (グローバル化と市民社会))【2013年度以降入学者】	堀 芳枝	秋	金2	2	2	交・養・経・法	112

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	大重 光太郎	春	水3	2	1	養・経・法	113
総合講座	M. ビティヒ	秋	水3	2	1	養・経・法	113
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	114
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	114
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	115
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	116
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	117
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	117
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	木2	2	1	養・経・法	118
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金1	2	1	養・経・法	118
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	118
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	木2	2	1	養・経・法	118
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金1	2	1	養・経・法	118
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	118
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	月2	2	1	養・経・法	119
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	119
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	119
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	月2	2	1	養・経・法	119
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	120
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	120
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	121
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	121
(Word中級)	松山 恵美子	春	月1	2	1	養・経・法	121
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	121
(Word中級)	松山 恵美子	秋	月1	2	1	養・経・法	121
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学a)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	122
(言語情報処理2)【2015年度以前入学者】/ (コーパス言語学b)【2016年度以降入学者】	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	122
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	123
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	123
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	123
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	123
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	124
経済原論a	野村 容康	春	木3	2	2	養・経・法	125
経済原論b	野村 容康	秋	木3	2	2	養・経・法	125
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	126
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	126

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

ドイツ語学科科目シラバス

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	M. ラインデル 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 1-4</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	M. ラインデル 堤 那美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B1 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B1+ Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（既修）	担当者	T. カーラー 秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse beginnt der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in mit 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 1-4</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（既修）	担当者	T. カーラー 秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in 2 Unterrichtseinheiten und von einer/m japanischen Dozenten/in in 1 Einheit pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 5-8</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 1 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat - durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung - die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Verben, Präsens 1 2. Verben, Präsens 2 3. Verben, Perfekt 1 4. Verben, Perfekt 2 5. Partizip II als Adjektiv 1 6. Partizip II als Adjektiv 2 7. Adjektivdeklination 1 8. Adjektivdeklination 2 9. Adjektivdeklination 3 10. Artikel und Artikelwörter 1 11. Artikel und Artikelwörter 2 12. Passiv 1 13. Passiv 2 14. Passiv 3 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Unterricht hat die Festigung der Grundgrammatik zum Ziel, durch Übungen und mündliche und schriftliche Anwendung, darüber hinaus die Vorbereitung auf das B2 Niveau (Niveau B1 ist vorausgesetzt).		Die Übungseinheiten werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist: 1. Präteritum 1 2. Präteritum 2 3. Präteritum 3 4. Pronomina 1 5. Pronomina 2 6. Pronomina 3 7. Konjunktiv II (1) 8. Konjunktiv II (2) 9. Konjunktiv II (3) 10. Präpositionen 1 11. Präpositionen 2 12. Konjunktiv I 13. Indirekte Rede 1 14. Indirekte Rede 2 15. Wiederholung	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung (ca. 90 Minuten) Wiederholung und Hausaufgaben (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, schriftliche Tests		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentation mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt. Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters und Kennenlernen 2. Grammatische Übungen 3. Grammatik, z.B. Präpositionen 2 4. Konnektoren 2 5. Konnektoren 2 6. Modalverben 2 7. Modalpartikeln 2 8. Übungen 9. Sprachmittel verschiedener Sprachanlässe, z.B. 10. Entschuldigung 11. Ablehnung-Annahme 12. Einladung-Dank 13. Übungen 14. Übungen 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、プレゼンテーション、授業への参加度 50%。		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（既修）	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Zweck des Unterrichts ist, die Grammatik, aber auch andere grundlegende Fähigkeiten, wie kommunikative Kompetenz, interkulturelles Verstehen, Argumentationen mündlicher und schriftlicher Art zu lernen und zu üben. Diese werden in allen 4 Fertigkeiten Lesen, Hören, Schreiben und Sprechen geübt.</p> <p>Der Schwerpunkt verlagert sich vom Alltagsdeutsch auf fachliche wissenschaftliche Deutschkompetenzen. Dabei werden bei der Progression des Semesters die Bedarfe der Teilnehmenden berücksichtigt.</p> <p>Aktive Teilnahme und Bereitschaft zu Partner- und Gruppenarbeit ist nötig.</p> <p>Die Inhalte des Unterrichts richten sich nach dem Wissen und den Kompetenzen der Teilnehmenden, die sprachlichen Anforderungen liegen auf dem Niveau B2 (Europäischer Referenzrahmen CEFR).</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Besprechung des Semesters 2. Sprachliche Mittel für Mündliches Berichten 3. Präsentationen 4. Schriftliches Arbeiten 5. Schriftliche Präsentationen, usw. 6. Übungen 7. Übungen 8. Wissenschaftliches Arbeiten 9. Aufbau einer wissenschaftlichen Arbeit 10. Argumentationen mündlich 11. Argumentationen schriftlich 12. Interkulturelle Übungen 13. Interkulturelle Übungen 14. Erklärungen der eigenen Kultur 15. Abschlussbesprechung, Evaluation 	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、プレゼンテーション、授業への参加度 50%。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ,Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international Neu 1 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅰの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅱへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅰ,Ⅱの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA1レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8～14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international Neu 2 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅱの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅲへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅲ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ、Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 3 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅲの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅳへ進めません。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅳ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員（週2コマ）と日本人教員（週1コマ）の協力を通して、ドイツ語の総合的な運用能力を高めることを目標としています。読む・書く・聞く・話すという4つの能力をバランスよく向上させ、総合ドイツ語Ⅲ、Ⅳの履修により「ヨーロッパ共通基準 Gemeinsamer europäischer Referenzrahmen für Sprachen」のA2レベルの水準達成を、また3年間の総合ドイツ語履修によりGoethe- Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8～14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を1年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 4 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）>初回授業時まで購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。なお、総合ドイツ語Ⅳの単位が取れないと、次の総合ドイツ語Ⅴ～Ⅷへ進めません。		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。 詳細（授業の進め方、評価方法、辞書の扱い等）については、初回授業時に説明します。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. } <p>文字と発音について 教科書の1～10課</p>	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	基礎ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><未修クラス（2～7組）> 春（＝基礎ドイツ語Ⅰ）と秋（＝基礎ドイツ語Ⅱ）の2学期間で、ドイツ語の基本（基本文法＝仕組み、基本語彙、基本表現など）をひと通り修得します。 この授業で身につけるべき学習内容は、これからドイツ語運用能力を養成していく上で欠くことのできない重要な土台となるものです。予習・復習をしっかりと行い、継続的な積み重ねを大切にしながら勉強を進めてください。 具体的な目標としては、1年間の勉強で「独検（ドイツ語技能検定試験）」3級合格レベルを目指します。</p>		1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. } 14. } 15. } <p>教科書の11～20課</p>	
到達目標	ドイツ語の初級文法を中心に、基礎的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業以外の学修、特に復習には積極的に取り組んでください。		
テキスト、参考文献	矢羽々(他)：『Schritte international 1+2 日本語で学ぶドイツ語文法』 Ismaning (Hueber) 2009		
評価方法	小テストを含む平常点と学期末統一試験の結果によって評価		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅰ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力をさらに中級レベルへステップアップさせます。具体的には「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>ドイツ語圏の文化をテーマとしたドイツ語のテキストを読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止です。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。*1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>		<p>第1週 授業の概要説明/Kapitel 1</p> <p>第2週 Kapitel 1</p> <p>第3週 Kapitel 2</p> <p>第4週 Kapitel 2/小テスト</p> <p>第5週 Kapitel 3</p> <p>第6週 Kapitel 3/Kapitel 4</p> <p>第7週 Kapitel 4</p> <p>第8週 小テスト/Kapitel 5</p> <p>第9週 Kapitel 5</p> <p>第10週 Kapitel 6</p> <p>第11週 Kapitel 6/小テスト</p> <p>第12週 Kapitel 7</p> <p>第13週 Kapitel 7/Kapitel 8</p> <p>第14週 Kapitel 8</p> <p>第15週 小テスト/授業のまとめ</p>	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱うテキストは、初回の授業で指示します。事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	<テキスト>Schmidt/Duppel-Takayama/三ツ石/和泉『ファウストとメフィストと学ぶ ドイツ文化8章 プラス・エクストラ (kennzeichen.de Faust und Mephisto)』(三修社)2016年 <参考文献>適宜指示します。		
評価方法	定期試験80%、小テスト20% *定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。		

09年度以降	応用ドイツ語Ⅱ（未修）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><目的>「基礎ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」で習得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「応用ドイツ語Ⅰ+Ⅱ」を終えた時点でGoethe-Zertifikat B1または独検2級合格レベルに到達できることを目標とします。</p> <p><概要>時事的なテーマを扱ったドイツ語を読みながら、文法・語法・表現などを総合的かつ応用的に習得していきます。適宜小テストを行い、内容の理解度、学んだことの定着度を確認します。</p> <p><注意事項>効率的に学習を進めるため、必ず予習をしてきてください。指示がない限り、授業中に辞書で調べることは禁止します。出席状況は、学期末試験の受験制限（学期中の規定欠席回数を超えると受験できない）に関係します。休めばそれだけ内容もわからなくなってしまいますし、生活習慣や学習のリズムをつくるためにも、必ず毎回出席してください。*1週に2回の授業があります。進度はクラスによって異なることがあります。</p>		<p>第1週 授業の概要説明/テキスト その①</p> <p>第2週 テキスト その①</p> <p>第3週 テキスト その②</p> <p>第4週 テキスト その②/小テスト</p> <p>第5週 テキスト その③</p> <p>第6週 テキスト その③/テキスト その④</p> <p>第7週 テキスト その④</p> <p>第8週 小テスト/テキスト その⑤</p> <p>第9週 テキスト その⑤</p> <p>第10週 テキスト その⑥</p> <p>第11週 テキスト その⑥/小テスト</p> <p>第12週 テキスト その⑦</p> <p>第13週 テキスト その⑦/テキスト その⑧</p> <p>第14週 テキスト その⑧</p> <p>第15週 小テスト/授業のまとめ</p>	
到達目標	ドイツ語の中級文法や読解を中心に、応用的な能力を習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱うテキストは、初回の授業で指示します。事前に指定されたテキストを精読し、練習問題も解いておいてください。また、授業で学習した文法・語法・表現などが定着するよう、しっかり復習しておいてください。		
テキスト、参考文献	<テキスト>Raab/石井『Neuigkeiten aus Deutschland 2015/2016 時事ドイツ語 2017年度版』(朝日出版社)2017年 <参考文献>適宜指示します。		
評価方法	定期試験80%、小テスト20% *定期試験は全クラス共通の統一試験で、学期中の規定欠席回数を超えると受験できません。		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In dieser Klasse wollen wir die Zeichnungen von E.O.Plauen als Gesprächsanlass nehmen. Das Buch ist sehr übersichtlich gestaltet, sowohl Vokablen als auch Grammatik sind damit gut zu üben. Je nach Interesse können wir auch über deutsche Geschichte sprechen.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Über E.O.Plauen, L.1, S.6, Bilder 2. S.7-11 Vokabeltraining, Grammatikübungen 3. S. 12-13 Aktivitäten zu L.1 4. L.2, S.14 Bilder 5. S.15-19 Vokabeltraining, Grammatikübungen 6. S.20-21 Aktivitäten zu L.2 7. L.3, S.22 Bilder 8. S. 23-27 Vokabeltraining, Grammatikübungen 9. S.28-29 Aktivitäten zu Lektion 3 10. L.4, S.30 Bilder 11. S. 31-35 Vokabeltraining, Grammatikübungen 12. S. 36-37 Aktivitäten zu L.4 13. L.5, S. 38 Bilder 14. S. 39-43 Vokabeltraining, Grammatikübungen 15. S.44-45 Aktivitäten zu L.5 	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bitte lernen Sie neue Vokabeln für jede Lektion vorher. Im Unterricht üben wir diese dann ein. Die Grammatikübungen sind teilweise als Hausaufgabe zu machen.		
テキスト、参考文献	Deutsch mit Vater und Sohn, ausgewählt von Franz Eppert. Hueber Verlag, München, L. 1-5		
評価方法	2-3 benotete Hausaufgaben, ein Referat vor der Klasse		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dies ist die Fortsetzung der Frühjahrsklasse. Wir machen weiter im Buch mit den Zeichnungen von E.O.Plauen. Sowohl Neuanfänger als auch die Studenten vom Frühjahr sind herzlich willkommen.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellen, L.6, S.46, Bilder 2. S.47-51, Vokabeltraining, Grammatikübungen 3. S. 52-53, Aktivitäten zu L. 6 4. L.7, S. 54, Bilder 5. S. 55-59, Vokabeltraining, Grammatikübungen 6. S. 60-61, Aktivitäten zu L.7 7. L. 8, S. 62, Bilder 8. S. 63-67, Vokabeltraining, Grammatikübungen 9. S. 68-69, Aktivitäten zu L. 8 10. L.9, S.70, Bilder 11. S.71-75, Vokabeltraining, Grammatikübungen 12. S.76-77, Aktivitäten zu L.9 13. L.10, S. 78 14. S.79-83, Vokabeltraining, Grammatikübungen 15. S.84-85, Aktivitäten zu L.10 	
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Bitte lernen Sie neue Vokabeln für jede Lektion vorher. Im Unterricht üben wir diese dann ein. Die Grammatikübungen sind teilweise als Hausaufgabe zu machen.		
テキスト、参考文献	Deutsch mit Vater und Sohn, ausgewählt von Franz Eppert, Hueber Verlag, München, L. 6-10		
評価方法	2-3 benotete Hausaufgaben, ein benotetes Referat vor der Klasse		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir mit Märchen der Gebrüder Grimm arbeiten. Die einzelnen Geschichten werden durch verschiedene Aufgaben vor- bzw. nachbereitet. Im Mittelpunkt wird das Schreiben stehen. Durch vielfältige Schreibübungen (u.a. Brief, Meinung, Reaktion, Grafikkbeschreibung, Bildgeschichte, Gedicht, Zusammenfassung) zu verschiedenen Themen wollen wir den Wortschatz erweitern und Strategien bzw. Techniken des Schreibens erarbeiten und richtig anwenden.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen, Einleitung 2. Sterntaler 3. Sterntaler 4. Dornröschen 5. Dornröschen 6. Rotkäppchen 7. Rotkäppchen 8. Rapunzel 9. Rapunzel 10. Tischlein-deck-dich 11. Tischlein-deck-dich 12. Schneewittchen 13. Schneewittchen 14. Schneewittchen 15. Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	In jeder Unterrichtseinheit werden Aufgaben gestellt, die Sie zu lösen und in der nächsten Unterrichtsstunde einzureichen haben.		
テキスト、参考文献	Im Kurs werden Kopien verteilt.		
評価方法	Vier schriftliche Texte 80%, Impressionsnote 20%		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir mit Märchen der Gebrüder Grimm arbeiten. Die einzelnen Geschichten werden durch verschiedene Aufgaben vor- bzw. nachbereitet. Im Mittelpunkt wird das Schreiben stehen. Durch vielfältige Schreibübungen (u.a. Brief, Meinung, Reaktion, Grafikkbeschreibung, Bildgeschichte, Gedicht, Zusammenfassung) zu verschiedenen Themen wollen wir den Wortschatz erweitern und Strategien bzw. Techniken des Schreibens erarbeiten und richtig anwenden.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kennenlernen, Einleitung 2. Rumpelstilzchen 3. Rumpelstilzchen 4. Bremer Stadtmusikanten 5. Bremer Stadtmusikanten 6. Hänsel und Gretel 7. Hänsel und Gretel 8. Hänsel und Gretel 9. Frau Holle 10. Frau Holle 11. Der Froschkönig 12. Der Froschkönig 13. Aschenputtel 14. Aschenputtel 15. Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	In jeder Unterrichtseinheit werden Aufgaben gestellt, die Sie zu lösen und in der nächsten Unterrichtsstunde einzureichen haben.		
テキスト、参考文献	Im Kurs werden Kopien verteilt.		
評価方法	Vier schriftliche Texte 80%, Impressionsnote 20%		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir sprechen über eine reiche Auswahl von Themen, die zum Teil von den Studierenden selbst bestimmt werden. Meist arbeiten wir in kleinen Gruppen bzw. in Paaren, die sich im Laufe des Kurses oft neu konstituieren.</p> <p>Neben dem Sprechen wird besonderer Wert auf gutes Zuhören gelegt, eine Grundvoraussetzung für gezielte Reaktionen auf die Äußerungen der Gesprächspartner. Im Rahmen des Kurses werden Gespräche aus den verschiedensten Lebensbereichen simuliert.</p> <p>Stets ist der Inhalt praxisbezogen und die Teilnehmer sind dazu angehalten, ihre eigenen Interessen geltend zu machen und ihre Lebenserfahrungen (eventuell in Form einer Videoaufnahme) in den Kurs einzubringen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Gemeinsame Auswahl der Themen für das Semester. 2. Thema 1: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 1: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 2: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 2: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 3: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 3: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 4: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 4: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 5: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 5: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 6: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 6: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Übung und Absprache in Gruppen. 15. Interviews zur Bewertung, Evaluierung des Kurses. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Öfters werden in der vorangehenden Stunde Kurzartikel zur Bearbeitung ausgeteilt. Ergebnisse von Gruppendiskussionen sind als Hausaufgabe schriftlich zusammenzufassen.		
テキスト、参考文献	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien und andere Vorgaben ausgehändigt oder audio-visuelle Materialien bzw. eigene Videoaufnahmen vorgespielt.		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test (Gespräch) am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	J. シュトライト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Themenauswahl orientiert sich in erster Linie an individuellen und Gruppen-Präferenzen. Wir üben vor allem das Initiieren und rasche verbale Reagieren bei ersteren Gesprächen und bei formalen Präsentationen. Gefragt ist ein aktives Interesse an der Erweiterung des Wortschatzes,.</p> <p>Neben einem bereicherten Wortschatz gehören auch Strategien zum Themenwechsel und zum Beenden eines Gesprächs auf höfliche Weise zum Erfolgsrezept.</p> <p>Die Teilnehmer finden Gelegenheit ihre eigenen Interessen geltend zu machen, indem sie diverse Aspekte aus Bereichen der eigenen Erfahrung (z.B. in Form eines selbst gemachten Videos) in den Kurs einbringen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Gemeinsame Auswahl der Themen für das Semester. 2. Thema 7: Gruppenbildung und Vorarbeit 3. Thema 7: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 4. Thema 8: Thema 1 Gruppenbildung und Vorarbeit 5. Thema 8: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 6. Thema 9: Gruppenbildung und Vorarbeit 7. Thema 9: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 8. Thema 10: Gruppenbildung und Vorarbeit 9. Thema 10: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 10. Thema 11: Gruppenbildung und Vorarbeit 11. Thema 11: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 12. Thema 12: Gruppenbildung und Vorarbeit 13. Thema 12: Bearbeitung in Gruppen, Präsentation 14. Rückblickende Absprache in kleinen Gruppen. 15. Evaluatives Interview im Paar-Format zu allen im Semester behandelten Themen. 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p> </div>			
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Öfters werden in der vorangehenden Stunde Kurzartikel zur Bearbeitung ausgeteilt. Ergebnisse von Gruppendiskussionen sind als Hausaufgabe schriftlich zusammenzufassen.		
テキスト、参考文献	Zu Beginn des Unterrichts werden entweder Fotokopien oder andere Vorgaben ausgehändigt bzw. Audio- oder Videoaufnahmen vorgespielt.		
評価方法	Regelmäßige, aktive Mitarbeit im Unterricht; mündlicher Test (Gespräch) am Ende des Semesters.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des Hörverstehens anhand praktischer Beispiele. Dabei verwenden wir Hörtexte aus typischen Situationen, die im täglichen Leben eine Rolle spielen. Auch Hörbücher oder Hörspiele können eingesetzt werden.</p> <p>Die Studierenden sollen lernen, diese Hörtexte zu verstehen, sowie damit verbundene Aufgaben lösen. Dadurch werden sie in die Lage versetzt, sich nach und nach in einem deutschen Sprachumfeld besser zu orientieren.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Inhalt und Schwierigkeitsgrad der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Keine Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Impressionsnote 20% - Test 1 40% - Test 2 40% - Auch die Tests ggf. mit Binnendifferenzierung.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an alle Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Hörverstehens. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, das Hörverstehen der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere Hörtexte und sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des Hörverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer; wenn nötig und möglich, mit Binnendifferenzierung.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
<p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「A」以上の学生と既修クラスの学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「B」以下でも履修可)</p>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Keine Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Impressionsnote 20% - Test 1 40% - Test 2 40% - Auch die Tests ggf. mit Binnendifferenzierung.		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Global und Detailverständnis werden durch gezielt vom KL formulierte Aufgaben gesteuert.</p> <p>Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1-A1+.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回復習すること		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir lesen gemeinsam Texte zu allgemeinen Themen. Durch begleitende Übungen wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) soll das bisher erworbene Vokabular und die Grammatik wiederholt, gefestigt und ausgebaut werden.</p> <p>Inhalte und Progression richten sich nach dem durchschnittlichen Niveau der KursteilnehmerInnen.</p> <p>Das Niveau der Texte ist A1+-A2.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	様々な種類の中級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回復習すること		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt 授業の始めに配布する独自の教材のプリント		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 授業中に行われる小テスト 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 授業に臨む姿勢 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Anlässen und in möglichst vielen unterschiedlichen Textsorten sorgfältig und korrekt auszudrücken. Dabei werden neben dem Inhalt vor allem auch Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	中級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、中級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング a	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir beginnen einfach, mit langsamen Fortschritt. Aktive und stetige Mitarbeit ist erforderlich für einen erfolgreichen Abschluss. Die Grundlage für Kommunikation und Tests ist das Lehrbuch.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aller Art 3. Deutschlandkunde 4. Lektion 1 5. Lektion 2a 6. Lektion 2b 7. Kleiner Test und Video 8. Lektion 3a 9. Lektion 3b 10. Lektion 4a 11. Lektion 4b 12. Kleiner Test und Video 13. Lektion 5a 14. Lektion 5b 15. Zusammenfassung 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト、参考文献	Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語スピーキング b	担当者	H. J. トロル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gleiche wie oben wird angewandt.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einleitung 2. Wiederholungen aus dem ersten Semester 3. Lektion 6a 4. Lektion 6b 5. Lektion 7a 6. Lektion 7b 7. Lektion 8a 8. Lektion 8b 9. Kleiner Test und Video 10. Lektion 9a 11. Lektion 9b 12. Lektion 10a 13. Lektion 10b 14. Kleiner Test und Video 15. Zusammenfassung/Abschluss 	
到達目標	与えられたテーマに関して、中級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung des besprochenen Stoffes: 30 Minuten Vorbereitung der Aufgaben: 30 Minuten		
テキスト、参考文献	Lehrbuch wie oben: Szenen 2 (ISBN978-4-384-13089-8) Sanshusha		
評価方法	Kleine Tests (70%) Unterrichtsleistung (30%)		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs werden wir das Hörverständnis sowie die Sprachfertigkeiten erweitern. Wir werden unter anderem das Hörspiel "Der Auftrag" behandeln und uns gemeinsam mit den zwei handelnden Personen auf die Suche nach der mysteriösen Zaza machen.</p> <p>Außerdem werden wir auch Hörtexte zu Alltagsthemen (Einkaufen, Wohnen, Liebe...) durchführen.</p> <p>Neben diesen Übungen gibt es auch Hörübungen zu Start Deutsch 2 oder aus diversen Lehrbüchern.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Hörstrategien. 2. Der Auftrag (Folge 1/2). In der U_Bahn). 3. Der Auftrag (Folge 3). Begegnung mit Kindern. 4. Der Auftrag (Folge 4). In der Wohnung. 5. Der Auftrag (Folge 5). Der Brief. 6. Der Auftrag. Was wir wissen und was wir nicht wissen. 7. Der Auftrag (Folge 6/7/8). Der Traum 8. Der Auftrag (Folge 9/10). Schlechte Laune. 9. Test (Der Auftrag) 10. Hörübung zu einem Alltagsthema (1). 11. Hörübungen (Start Deutsch 2) 12. Hörübungen (Start Deutsch 2) 13. Hörübung zu einem Alltagsthema (2). 14. Hörübung zu einem Alltagsthema (3). 15. Test 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Zur Vorbereitung auf die Hörübungen im Unterricht sind die Transkriptionen zu Hause durchzulesen.		
テキスト、参考文献	Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt.		
評価方法	Aktive Teilnahme, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt.		

09年度以降	中級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	D. オランダ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Wir werden in diesem Kurs unter anderem mehrere Kurzgeschichten hören aus dem Buch "Das Idealpaar" von Leonhard Thoma. Wir werden zudem in Gruppen Fortsetzungsgeschichten schreiben, die wir gemeinsam hören und behandeln werden. Nicht nur das Hören der Texte wird somit für uns wichtig sein, sondern auch das Verfassen von eigenen Geschichten und das Erzeugen von Gesprächsanlässen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung. Was ist ein Idealpaar? 2. Wer ist Meike? 3. Schlaflose Nacht (1). 4. Schlaflose Nacht (2). 5. Lucia. 6. Unsere Geschichte (1). Aufnahme und Bearbeitung. 7. Das Frühstück. 8. Fröhliche Studenten. 9. Test 10. Das Mädchen im Zug (1). 11. Das Mädchen im Zug (2). 12. Unsere Geschichte (2). Aufnahme und Bearbeitung 13. Der Besuch (1). 14. Der Besuch (2). 15. Test 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※未修クラスで「基礎ドイツ語Ⅱ」の成績が「B」以下の学生を主な対象とします。 (但し、未修クラスの学生で成績が「A」以上でも履修可)</p> </div>			
到達目標	会話や読み上げられた中級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Zur Vorbereitung auf die Hörübungen im Unterricht sind die Transkriptionen zu Hause durchzulesen.		
テキスト、参考文献	Transkriptionen und Aufgabenblätter werden ausgehändigt.		
評価方法	Aktive Teilnahme, Interesse am Thema und an Partnerarbeit werden vorausgesetzt.		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p><i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		
評価方法	Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	英語	担当者	M. J. クロフォード
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The course aims to (1) advance students' topical knowledge of German-speaking countries and (2) to develop general academic English skills. It is a content- and project-based course that will integrate all four language skills. Students will explore various aspects of German-speaking countries by participating in class activities such as reading articles from magazines and newspapers, listening to lectures and interviews, writing short reports, and giving presentations. All class activities will be conducted in English.</p> <p><i>Minimum TOEIC score required: 450</i></p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Reading passage 1 Week 3: Listening passage 1, planning session 1 Week 4: Reading passage 2, planning session 2 Week 5: Listening passage 2, planning session 3 Week 6: Group presentations Week 7: Group presentations Week 8: Reading passage 3 Week 9: Listening passage 3 Week 10: Reading passage 4 Week 11: Listening passage 4 Week 12: Listening passage 5 Week 13: Individual presentations Week 14: Individual presentations Week 15: Individual presentations</p>	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を総合的に習得し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Students' primary responsibility outside of class will be preparing for their presentations. This will require several hours of concentrated work. There will also be other assignments such as summaries.		
テキスト、参考文献	There is no textbook for this class. Handouts will be provided in class. Additionally, students will be responsible for finding materials themselves and sharing them with their classmates.		
評価方法	Class participation (20%), short reports (20%), presentations (30% x 2 = 60%)		

09年度以降	総合ドイツ語V (既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 9-12</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (既修)	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Für diese 既修-Klasse wird der Unterricht auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen für Sprachen fortgesetzt. Der Unterricht wird von einem Nativespeaker in je 2 Unterrichtseinheiten pro Woche abgehalten. Ziel des Unterrichts ist, die vier Fertigkeiten Hören, Sprechen, Lesen und Schreiben zu erweitern, und zwar nicht nur im verbalen Bereich, sondern auch in kommunikativen und interkulturellen Kompetenzen. Wichtig im Unterricht sind aktive Teilnahme im mündlichen und schriftlichen Bereich, Anfertigen der Hausaufgaben und Vorbereitung des Unterrichts. Fortlaufendes eigenständiges Lernen und Üben sowohl im Unterricht als auch außerhalb werden erwartet.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">Lehrbuch-Lektionen 13-16</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Ziel B2 Band 2 Kursbuch und Arbeitsbuch (Hueber) > 初回授業時までに購入		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ (スーパー)	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kultur und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.		Kursablauf (Änderungen vorbehalten) 1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (1) 3. Gesellschaft (2) 4. Politik (1) 5. Politik (2) 6. Wirtschaft (1) 7. Wirtschaft (2) 8. Kultur (1) 9. Kultur (2) 10. Wissenschaft (1) 11. Wissenschaft (2) 12. Ihre Forschungsthemen (1) 13. Ihre Forschungsthemen (2) 14. Ihre Forschungsthemen (3) 15. Evaluation, Kursfazit	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ (スーパー)	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
Dieser Kurs richtet sich an Studierende auf dem Sprachniveau von etwa C1 (Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen für Sprachen). In diesem Kurs haben Sie Gelegenheit, gezielt an Ihren Schwächen zu arbeiten. Dabei werden grundsätzlich alle vier Fertigkeiten trainiert, ein besonderer Schwerpunkt soll aber auf das Schreiben (in Beruf und Wissenschaft) sowie aufs Präsentieren gelegt werden. Ziel des Kurses ist es, den Teilnehmenden individuell angemessene Unterstützung beim Aufbau auf ihr hohes Sprachniveau zu bieten. Was genau im Unterricht gemacht wird, richtet sich nach Ihren Interessen und Bedürfnissen – grundsätzlich können aktuelle Themen aus Politik, Wirtschaft und Gesellschaft, Themen aus Kunst und Wissenschaft, sowie Ihre jeweiligen Forschungsthemen Gegenstand des Unterrichtsgesprächs werden.		Kursablauf (Änderungen vorbehalten) 1. Vorstellung des Kurskonzepts / Ihrer Interessen 2. Gesellschaft (3) 3. Gesellschaft (4) 4. Politik (3) 5. Politik (4) 6. Wirtschaft (3) 7. Wirtschaft (4) 8. Kultur (3) 9. Kultur (4) 10. Wissenschaft (3) 11. Wissenschaft (4) 12. Ihre Forschungsthemen (4) 13. Ihre Forschungsthemen (5) 14. Ihre Forschungsthemen (6) 15. Evaluation, Kursfazit	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠の教材・メディアを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	Das Lernmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	平常点、授業中に行う筆記試験、学期末の口頭試験の結果を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語V (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業(週2コマ)により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意! 未修クラスの学生用には、Aクラス(総合ドイツ語IVの成績がA以上の学生用)とBクラス(同、B以下の学生用)が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語V」(既修クラス用)を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1~7課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 5 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) >初回授業時まで購入		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語VI (標準)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業(週2コマ)により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。Goethe-Institut主催のドイツ語基礎統一試験B1/ZD (Zertifikat Deutsch) に合格する水準達成を目指します。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意! 未修クラスの学生用には、Aクラス(総合ドイツ語Vの成績がA以上の学生用)とBクラス(同、B以下の学生用)が開設されます。既修クラスの学生は、必ず「総合ドイツ語VI」(既修クラス用)を受講してください。詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの8~14課</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Schritte international 6 (Kursbuch + Arbeitsbuch)』 (Hueber) >初回授業時まで購入		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅶ（標準）	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅶ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅶ(Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの1～4課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber）初回授業時までに購入。 （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	総合ドイツ語Ⅷ（標準）	担当者	E. ビリック
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネイティブ教員のための授業（週2コマ）により、特にコミュニケーション能力の向上や異文化理解の促進に重点を置き、ドイツ語の総合的な運用能力をさらに高めます。</p> <p>外国語を習得するには毎回毎回の積み重ねがとても大切です。きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。総合ドイツ語の教材は説明もすべてドイツ語で書かれており、かつネイティブの授業は基本的にドイツ語で行われますから、予習・復習がきわめて重要になります。与えられた課題を確実にこなすことはもちろん、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。</p> <p>*注意！ 「総合ドイツ語Ⅷ」は選択必修（1学期に2単位×週2回＝4単位）となります。 既修クラスの学生は、「総合ドイツ語Ⅷ (Super-Deutsch)」（スーパー）を必ず受講してください。 詳しくは時間割表を確認してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. <p style="text-align: center;">} テキストの5～8課 各教員が追加教材を適宜準備する</p>	
到達目標	ドイツ語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を3年次よりさらに総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に与えられた課題を確実にこなし、テキスト準拠のCDを授業以外の場所でも積極的に活用してください。授業後には必ず復習をし、学習したことを確実に定着させてください。		
テキスト、参考文献	『Ziel B1+ (Kursbuch + Arbeitsbuch)』（Hueber） （総合ドイツ語Ⅶ,Ⅷでは同一のテキストを1年間使用します。販売は春のみです。）		
評価方法	平常点や試験の結果等を総合して評価します。		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland. Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes. Das Niveau der Texte reicht von A2 bis B1.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Mittelpunkt steht die kursorische Lektüre von Texten zu verschiedenen Themen zur Kultur, Gesellschaft, Politik; bei der Erörterung des Inhalts liegt der Schwerpunkt auf kulturvergleichenden Aspekten Japan-Deutschland. Globalverstehen wie Detailverstehen werden durch vom Kursleiter vorbereitete gezielt formulierte Aufgaben zum Text gesteuert. MP4-Dateien und Zusatzmaterialien aus diversen Medien dienen ergänzend zur Illustration des im Text vermittelten Inhalts.</p> <p>Durch begleitende Übungen zu morpho-syntaktischen und textsemantischen Aspekten wie Einsetzübungen (beispielsweise von Konnektoren, prädikativen Ergänzungen und Angaben) dienen der Wiederholung zentraler grammatischer Aspekte des in bisherigen Kursen wie den Sogo-Kursen erarbeiteten Stoffes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Thema 3 5. Zwischentest I / Thema 4 6. Thema 5 7. Thema 6 8. Thema 7 9. Zwischentest II / Thema 8 10. Thema 9 11. Thema 10 12. Zwischentest III / Thema 11 13. Thema 12 14. Thema 13 15. Zwischentest IV 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Beginnend mit klassischen Leseübungen soll das Leseverständnis der Studenten verbessert werden, wobei eine stetige Steigerung der Schwierigkeit und Authentizität der Lesetexte beabsichtigt ist. Es sollen jeweils die Fähigkeiten des globalen und selektiven Lesens sowie auch das Detailverständnis geübt werden. Der thematische Fokus liegt auf Alltagsthemen sowie aktuellen Ereignissen in Deutschland und Japan, die ggf. durch entsprechende Zusatzmedien ergänzend veranschaulicht werden.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von Lesetexten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Tests 70%		

09年度以降	上級ドイツ語リーディング b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Anschluss an das Sommersemester wird vermehrt Wert auf das Lesen von authentischen Texten gelegt, die im entsprechenden Kontext der modernen Medienlandschaft Deutschlands behandelt werden. Eine Steigerung der Schwierigkeit im Laufe des Semesters ist vorgesehen. Es sollen abwechslungsreiche Texte verschiedener Textformen gelesen werden, um das Spektrum des Leseverständnisses der Lernenden dementsprechend zu erweitern.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	様々な種類の上級ドイツ語テキストを的確に読みこなし、内容を正確に理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von Lesetexten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Tests 70%		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks durch verschiedene Arten praktischer Übungen. Die Studierenden sollen lernen, sich zu verschiedenen Anlässen und in möglichst vielen unterschiedlichen Textsorten sorgfältig und korrekt auszudrücken. Dabei werden neben dem Inhalt vor allem auch Aspekte wie Satzbau, Formen und Stil berücksichtigt.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) liegt der Schwerpunkt dieses Kurses im weiteren Ausbau des schriftlichen Ausdrucks. Je nach Bedarf werden noch unbekannte Textsorten und Situationen behandelt bzw. bereits bekannte vertieft.</p> <p>Ziel ist es, die schriftlichen Ausdrucksmöglichkeiten der Studierenden so zu erweitern, dass sie auch schwierigere sprachliche Situationen bewältigen können.</p> <p>Zur Unterstützung des schriftlichen Ausdrucks können in angemessenem Umfang auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Hören oder Lesen einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben, zu einem großen Teil schriftlich, in verschiedenem Umfang, entsprechend den jeweiligen Kursinhalten.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein schriftlicher Test.		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. Im ersten Teil des Semesters werden Übungen zu häufig auftretenden Problemen bei der Anwendung der deutschen Sprache gemacht. Im zweiten Teil sollen die Teilnehmer dann zunächst Bilder, anschließend Bildergeschichten beschreiben. Zwei gemeinsame Besprechungen zur Fehleranalyse und Fehlervermeidung werden eingeschoben. Beide Teile enden mit einem Kurztest. Die Teilnehmer müssen grundsätzlich ihr Schreibmaterial (A-4-Papier, Stifte) sowie ein Wörterbuch (kein Smartphone!) dabei haben. Je nach Arbeitsauftrag sind Arbeiten am Ende der Stunde oder zu Beginn der nächsten Stunde einzureichen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs / Teil1 2. 1.1. Übungen zum Gebrauch der Artikel 3. 1.2. Übungen zum Gebrauch der Adjektive 4. 1.3. Übungen zur Satzstellung 5. 1.4. Übungen zum Gebrauch der Präpositionen 6. Kurztest zu Teil 1. / Beginn Teil 2 7. 2.1. Bildbeschreibung 8. 2.2. Bildbeschreibung 9. Gemeinsame Besprechung zu Fehlern in 2.1.-2.2. 10. 2.4. Bildergeschichte 11. 2.5. Bildergeschichte 12. 2.6. Bildergeschichte 13. Gemeinsame Besprechung zu Fehlern in 2.4.-2.6. 14. Kurztest zu Teil 2. 15. Rückblick und Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Der Unterricht muss durch Hausaufgaben nachgearbeitet bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden als Kopie in der Veranstaltung verteilt.		
評価方法	Zwei Kurztests (70%), aktive Mitarbeit im Unterricht inklusive abzugebender Arbeiten (30%)		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist die Verbesserung des schriftlichen Ausdrucks. Im ersten Teil des Semesters werden Übungen zur Bildung und Anwendung des Präteritums sowie temporaler Nebensätze gemacht. Anschließend sollen die Teilnehmer Märchen schreiben. Im zweiten Teil sollen die Teilnehmer den schriftlichen Ausdruck ihrer Position zu einem Diskussionsthema üben. Zwei gemeinsame Besprechungen zur Fehleranalyse und Fehlervermeidung werden eingeschoben. Beide Teile enden mit einem Kurztest. Die Teilnehmer müssen grundsätzlich ihr Schreibmaterial (A-4-Papier, Stifte) sowie ein Wörterbuch (kein Smartphone!) dabei haben. Je nach Arbeitsauftrag sind Arbeiten am Ende der Stunde oder zu Beginn der nächsten Stunde einzureichen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs / Teil 1 2. 1.1. Grammatikübungen: Präteritum (1) 3. 1.2. Grammatikübungen: Präteritum (2) 4. 1.3. Grammatikübungen: Temporale Nebensätze 5. 1.4. Ein Märchen schreiben (1) 6. 1.5. Ein Märchen schreiben (2) 7. 1.6. Gemeinsame Besprechung von Fehlern 8. Kurztest zu Teil 1 9. Teil 2: Einen Standpunkt schriftlich ausdrücken 10. 2.1. Thema 1 11. 2.2. Thema 2 12. 2.3. Thema 3 13. 2.4. Gemeinsame Besprechung von Fehlern 14. 2.5. Kurztest zu Teil 2 15. Rückblick und Evaluation des Semesters 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語で的確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Der Unterricht muss durch Hausaufgaben nachgearbeitet bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden als Kopie in der Veranstaltung verteilt.		
評価方法	Zwei Kurztest (70%), aktive Mitarbeit im Unterricht inklusive abzugebender Arbeiten (30%)		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist es die Fertigkeit Schreiben der Lernenden zu trainieren und zu verbessern. Zu Beginn sollen die Studenten mithilfe gesteuerter Übungen und dem Schreiben von Texten mit Formatvorgaben an das Schreiben herangeführt werden, um im späteren Verlauf des Unterrichts sich am kreativen Schreiben üben zu können. Die jeweiligen Textsorten werden im Plenum analysiert, um gemeinsam Merkmale herauszufiltern und die eigene Schreibe vorzubereiten. Aus diesem Grund werden zur Unterstützung der Fertigkeit Schreiben auch andere Fertigkeiten wie Lesen und Sprechen vorausgesetzt.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von geschriebenen Texten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Zwischentests, schriftliche Arbeiten 70%		

09年度以降	上級ドイツ語ライティング b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Inhalte des Sommersemesters sollen die Schreibfähigkeiten der Lernenden vertieft und ausgebaut werden. Neben klassischen Textsorten sollen im Unterricht auch moderne Textformen behandelt werden, wie sie zum Beispiel im Internet auftreten. Das kreative Schreiben wird einen Großteil des Unterrichts bestimmen. Die jeweiligen Textsorten werden im Plenum analysiert, um gemeinsam Merkmale herauszufiltern und die eigene Schreibe vorzubereiten. Aus diesem Grund werden zur Unterstützung der Fertigkeit Schreiben auch andere Fertigkeiten wie Lesen und Sprechen vorausgesetzt.</p> <p>Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit werden vorausgesetzt. Schwierigkeitsgrad, Progression und Inhalte können je nach durchschnittlichem Niveau der Lernenden variieren. Themenvorschläge sind willkommen und werden wenn möglich berücksichtigt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	手紙やEメール、レポートなどのタイプの異なる文章を、上級のドイツ語での確に表現できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung von geschriebenen Texten, ggf. Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 30%; Zwischentests, schriftliche Arbeiten 70%		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts ist es, Studenten auf verschiedene Kommunikationssituationen im Alltag und im Studium vorzubereiten.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, und Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Ich bin ... 3. Partnergespräch 4. Studium 5. Universität 6. Länder 7. Reisen 8. Essen & Trinken 9. Gesundheit 10. Sport 11. Hobbys/Freizeit 12. Musik 13. Sommer 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Unterrichts im zweiten Semester ist es, Spontanität und Redefluss zu verbessern. Die Themen und Kommunikationssituationen werden komplexer, und vermehrt Multimediabeiträge eingesetzt.</p> <p>Wortschatz und Sprachmittel leiten jede Unterrichtseinheit ein. Durch Hörverstehen, Diktate, und Paargespräche werden schrittweise die richtige Aussprache, Intonation, und Sprachmelodie eingeübt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutschland 3. Japan 4. Politik 5. Wirtschaft 6. Interview 7. Funk & Fernsehen 8. Film 9. Partnergespräche 10. Gesprächsanalyse 11. Präsentationsvorbereitung 12. Präsentationen 13. Präsentationen 14. Gruppendiskussion 15. Evaluation 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs soll das Sprechen gefördert werden. Hierzu werden zuerst Wortschatzübungen und danach gibt es zu diesem Thema ein Dialogmuster, das als Vorlage für das freie Sprechen dient. Die Dialogthemen kommen aus dem Alltagsgeschehen.</p> <p>Das Niveau der Dialoge entspricht dem A2 Niveau des Europäischen Referenzrahmens. Im Laufe des Semesters gibt es eine Steigerung zum B1 Niveau.</p> <p>Die Texte werden aus dem Buch „So geht s“ vom Klett Verlag genommen.</p> <p>In der vorletzten Stunde im Semester wird ein Test geschrieben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Lernen 2. Freizeit und Hobby 3. Tägliches Leben 4. Mode und Einkaufen 5. Feste und Musik 6. Beziehungen 7. Sport 8. Tiere 9. Essen und Trinken 10. Reisen und Urlaub 11. Gesundheit 12. Sprache und Ausbildung 13. Medien und Technik 14. Test. Arbeit und Beruf 15. Umwelt und Wohnen 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Sprechdialoge und die Redemittel zu Hause zu üben.		
テキスト、参考文献	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	R. メッツィング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Wintersemester wird auch das Sprechen gefördert. Hier wird die Sprachkompetenz auf den Niveaustufen A2-B1 geübt. Hierzu werden Sprechanlässe, die zur Vorbereitung auf die Start Deutsch 2 bzw. Zertifikat Deutsch Prüfungen dienen, benutzt.</p> <p>Die Texte werden aus dem Buch „Einfach sprechen!“ vom Klett Verlag genommen.</p> <p>Am Ende des Wintersemesters gibt es einen Test.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Worüber man spricht 2. Über mich und andere 3. Unterwegs 4. Ämter und Versicherungen 5. Einkaufen 6. Arbeit und Arbeitssuche 7. Medien 8. Gesundheit 9. Aus- und Weiterbildung 10. Kinder 11. Wohnen 12. Beispiel einer Start Deutsch2 Prüfung 13. Beispiel einer mündl. B1 Prüfung Teil a 14. Test 15. Beispiel einer mündl. B1 Prüfung Teil b 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Hausaufgabe besteht darin, die Sprechdialoge zu Hause zu üben.		
テキスト、参考文献	Es werden Kopien im Unterricht verteilt.		
評価方法	Die mündliche Beteiligung wird mit 40% und der Test mit 60% bewertet.		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist es die Fähigkeiten bereits fortgeschrittener Studierender im Hinblick auf die gesprochene Sprache zu trainieren und zu verbessern. Dabei sind neben Übungen, bei denen Sprachproduktionshandlungen im Mittelpunkt stehen, solche, die vor allem das Hörverstehen trainieren, zentral.</p> <p>Da im Kurs verschiedene Formen mündlicher Kommunikation im Vordergrund stehen wie z.B. (Gruppen- bzw. Pro- und Contra- sowie Plenums-) Diskussionen, Vorträge bzw. Präsentationen eigener Forschungsprojekte/Abschlussarbeiten, wird die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit vorausgesetzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Kursinhalte, Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 70%; Zwischentests, Hausaufgaben 30%		

09年度以降	上級ドイツ語スピーキング b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ziel des Kurses ist es die Fähigkeiten bereits fortgeschrittener Studierender im Hinblick auf die gesprochene Sprache zu trainieren und zu verbessern. Dabei sind neben Übungen, bei denen Sprachproduktionshandlungen im Mittelpunkt stehen, solche, die vor allem das Hörverstehen trainieren, zentral.</p> <p>Da im Kurs verschiedene Formen mündlicher Kommunikation im Vordergrund stehen wie z.B. (Gruppen- bzw. Pro- und Contra- sowie Plenums-) Diskussionen, Vorträge bzw. Präsentationen eigener Forschungsprojekte/Abschlussarbeiten, wird die Bereitschaft zur aktiven und konzentrierten Teilnahme am Unterricht sowie zur Gruppenarbeit vorausgesetzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung und Kursvorstellung 2. Einstiegsübungen 1 3. Einstiegsübungen 2 4. Thema 1 5. Thema 2 6. Thema 3 7. Thema 4 8. Thema 5 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Thema 9 13. Thema 10 14. Thema 11 15. Evaluation und Zusammenfassung 	
到達目標	与えられたテーマに関して、上級のドイツ語を用いて自らの考えを的確に口頭表現し、聞き手に伝達できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung der Kursinhalte, Hausaufgaben		
テキスト、参考文献	Unterrichtsmaterialien werden vom Kursleiter verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Teilnahme 70%; Zwischentests, Hausaufgaben 30%		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- /MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernseh-Bericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	R. ヘニング
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><i>Unterrichtsstruktur</i> Bewusstmachung des Themas, Vorabammlung von Vokabular (Assoziogramm) Verteilung der Aufgaben und MP3-/MP4-Dateien. Nach Bearbeitung jeweils eines Aufgabenblockes werden die Lösungen sowie der folgende Aufgabenblock verteilt. Die Inhalte und die Progression bestimmen sich aus dem durchschnittlichen Niveau der Teilnehmer.</p> <p><i>Themen (Auswahl)</i> Verwendet werden vom Kursleiter didaktisierte Materialien (MP3- /MP4-Dateien)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Telenovela Jojo 1 (33 Folgen): MP4 2. Liebe und Beziehungen (1): MP4 – Popsong 3. Liebe und Beziehungen (2): MP4 – Lorient-Sketch 1 4. Liebe und Beziehungen (3): MP4 – Lorient-Sketch 2 5. Liebe und Beziehungen (4): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 1 6. Liebe und Beziehungen (5): MP3 – Literarischer Text (Hörbuch) 2 7. Heimat und Erfahrung von Fremde (1): MP3/4 – Interview 8. Heimat und Erfahrung von Fremde (2): MP3/4 – Interview 9. Deutsche Kultur: MP3 – Radio-Interview 10. Japaner in Deutschland: MP4 – Fernsehbericht 11. Urlaub in Deutschland: MP3/MP4 – Fernsehbericht/Interviews 12. Deutsche Geschichte: Wiedervereinigung: MP4 – kritischer Popsong 13. Weihnachten in Deutschland (1): MP4 – Fernseh-Bericht 14. Weihnachten in Deutschland (2): MP4 – Lorient-Sketch 15. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (1) 16. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (2) 17. Folge einer deutschen Krimiserie (in drei Teilen): MP4 – Die Chefin (3) <p><i>Niveau</i> Das Niveau der vom Kursleiter zu den Materialien erstellten Aufgaben umfasst die Stufen A2 bis C1. Die Aufgaben zielen auf Festigung und Ausbau des Hörverstehens auf der Makroebene (Erfassen des Themas / Beschreibung von Atmosphäre und Stimmung, Schütteltext etc.) sowie auf der Mikroebene (Detailverstehen: Fragen zum Vokabular, Lückentext, Diktat etc.).</p> <p><i>Arbeitsformen</i> Themenvorbereitung durch Diskussion in Plenum Bearbeitung der Aufgaben in Einzelarbeit</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Thema 1 3. Thema 2 4. Zwischentest I 5. Thema 3 6. Thema 4 7. Thema 5 8. Zwischentest II 9. Thema 6 10. Thema 7 11. Thema 8 12. Zwischentest III 13. Thema 9 14. Thema 10 15. Zwischentest IV 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vor- und Nachbereitung des Unterrichtsinhalts		
テキスト、参考文献	Vom Kursleiter erstellte Lehrmaterialien werden zu Beginn jeder Veranstaltung verteilt		
評価方法	Beurteilung aufgrund kleiner schriftlicher und mündlicher Zwischenprüfungen zu den behandelten Texten 40%、Beteiligung am Unterrichtsgeschehen 60% (Regelmäßige Teilnahme wird vorausgesetzt!!!)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) a	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Verbesserung des Hörverstehens ist das Hauptziel des Kurses. Der Kurs richtet sich hierbei insbesondere an Teilnehmer im dritten und vierten Studienjahr. Das inhaltliche Thema des Kurses in diesem Semester bilden Ereignisse in der Weimarer Republik aus den Bereichen Kultur, Gesellschaft und Technik. Diese werden mit Aufzeichnungen aus Radioprogrammen vorgestellt. Die Teilnehmer sollen diese Audio-Dateien sowohl „sprachlich“ als auch „inhaltlich“ verstehen. Vorkenntnisse zur Weimarer Republik sind nicht erforderlich.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven Mitarbeit werden erwartet. Die Dateien der Hörtexte (MP3) können nach jeder Stunde vom Uni-Computer heruntergeladen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung in den Kurs / (1919) Bauhaus 2. (1920) Bonbonkocherei Haribo 3. (1921) AVUS in Berlin 4. (1922) Stummfilm „Nosferatu“ 5. (1923) George Grosz´ „Ecce Homo“ 6. (1925) Massenmörder Fritz Haarmann 7. (1926) Josephine Baker in Berlin 8. (1927) Friedensnobelpreis an Ludwig Quidde 9. (1928) Brechts „Dreigroschenoper“ 10. (1928) Max Valiers Raketenmobil 11. (1929) Luftschiff „Graf Zeppelin“ 12. (1930) Kinofilm „Im Westen nichts Neues“ 13. (1931) Kurt Kucholskys „Soldaten sind Mörder“ 14. (1932) Der „Fliegende Hamburger“ 15. Rückblick und Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten müssen durch Hausaufgaben wiederholt bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
評価方法	Kurze Tests (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht inklusive Hausaufgaben (20%)		

09年度以降	上級ドイツ語リスニング(CAL) b	担当者	S.メルテンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Verbesserung des Hörverstehens ist das Hauptziel des Kurses. Der Kurs richtet sich hierbei insbesondere an Teilnehmer im dritten und vierten Studienjahr. Das inhaltliche Thema des Kurses in diesem Semester bilden Ereignisse in Deutschland zwischen 1945 und 1949. Diese werden mit Aufzeichnungen aus Radioprogrammen vorgestellt. Die Teilnehmer sollen die Audio-Dateien sowohl „sprachlich“ als auch „inhaltlich“ verstehen. Vorkenntnisse zur Vorgeschichte der Bundesrepublik Deutschland sind nicht erforderlich.</p> <p>Interesse an der Zielsetzung des Unterrichts und die Bereitschaft zur aktiven Mitarbeit werden erwartet. Die Dateien der Hörtexte (MP3) können nach jeder Stunde vom Uni-Computer heruntergeladen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.-2. Einführung in den Kurs / Thema: Die Potsdamer Konferenz 3.-4. Thema: Deutschland nach 1945 5.-6. Zwischentest (I) zu 1-4 / Deutsche Flüchtlinge 7.-8. Zwischentest (II) zu 5-6 / Thema: Die Nürnberger Prozesse 9.-10. Zwischentest (III) zu 7-8 / Mythos Trümmerfrauen 11.-12. Zwischentest (IV) zu 9-10 / Die Berliner Luftbrücke 13.-14. Zwischentest (V) zu 11-12 / Die Währungsreform 15. Rückblick und Evaluation des Semesters 	
到達目標	会話や読み上げられた上級のドイツ語文章を聞き取り、理解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Unterrichtseinheiten müssen durch Hausaufgaben wiederholt bzw. vorbereitet werden.		
テキスト、参考文献	Materialien für den Unterricht werden als Kopien im Kurs verteilt.		
評価方法	Kurze Tests (80%), aktive Mitarbeit im Unterricht inklusive Hausaufgaben (20%)		

09年度以降	中世ドイツ語 a	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dieser Unterricht soll in die Lage versetzen, mittelhochdeutsche Texte lesen und übersetzen zu können.</p> <p>Neben der systematischen Beschreibung des Mittelhochdeutschen (Erwerb solider Grammatikkenntnisse) wird die historische Stellung des Mittelhochdeutschen innerhalb der Geschichte der deutschen Sprache besonders berücksichtigt, speziell die semantische Entwicklung, die Bedeutungsdifferenz mittelhochdeutscher und gegenwartsprachlicher Wörter, die syntaktischen und morphologischen Unterschiede sowie Genitivkonstruktionen, Negation, Formen der Verben).</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Was ist MHD? 2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache? 3. Ritterlich-höfische Welt 4. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5. Hartmann von Aue, Iwein 6. Hartmann von Aue, Erech 7. Bäuerliche Welt 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 9. Wittenwiler, Der Ring 10. Heldenepik 11. Nibelungenlied 1 12. Nibelungenlied 2 13. Nibelungenlied 3 14. Nibelungenlied 4 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	中世ドイツ語 b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Aus der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, der ersten Blütezeit der deutschsprachigen Literatur, sind viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen.</p> <p>Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.</p>		<p>Die Texte und Themen werden in Absprache mit den Teilnehmern festgelegt. Möglich ist:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hartmann von Aue, Iwein 1 2. Hartmann von Aue, Iwein 2 3. Hartmann von Aue, Iwein 3 4. Hartmann von Aue, Iwein 4 5. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 1 6. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 2 7. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 3 8. Wernher der Gartenaere, Helmbrecht 4 9. Wolfram von Eschenbach, Parzival 1 10. Wolfram von Eschenbach, Parzival 2 11. Wolfram von Eschenbach, Parzival 3 12. Wolfram von Eschenbach, Parzival 4 13. Wolfram von Eschenbach, Parzival 5 14. Wolfram von Eschenbach, Parzival 6 15. Wiederholung 	
到達目標	中世ドイツ語圏の文化の基礎、中世ドイツ語の基本文法を理解し、基本的な文章を読解できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Wiederholung, eventuell Übersetzung ins Japanische (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, werden in der ersten Stunde bzw. im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Test		

09年度以降	ビジネスドイツ語 a	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">Gut im Geschäft</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Kontaktaufnahme: E-Mail 3. Kontaktaufnahme: Smalltalk 4. Kontaktaufnahme: Telefon 5. Arbeitsplatz: Büro 6. Arbeitsplatz: Computer 7. Arbeitsplatz: Bewerbungen 8. Werbung/Marketing 9. Werbung in Japan 10. Werbung in Deutschland 11. Produktpräsentation 12. Statistiken 13. Standort 14. Finanzwelt 15. Evaluation 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	ビジネスドイツ語 b	担当者	D. H. マッコイ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">Gut im Geschäft II</p> <p>Ziel dieses Unterrichts ist es, die Studenten auf verschiedene Geschäftssituationen vorzubereiten - von der Korrespondenz bis zur Konferenz, von dem Vortrag bis zum Vorstellungsgespräch.</p> <p>Wortschatz und Übungen sind aktuell, themenbezogen und praxisnah, und werden durch Rollenspiele, Mini-Diskussionen und Multimedia-Beiträge ergänzt.</p> <p>Themenschwerpunkt ist die Vorbereitung und Durchführung einer eigenen Präsentation zu einem Wirtschaftsthema.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Deutsche Wirtschaft 3. Japanische Wirtschaft 4. Ländervergleich Wirtschaft D/JAP 5. Firmenbesuch 6. Geschäftsreise 7. Konferenzen/Seminare 8. Interkulturelle Kommunikation 1 9. Interkulturelle Kommunikation 2 10. Interkulturelle Kompetenz 11. Präsentation: Software 12. Präsentation: Vorbereitung 13. Studenten-Präsentationen 14. Studenten-Präsentationen 15. Evaluation 	
到達目標	ビジネスの場面で使われるドイツ語を理解し、かつ応用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業前：テキストの指示された部分の予習（単語調べ、翻訳、内容理解等） 授業後：授業の復習および宿題/課題		
テキスト、参考文献	Das Material wird zur Verfügung gestellt.		
評価方法	授業への積極的な参加と作文によって評価します		

09年度以降	上級英語	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。春・秋学期のいずれか、または両学期の履修が可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った、基礎的なアカデミック英語の力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。授業活動は全て英語です。</p> <p>ドイツ語圏について各自またはグループで興味のあるテーマを選び、図書館やインターネットで、新聞・学術雑誌・オンライン記事などの文献を調査します。内容を理解し、批判的に考え、テーマの研究動向を整理して自分の意見を表現できるようにします。文化、芸術、歴史、政治、経済、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <p>アカデミックな言語技能としては、図表の説明や研究論文でよく使われる表現、論展開のまとめ方を学びます。研究の成果は1000-2000語の短い論文にまとめ授業で発表します。</p> <p>英語力の目安： TOEIC 500点。German Studies in English I、またはAcademic Writing I を履修し、英語パラグラフライティングの基礎を理解していることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Choosing and narrowing a topic 3. Library database guidance 4. Reading academic articles 5. Outline and Thesis statement 6. Writing an Introduction 7. Peer editing session 8. Summary, paraphrase, citation 9. Writing Body sections 10. Peer editing session 11. Tutorials 12. Writing a Conclusion 13. Presentation skills 14. Final presentations 15. Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の授業後、教材の指定箇所での学習や、資料調査・発表準備などの課題を行う。前回授業で課された宿題・課題の完了を前提に次回授業が進められる。		
テキスト、参考文献	教科書：第1回目の授業で説明。補助教材はMyDOCで配布する。		
評価方法	授業参加・貢献 20% 課題 20% 発表 20% リサーチペーパー 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	上級英語	担当者	飯島 優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語学科の3年次以上の学生を対象とする外国語科目です。春・秋学期のいずれか、または両学期の履修が可能です。</p> <p>Academic Reading/Listening Strategies I-IIで培った、基礎的なアカデミック英語の力を、専門的なテーマの研究、プレゼンテーション、論文作成に応用し、英語のリサーチスキルを習得することを目的とします。授業活動は全て英語です。</p> <p>ドイツ語圏について各自またはグループで興味のあるテーマを選び、図書館やインターネットで、新聞・学術雑誌・オンライン記事などの文献を調査します。内容を理解し、批判的に考え、テーマの研究動向を整理して自分の意見を表現できるようにします。文化、芸術、歴史、政治、経済、メディアなど、専門分野やゼミの内容と関連付けることも可能です。</p> <p>アカデミックな言語技能としては、図表の説明や研究論文でよく使われる表現、論展開のまとめ方を学びます。研究の成果は1000-2000語の短い論文にまとめ授業で発表します。</p> <p>英語力の目安： TOEIC 500点。German Studies in English I、またはAcademic Writing I を履修し、英語パラグラフライティングの基礎を理解していることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. Choosing and narrowing a topic 3. Library database guidance 4. Reading academic articles 5. Outline and Thesis statement 6. Writing an Introduction 7. Peer editing session 8. Summary, paraphrase, citation 9. Writing Body sections 10. Peer editing session 11. Tutorials 12. Writing a Conclusion 13. Presentation skills 14. Final presentations 15. Research paper submission & Self-evaluation 	
到達目標	ドイツ語圏の時事をテーマとして、英語の「読み」「書き」「話す」「聞く」という、言語の4つの能力を2年次より総合的に伸長し、運用できるようにする。		
事前・事後学修の内容	図書館、インターネットおよびアンケートなどによるリサーチ。各週の課題は授業内の指示に従うこと。		
テキスト、参考文献	教科書：第1回目の授業で説明。補助教材はMyDOCで配布する。		
評価方法	授業参加・貢献 20% 課題 20% 発表 20% リサーチペーパー 40% ※原則として4回以上欠席した学生は成績評価対象とならない。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅰ	担当者	黒田 多美子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目) 1) ドイツ語学科の学生として必要不可欠な、ドイツ語圏に関する基礎知識を習得する。 2) 「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。 3) 文献の検索方法、論文の一般的な形式、構造、読み方を学び、レポート作成についての基本的知識と技術を習得する。</p>		<p>毎回、異なる担当者が、それぞれの専門分野の視点から、ドイツ語圏に関する基礎知識を講義します。また、論文の読み方やレポートの書き方、自分のテーマに関連する文献、新聞記事、雑誌記事の検索方法を学びます。そして、学んだことを実際に運用するために、「中間レポート」を作成し、提出します。</p> <p>第1回の授業で、春学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト、参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」と「中間レポート」に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏入門Ⅱ	担当者	黒田 多美子 (コーディネータ)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) これからみなさんがドイツ語学科で専門的に学ぶための基礎を習得します。また、自分の関心領域と今後のテーマを発見し、それを調査・研究するために必要となる知的技術、批判的思考力の獲得を目指します。</p> <p>(重点項目) 1) 特定のテーマについて様々なアプローチから学ぶことによって、ドイツ語圏への関心を高め、ドイツ語やドイツ語圏について学ぶ意義を確認する。 2) 「ドイツ語概論」「ドイツ語圏文学・思想概論」「ドイツ語圏芸術・文化概論」「ドイツ語圏現代社会概論」「ドイツ語圏歴史概論」と並行して履修することにより、これからドイツ語学科で学ぶ内容の全体像(見取り図)を把握し、将来の専攻分野やテーマ選択の手掛かりをつかむ。</p>		<p>秋学期は大きくふたつのパートに分かれています。ひとつ目のパートでは、共通テーマを設定し、そのテーマに毎回異なる担当教員がそれぞれの視点から迫っていきます。</p> <p>ふたつ目のパートでは、上級生、卒業生、外部講師による講演を通じて、ドイツ語学科での学習が将来どのように生きてくるかを学びます。</p> <p>第1回の授業で、秋学期の講義計画表を配布し、履修にあたっての注意事項、評価方法などを説明します。必修授業ですので、第1回から出席をとります。</p> <p>授業に関連する連絡事項を、教務課のドイツ語学科掲示板でお知らせすることがありますので、毎回必ず確認してください。</p>	
到達目標	ドイツ語圏に関する必要最低限の知識と、大学で学んでいく上で必要な技能を習得し、入門的なドイツ語圏の研究分析ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	詳しくは初回授業時に指示しますが、授業後にはしっかりと復習し、知識を定着させてください。		
テキスト、参考文献	原則として、毎回担当者が授業レジュメ(プリント)を配布します。		
評価方法	毎回の講義内容についての「授業レポート」に基づいて評価します。		

09年度以降	基礎演習 I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次の「ドイツ語圏入門」で修得した、ドイツ語圏に関する基礎知識をベースに、2年次の「基礎演習」では、「知のスキル」を高め、3年次以降の専門演習に向けた準備を目標にします。</p> <p>「知のスキル」とは、具体的には以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テキストを正確に理解する力 ② 論理的に思考する力 ③ 発表する力（プレゼンテーション） ④ 議論する力（ディスカッションやディベート） ⑤ 書く力（レポート執筆） ⑥ 調べる技術（文献・情報検索術） ⑦ 議論をまとめる力（議事録作成） <p>春学期は、共通テキストの輪読をもとに討論し、テキストのテーマに基づくレポートを2度、提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマⅠ：テキスト輪読とディスカッション① 3. 同② 4. 同③ 5. 同④、中間レポート課題提示 6. 同⑤ 7. 同⑥ 8. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション①、中間レポート提出 9. 同② 10. 同③ 11. 中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 12. テーマⅡ：テキスト輪読とディスカッション④ 13. 同⑤ 14. 同⑥ 15. 秋学期の準備（グループ分け、テーマ決定等） <p>* さらに詳しい授業計画は、第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト、参考文献	各担当教員による指示。		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	基礎演習Ⅱ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、「グループ発表」と「個人発表」を行い、適宜ディスカッションやディベートなども取り入れながら、「知のスキル」を高めることを目的とします。</p> <p>前半は、教員と学生が相談の上で決めた「ドイツ語圏に係るテーマ」について、4から5名ひとくみのグループごとに調査し発表します。後半は、グループ発表で扱ったテーマを、各個人がさらに深めるような形で、「個人発表」を行います。</p> <p>* 「グループ発表」「個人発表」の順序、やり方は、クラスの状況に応じて変更する可能性もあります。3年次からの専門演習で扱うテーマを意識しながら、自分のテーマを絞っていきます。また、演習の内容に即して中間、期末のレポートを2回提出してもらいます。</p> <p>* なお、3年次以降の「専門演習」の履修は、「ドイツ語圏入門Ⅰ・Ⅱ」、および「基礎演習ⅠまたはⅡ」を履修済みであることが条件となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、春学期末レポート返却・講評 2. グループ発表① 3. 同② 4. 同③、中間レポート課題提示 5. 同④ 6. 個人発表① 7. 同② 8. 同③、中間レポート提出 9. 同④ 10. 同⑤ 11. 同⑥ 12. 同⑦、中間レポートの返却と講評、期末レポート課題提示 13. 同⑧ 14. 同⑨ 15. 同⑩、まとめ <p>* さらに詳しい授業計画は第1回オリエンテーションで配布・説明します。</p>	
到達目標	文献の内容要約や、自分の考えをグループおよび個人で口頭で発表し、さらにレポートとしてまとめ提出できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各クラス教員によって指定されたテキストを事前に精読し、積極的にディスカッションに参加してください。授業後には、各回のプレゼンテーションで指摘された点を復習し、学んだことを自分の発表に反映して行ってください。		
テキスト、参考文献	各担当教員による指示。		
評価方法	授業参加（発表・討論）、レポートから総合的に判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では通訳者や旅行ガイド、国際会議などを企画運営するコンGRESS・オーガナイザーなど日独の両言語を使う仕事に就くことを考えている学生を対象に、通訳者に求められる語学力の習得方法やキャリアプランの立て方、基本的な通訳スキルの紹介などをしていきます。</p> <p>通訳は音声で情報を伝える仕事なので、発音の改善に取り組めます。また必須のスキルである記憶力の強化も図っていきます。短期間の練習で実際の業務に対応できる通訳者になることはできませんが、授業を通して中・長期的な学習プランを考えることができるように指導します。</p> <p>通訳者の仕事は高い職業意識と責任感を要求されます。明確な目標と積極的な勉学の姿勢を持った学生の受講を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進度計画と目標の紹介 2. 通訳者の仕事と求められる能力 3. 自分の語学力の検証と課題の発見 4. 通訳スキルとは何か 5. 記憶力(メモリー)トレーニング 6. 通訳に必要な背景知識とLandeskunde 7. プレゼンテーション 8. 発音課題のチェック 9. 内容理解の強化 - 要約練習 10. 内容理解の強化 - パラフレーズ練習 11. 逐次通訳の練習 - ドイツ語から日本語へ 12. 逐次通訳の練習 - 日本語からドイツ語へ 13. ドイツ語運用力の課題と解決 14. 通訳者へのキャリアパスを考える 15. 春学期のまとめと到達目標の確認 	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の予習や下調べ、事後の課題と継続的な発音改善の練習があります。		
テキスト、参考文献	テキストは主にプリントを授業で配布します。必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への参加度(40%)、課題の達成度(40%)、学習目標の総合的な達成度(20%)を考慮して判断します。		

09年度以降	通訳特殊演習	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は春学期と同様に、日独の両言語を使う職業に就くことを考えている学生を対象に、主に通訳者を念頭において、その仕事の内容と求められる語学力や技術を紹介していきます。</p> <p>秋学期では春学期からの継続履修者もいるので、職業紹介などは最小限度に留め、主に語学力の強化に努めていきます。課題は発音の改善、情報の要約、背景知識の深化などになります。能動的な練習を通して、課題を消化していくことを求めます。</p> <p>履修に必要な条件は春学期と同じく、明確な目標と積極的な勉学の姿勢です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進度計画と目標の紹介 2. 自分の語学力の検証と課題の発見 3. 通訳に必要な背景知識とLandeskunde 4. 通訳スキルとは何か 5. 記憶力(メモリー)トレーニング 6. 内容理解の強化 - 要約練習(1) 7. 内容理解の強化 - 要約練習(2) 8. 発音課題のチェック 9. 日本語をドイツ語へ訳す準備(1) 10. 日本語をドイツ語へ訳す準備(2) 11. 逐次通訳の練習 - ドイツ語から日本語へ 12. 逐次通訳の練習 - 日本語からドイツ語へ 13. ドイツ語運用力の課題と解決 14. 中・長期の学習計画を考える 15. 秋学期のまとめと到達目標の確認 	
到達目標	ドイツ語通訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語通訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の予習や下調べ、事後の課題と継続的な発音改善の練習があります。		
テキスト、参考文献	テキストは主にプリントを授業で配布します。必要に応じて参考文献リストを挙げます。		
評価方法	授業への参加度(40%)、課題の達成度(40%)、学習目標の総合的な達成度(20%)を考慮して判断します		

09年度以降	翻訳特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、実践的な練習です。「翻訳」は、中学校以来ずっと教室で知っている「訳読」とは違います。テキストの表面の単語を日本語にして並べるのではなく、原文の内容をきちんと理解した上で、読みやすく完成した日本語で表現する作業です。原文が「正確に分かる」ことが前提ですが、状況や内容に合わせた日本語の表現や専門用語を見つけ出すことも必要になります。</p> <p>ですから、その場でシドロモドロに訳すのではなく、前もって内容や表現を調べて完成した日本語に訳す練習をします。最初は、短くやさしいドイツ語テキストを用いて翻訳の基本と問題を理解してもらいます。少し慣れたらテキストの訳を授業の前日にメールで送ってもらい、授業ではそれを整理して教室のプロジェクターで映し出して、みんなで検討します（どの訳が、誰のものなのかは分からないように配慮します）。確実に力がつきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入と簡単な練習 2. 練習2 問題点の整理と調べ方 3. 第1課題の検討 4. 第2課題の検討 5. 第3課題 6. 第4課題 7. 第5課題 8. 第6課題 9. これまでのまとめ 10. 第7課題 11. 第8課題 12. 第9課題 13. 第10課題 14. 第11課題 15. まとめと今後の練習法 	
到達目標	ドイツ語翻訳の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語翻訳ができるようにする。		
事前・事後学修の内容	12行から20行くらいの課題を毎週送ります。それを各自が日本語に訳し、メールで前日夜の10時までに返送してください。		
テキスト、参考文献	毎週、課題を送信します。		
評価方法	12課題のうち10回前後の訳を提出した学生に、その結果に応じて成績を出す。試験・レポートはなし。		

09年度以降	インターンシップ特殊演習	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Der Unterricht bereitet auf ein Firmenpraktikum und den Aufenthalt bei einer Gastfamilie in Deutschland vor, er vermittelt Hintergrundwissen über Deutschland und die deutsche Gesellschaft, über Gewohnheiten, Handlungsweisen und Erwartungen deutscher Firmen und deutscher Familien.</p> <p>Wir üben u.a. Gespräche (Gesprächsstrategien) mit Kollegen und Chefs, Telefongespräche, schreiben E-Mails und Geschäftsbriefe, lernen wichtige Ausdrücke des Wirtschaftsdeutsch und üben, wie man z. B. Vorschläge macht und in Problemsituationen seine Meinung deutlich ausdrückt.</p> <p>Festlegung des Unterrichtsplans in Absprache mit den Teilnehmern und auf Basis der Erfahrungen früherer InternshipteilnehmerInnen.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 2. Was ist eigentlich ein Praktikum? 3. Lebenslauf 4. Bewerbungs-, Motivations-Schreiben 5. Selbstvorstellung, Homestay 6. Hintergrundwissen über Deutschland 7. Gesellschaft 8. Gesellschaft 9. Firmen, andere Praktikumsstellen 10. Leben in Deutschland 11. Kontakt mit Kollegen, Chefs 12. Verhalten in der Praktikumsstelle 13. Wirtschaftsdeutsch 14. Wirtschaftsdeutsch 15. Zusammenfassung 	
到達目標	ドイツ語圏のインターンシップに必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏での働き方や自己の職能・適性等を発見できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitung von Texten, Hausaufgaben, eventuell auch im Team; jeweils ca. 90 Minuten Vor- und nachbereitung, Wiederholung		
テキスト、参考文献	Kopien, werden zu Beginn des Semesters oder vor der nächsten Unterrichtsstunde verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Aufgaben, Test.		

09年度以降	留学準備特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs können Sie sich inhaltlich und sprachlich auf ein Fachstudium in Deutschland, Österreich oder der Schweiz (D-A-CH) vorbereiten. Sie erweitern Ihr Wissen über Kultur und Gesellschaft der drei Länder, Sie lernen mehr über praktische Probleme des Lebens an der Universität und Sie beschäftigen sich mit kommunikativen Situationen, die man während eines Auslandsstudiums erleben kann. Dabei nutzen wir auch die Erfahrung älterer Dokkyo-Kommilitonen und den Rat von Austauschstudierenden. Sprachlich lernen Sie, in Situationen rund ums Studium zu handeln, aber auch wie man Nicht-Japanern etwas über Japan erklären kann. Natürlich lernen Sie auch viel Fachwortschatz zum Thema Studium u.a. Die Kurssprache ist Deutsch.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Universitäten in D-A-CH (Deutschl.-Österr.-Schweiz) 3. Studieren in D-A-CH 4. Situationen an der Universität 5. Wohnen in D-A-CH 6. Studentenleben 7. Gesellschaft und Kultur in D-A-CH 8. Probleme und ihre Lösung 9. Japan erklären: Gesellschaft 10. Japan erklären: Kultur 11. Fragerunde mit deutschen Studierenden/Experten 12. Präsentationen (1) 13. Präsentationen (2) 14. Präsentationen (3) 15. Fazit, Kursabschluss 	
到達目標	ドイツ語圏の留学生活に必要な知識等を習得するとともにドイツ語応用力を高め、ドイツ語圏大学への長期留学に必要な要件を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine kleine Hausaufgabe. Z. B. lesen Sie einen kurzen Text und präsentieren Ihrer Gruppe die wichtigsten Informationen. Außerdem: Inhalte und Wortschatz wiederholen!		
テキスト、参考文献	Materialien werden im Kurs verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit, schriftliche Hausaufgaben, eine Präsentation, Minitests.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>SCHWERPUNKT: SPRACHLICHES LERNEN In diesem Kurs trainieren Sie autonomes Lernen im <i>Tandem</i>. Ihre Lernziele für diesen Kurs bestimmen Sie. Wir arbeiten zusammen mit Japanologie-Studierenden der Universität Halle. Alle Teilnehmer bekommen eine(n) Partner(in). Sie treffen sich einmal in der Woche auf <i>Skype</i>, um auf Deutsch und Japanisch zu kommunizieren und so an Ihren Lernzielen zu arbeiten. Über Ihre Erfahrungen dabei berichten Sie im Kurs. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von mindestens A2 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen.</p> <p>この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で(4月10日)履修選抜を行いますので、必ず参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. <i>Erste Videokonferenz: Kennenlernen</i> 3. Ihre Lernziele 4. Berichte aus den Tandems: Ihre Partner/-innen 5. Berichte aus den Tandems: Ihre Themen 6. <i>Zweite Videokonferenz: Themen im Tandem</i> 7. Ihre Lernziele: Zwischenfazit 8. Vorbereitung der dritten Videokonferenz 9. <i>Dritte Videokonferenz: Arbeit im Tandem</i> 10. Berichte aus den Tandems: Ihre Zusammenarbeit 11. Vorbereitung der vierten Videokonferenz (1) 12. Vorbereitung der vierten Videokonferenz (2) 13. <i>Vierte Videokonferenz: Kulturen im Vergleich</i> 14. Kursfazit 15. Zukunftspläne 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch. Sie bereiten mündliche Berichte vor oder berichten schriftlich auf dem Kursblog.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und in den Tandems, die Beiträge auf dem Blog sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>SCHWERPUNKT: FACHLICHES LERNEN Dieser Kurs ist ein <i>Fachkurs</i>, der gemeinsam mit der Japanologie der Universität Halle veranstaltet wird. Sie beschäftigen sich vergleichend mit gesellschaftlichen Fragen in Deutschland und Japan. Dabei lernen Sie, mit deutschen Studenten an einem <i>Forschungsprojekt</i> zu arbeiten und das Ergebnis zu präsentieren. Sie treffen sich einmal in der Woche mit Ihren Partnern in Halle auf <i>Skype</i>, um an Ihrem Thema zu arbeiten. Wenn Sie teilnehmen möchten, sollten Sie: - ein Sprachniveau von mindestens B1 haben - motiviert sein, außerhalb des Unterrichts ein Mal pro Woche mit Ihrem Partner zu skypen.</p> <p>この授業の定員は10人前後です。第一回目の授業で(9月25日)履修選抜を行いますので、必ず参加して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Einstieg ins Kursthema 3. <i>Erste Videokonferenz: Kennenlernen</i> 4. Überblick über das Kursthema 5. Ihr Thema, Ihre Fragestellung 6. Situation in Deutschland 1 7. Situation in Deutschland 2 8. Situation in Deutschland 3 9. Situation in Deutschland 4 10. Situation in Deutschland 5 11. <i>Zweite Videokonferenz: Präsentationen</i> 12. <i>Dritte Videokonferenz: Präsentationen</i> 13. <i>Vierte Videokonferenz: Präsentationen</i> 14. Kursfazit 15. Zukunftspläne 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Teilnehmer führen wöchentlich einen Skype-Chat mit ihrem Partner/ihrer Partnerin durch, für den sie selbstständig Informationen recherchieren, und kommunizieren auf der Kursplattform.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt bzw. von den Teilnehmenden selbst recherchiert.		
評価方法	Bewertet werden die regelmäßige, aktive Mitarbeit am Unterricht und die Zusammenarbeit mit den Partnern in Halle, die Beiträge auf der Kurs-Plattform sowie die Präsentation.		

09年度以降	外国語教育特殊演習	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語教育を考えるために、「何を求めるか」、「そのためには、どう学ぶか」を原点に立ち返って考えています。</p> <p>そのためいろいろな課題を意識的に体験し、それをもとに「学び方」を考えてもらいます。春学期に行うような翻訳も取り入れ、さらに音声テキストを使ったヒアリングなども同じような形式で練習します。これらの練習を通じて、ボキャブラリーや文構造の理解、主張や真意の表現法、テキストの大きな流れ（文脈）の取り方などを学びながら、外国語教育の問題点を考えていきます。</p> <p>このため、かなりの「宿題」を出します。今後、ドイツ語を学ぶためにも、また外国語の教育に携わる場合にも、必ず役立つ経験になりますから、意欲のある学生の積極的な参加を期待しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入とその場での練習 2. その場での練習2 問題点の整理と調べ方 3. 第1課題の検討 4. 第2課題の検討 5. 第3課題 6. 第4課題 7. 第5課題 8. 第6課題 9. これまでのまとめ 10. 第7課題 11. 第8課題 12. 第9課題 13. 第10課題 14. 第11課題 15. まとめと今後の練習法 	
到達目標	ドイツ語教育の理論と実践を理解するとともにドイツ語応用力を高め、外国語教育、とりわけドイツ語教育に携わるうえで必要な素養を備えることができるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎週、いろいろな形の課題を送るので、授業前日の10時までにメールで返信。		
テキスト、参考文献	毎週、課題を送信。		
評価方法	12課題のうち10回前後の訳を提出した学生に、その結果に応じて成績を出す。試験・レポートはなし。		

09年度以降	ドイツ語概論 a	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るといったような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論とだぶる部分も出てくると思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ことばの不思議-導入と年間計画 ことばの不思議 (1) ことばの不思議 (2) ことばの不思議 (3) ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1) ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2) それってドイツ語-ドイツ語の方言 文法のお話 (1) -品詞ってなに 文法のお話 (2) -木を見て森を見ず 文法のお話 (3) -パンドラの箱 辞書は大きなおもちゃ箱 言語というブラックホール 言語のたのしみ まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト、参考文献	適時講義で指示		
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題		

09年度以降	ドイツ語概論 b	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。</p> <p>講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るといったような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 言語は怪人二十面相 言語学の歴史 音の世界-音声学・音韻論 形にこだわって-形態論 文の組み立てについて-統語論 意味って何 (1) -意味論 意味って何 (2) -意味論 言語は生き物 (1) -実用論 言語は生き物 (2) -実用論 言語と社会-社会言語学 言語と心-言語心理学あるいは認知 言語研究への道 言語研究への道 まとめ まとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索		
テキスト、参考文献	適時講義で指示		
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 a	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目標とします。</p> <p><講義概要> イマヌエル・カントのエッセイ「啓蒙とは何か？」を読んで当時の人間観について概観したのちに、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読んでいきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カント『啓蒙とは何か』を読む 3. カント『啓蒙とは何か』を読む／「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 4. 「啓蒙」によって得られるもの、失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは？ 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11. 『ファウスト』第二部、最終場面について 12. 『魔笛』を見る 13. 『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫		
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20％）と、学期末の筆記試験（80％）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏文学・思想概論 b	担当者	渡部 重美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとについていくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目標とします。</p> <p><講義概要> 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. メルヒェン (1) 3. メルヒェン (2) 4. メルヒェン (3) 5. ドイツの詩 (1) 6. ドイツの詩 (2) 7. ドイツの詩 (3) 8. ドイツの詩 (4) 9. ドイツの小説 (1) 10. ドイツの小説 (2) 11. ドイツの小説 (3) 12. ドイツのドラマ (1) 13. ドイツのドラマ (2) 14. ドイツのドラマ (3) 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の文学・思想に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	次の文献を事前に読み、あらかじめドイツ文学史を概観しておくといいいでしょう。 手塚富雄、神品芳夫『増補 ドイツ文学案内』岩波文庫		
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。		
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20％）と、学期末の筆記試験（80％）により評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 a	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、これまで一通りドイツ語文法を学んできた皆さんが、より深くことばの世界を知り、調査、研究するために、基礎となる概念を解説します。</p> <p>春学期は、語や文がどのような仕組みで成り立っているのかという疑問から出発して、具体例を見ながら、ドイツ語の文法的特徴を一緒に考えていきたいと思います。また、ドイツ語の歴史や、地域的なヴァリエーションについても概観します。</p> <p>授業では、ドイツ語の例示を中心としますが、必要に応じて、他言語との比較も行います。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語の歴史の変遷 3. ドイツ語の地域的ヴァリエーション 4. 言語学の対象と各分野 5. 形態論 1 形態論の対象 6. 形態論 2 形態素 7. 形態論 3 語形変化 8. 形態論 4 語形成 9. 形態論 5 語形成 10. 統語論 1 統語論の対象 11. 統語論 2 統語構造 12. 統語論 3 構成素 13. 統語論 4 語順 14. 統語論 5 格 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください		
テキスト、参考文献	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		
評価方法	毎回の「授業レポート」(50%)と、最終回に実施する筆記試験(50%)に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の言語 b	担当者	黒子 葉子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期には、主に語や文の内部構造を観察しましたが、秋学期には、語や文の示す意味や、実際の運用の仕方、コミュニケーション上の意図などを分析します。</p> <p>春学期の講義内容を理解していることを前提にお話ししますが、秋学期からの履修も歓迎します。</p> <p>秋学期も、多くの例を見ながら、みなさんに考えてもらう形で進めていきます。それによって、今まで意識することのなかった「ことばの機能」を発見することが、この講義の目標です。</p> <p>授業では、ドイツ語の例示を中心としますが、必要に応じて、他言語との比較も行います。</p> <p>講義の内容や順番は、受講者の関心等に応じて、多少変更する可能性もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 春学期の復習 3. ドイツ語の文字の歴史 4. 文法的性と格標示に関する言語間の比較 5. 意味論 1 意味論の対象 6. 意味論 2 意味関係 7. 意味論 3 意味素性 8. 意味論 4 プロトタイプ 9. 意味論 5 普遍主義と相対主義 10. 意味論 6 述語と項 11. 語用論 1 語用論の対象 12. 語用論 2 発話行為 13. 語用論 3 発話行為 14. 語用論 4 ポライトネス 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	ドイツ語学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回の講義内容をよく復習し、疑問点があれば質問してください。		
テキスト、参考文献	授業内でレジュメと資料プリントを配布します。		
評価方法	毎回の「授業レポート」(50%)と、最終回に実施する筆記試験(50%)に基づいて評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第I部を原文で読む1(火2)</p> <p>「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ドイツ語を学ぶならば、一度はドイツ語原文でこの作品に触れておくべきだ。それはドイツ語のさまざまな要素がたっぷり詰まった宝庫だから、原文のドイツ語について文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解く醍醐味を味わってみよう。そうすれば、「学習用教科書」の日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。そのためにも、最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続いてゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832) の『ファウスト』 („Faust“) 第I部にある「ワルプルギスの夜」(Walpurgisnacht) の場面から選んだドイツ語原文 (I) をゆっくりと丁寧に読む。原文そのものに迫るためにも、それを妨げる訳読はせず、各単語の歴史的な理解と造語分析に重点をおく。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法 1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法 2</p> <p>03. Walpurgisnacht I-1</p> <p>04. Walpurgisnacht I-2</p> <p>05. Walpurgisnacht I-3</p> <p>06. Walpurgisnacht I-4</p> <p>07. Walpurgisnacht I-5</p> <p>08. Walpurgisnacht I-6</p> <p>09. Walpurgisnacht I-7</p> <p>10. Walpurgisnacht I-8</p> <p>11. Walpurgisnacht I-9</p> <p>12. Walpurgisnacht I-10</p> <p>13. Walpurgisnacht I-11</p> <p>14. Walpurgisnacht I-12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(事前学習) テキストの予定箇所に予め目を通しておく。 (事後学習) 当該授業の内容を指示された要領で記したリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリントを配付する。【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版(白水社)2003; 羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版(白水社)2003; 独辞典		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール(60%)、および宿題と授業内小テスト(40%)の総合による平常点評価		

09年度以降	ドイツ語圏の文学 b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ゲーテの『ファウスト』第I部を原文で読む2(火2)</p> <p>「ゲーテの『ファウスト』を知らずしてドイツ語を学んだと言うなかれ」とはある高名なドイツ文学者の名言だ。たしかに、ドイツ語を学ぶならば、一度はドイツ語原文でこの作品に触れておくべきだ。原文のドイツ語について文法的分析もふくめて、その言語世界を読み解く醍醐味を味わってみよう。そうすれば、「学習用教科書」の日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさも分かるだろう。そのためにも、最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続いてゲーテ (Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832) の『ファウスト』 („Faust“) 第I部にある「ワルプルギスの夜」(Walpurgisnacht) の場面から選んだドイツ語原文 (I) をゆっくりと丁寧に読む。原文そのものに迫るためにも、それを妨げる訳読はせず、各単語の歴史的な理解と造語分析に重点をおく。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法 1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法 2</p> <p>03. Walpurgisnacht II-1</p> <p>04. Walpurgisnacht II-2</p> <p>05. Walpurgisnacht II-3</p> <p>06. Walpurgisnacht II-4</p> <p>07. Walpurgisnacht II-5</p> <p>08. Walpurgisnacht II-6</p> <p>09. Walpurgisnacht II-7</p> <p>10. Walpurgisnacht II-8</p> <p>11. Walpurgisnacht II-9</p> <p>12. Walpurgisnacht II-10</p> <p>13. Walpurgisnacht II-11</p> <p>14. Walpurgisnacht II-12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	ドイツ文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	(事前学習) 独辞典を利用して、テキストの予定箇所に予め目を通しておく。 (事後学習) 当該授業で学習した内容を千字程度日本語で纏め、翌日中にメールで担当教員に送信する		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリントを配付する。【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版(白水社)2003; 羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版(白水社)2003; 独辞典		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール(60%)、および宿題と授業内小テスト(40%)の総合による平常点評価		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 a	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主としてドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していくつもりです。</p> <p>具体的にどこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。</p> <p>またドイツ語圏に限定せず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講時代を追っていくのにじっくり急がないつもりですが、しかし今学期もせめてカントまでは触れます。ドイツ語学科以外の学生の受講も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに 古典について 古典について キリスト教：ローマ・カトリックとプロテスタント ルネッサンス デカルトの思想 カントの思想(1) カントの思想(2) カントの思想(3) カントの思想(4) ドイツ観念論(1) ドイツ観念論(2) ドイツ観念論(3) ドイツ観念論の問題点 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後に18世紀ドイツ啓蒙までの思想文化の概略を把握する。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	ドイツ語圏の思想 b	担当者	工藤 達也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>主にドイツ語圏の思想家を通史的に取り上げて、解説する。特に重要となる哲学や思想のキーワードについては具体的に説明していく。春学期の講義の続きではありますが、別個に受講してもよい。具体的な目標として、どこの書店でも手に入る古典的な哲学書を独力で読める理解能力をトレーニングするのが教師の意図です。今学期の講義に出ればたぶん、ニーチェの『道徳の系譜』は読めるくらいにはなれます。テーマはドイツ語圏に限定されず、背景にあるヨーロッパの思想などにも言及する。特に難解な講義ではないので興味のある学生は聴講してほしい。ドイツ語学科以外の学生も歓迎します（ドイツ語の知識は前提にしない）。今学期もハイデガーやベンヤミンなど現代思想に触れられたらいい。現代思想ゆえの過激な展開になります。関心がある学生は歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> はじめに ロマン派 ヘーゲルとマルクス 若いマルクスと『資本論』のマルクス 『資本論』と宗教批判 マルクス主義と現代思想(1) マルクス主義と現代思想(2) ニーチェ(1) ニーチェ(2) ニーチェ(3) ハイデガー(1) ハイデガー(2) ハイデガー(3) 現代の思想 授業内試験 	
到達目標	ドイツ語圏の文学に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	ヨーロッパ文化の初歩的知識を持つ者が、修了後には19世紀以降の思想の概略を把握している。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します		
評価方法	テスト、平常点に基づいて評価を行う。		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	A. ヴェルナー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs lesen wir kurze, einfache Texte zum Thema „Sprache“ über aktuelle Entwicklungen der deutschen Sprache, Fremdwörter, Sprachgeschichte, Fremdsprachenlernen, usw.</p> <p>Die Texte werden aus verschiedenen Textsorten ausgewählt: Internet, Zeitungsartikel, wissenschaftliche Texte, humoristische Texte, Statistiken, ...</p> <p>Zu jedem Text werden verschiedene Aufgaben von den Teilnehmern zu Hause oder in Gruppenarbeit vorbereitet und danach zusammen im Unterricht besprochen:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Erklärung schwieriger Wörter und Ausdrücke, Grammatik. - Fragen zum Inhalt - Zusammenfassung des Textes. 		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung, Allgemeines 2. Text 1 3. Fragen, Erläuterungen zu Text 1 4. Text 2 5. Fragen, Erläuterungen zu Text 2 6. Text 3 7. Fragen, Erläuterungen zu Text 3 8. Text 4 9. Fragen, Erläuterungen zu Text 4 10. Text 5 11. Fragen, Erläuterungen zu Text 5 12. Text 6 13. Fragen, Erläuterungen zu Text 6 14. Zusammenfassung 15. Test zu den gelesenen Texten 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	コピーを配布します。		
評価方法	テスト 50%、授業への参加度 50%.		

09年度以降	テキスト研究 (語学・文学・ <u>思想</u>) b	担当者	M. ビティヒ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Kurs beschäftigen wir uns mit verschiedenen (Original-) Textsorten, die sich mit unterschiedlichen philosophischen bzw. ethischen und moralischen Problemen beschäftigen. Auf der Grundlage dieser Texte wollen wir dann gemeinsam darüber nachdenken, welche philosophischen Prinzipien/Konzepte ihnen zugrunde liegen</p> <p>Gemeinsam (in Partner- bzw. Gruppenarbeit) lesen wir kurze und mittellange Texte zu verschiedenen moralphilosophischen Fragestellungen und sprechen im Anschluss daran über das Gelesene.</p> <p>Über das Semester verteilt wird es verschiedene kleinere Hausaufgaben, Präsentationen aller Studierenden (einzeln oder in Gruppen) geben.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung: Was ist Philosophie? 2. Kant und das Zeitalter der Aufklärung; 3. Religionsphilosophie(n) 4. Religionen der Welt: Wer hat recht? 5. Kernfragen der Religion und Religionskritik 6. Gott rechtfertigen: Zum Theodizee-Begriff 7. Charles Darwin: "Die Entstehung der Arten" 8. Sterben und Tod: Suizid und Sterbehilfe 9. „Was kommt nach dem Tod“ 10. „Sind Organtransplantationen ethisch vertretbar?“ 11. „Sollte Klonen erlaubt sein?“ 12. Ein moralisches Dilemma: Das "Trolley Problem" 13. Referatssitzung I 14. Referatssitzung II 15. Abschluss Sitzung: Zusammenfassung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die im Unterricht gelesenen Texte sind zu Hause nachzubereiten – in Einzelfällen sind auch Texte vorzubereiten. Ferner werden vereinzelt Fragen zu den Texten als Hausaufgabe zu lösen sein.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Vorbereitung des Unterrichts (Lektüre der als Hausaufgabe verteilten Texte), aktive Mitarbeit, Präsentation und Hausarbeit (5000 Zeichen)		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) a	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und wie kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, die Argumentation in Fachtexten zu verstehen, über die Hauptaussagen zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns gegenseitig berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.		1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Frühkindlicher Spracherwerb (1) 3. Frühkindlicher Spracherwerb (2) 4. Frühkindlicher Spracherwerb (3) 5. Frühkindlicher Spracherwerb (4) 6. Fremdsprachenlernen (1) 7. Fremdsprachenlernen (2) 8. Fremdsprachenlernen (3) 9. Fremdsprachenlernen (4) 10. Sprache und Denken (1) 11. Sprache und Denken (2) 12. Sprache und Denken (3) 13. Sprache und Denken (4) 14. Sprache und Denken (5) 15. Abschlusstest, Kursfazit	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, Minitests, Abschlusstest.		

09年度以降	テキスト研究 (語学)・文学・思想) b	担当者	M. ラインデル
講義目的、講義概要		授業計画	
In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit Sprache – aus der Perspektive verschiedener Fragen, z. B.: Was ist der Zusammenhang zwischen Sprache und Denken? Wie lernen wir unsere Muttersprache? Wie lernen wir Fremdsprachen? Warum verschwinden Sprachen? Und wie kann man sie retten? Wie sprechen die Menschen in den verschiedenen Regionen und gesellschaftlichen Gruppen im deutschsprachigen Raum? Zu diesen Fragen lernen Sie Antworten kennen. Gleichzeitig lernen Sie, die Argumentation in Fachtexten zu verstehen, über die Hauptaussagen zu berichten und zu diskutieren. Wir lesen kurze und mittellange Texte in Paaren/Teams. Oft werden wir die Texte aufteilen und uns gegenseitig berichten, was wir gelesen haben, so dass es auch viel Gelegenheit zum Sprechen gibt.		1. Vorstellung: Kurskonzept / Ihre Interessen 2. Sprachenvielfalt (1) 3. Sprachenvielfalt (2) 4. Sprachenvielfalt (3) 5. Sprachenvielfalt (4) 6. Mehrsprachigkeit (1) 7. Mehrsprachigkeit (2) 8. Mehrsprachigkeit (3) 9. Mehrsprachigkeit (4) 10. Regional- und Minderheitensprachen (1) 11. Regional- und Minderheitensprachen (2) 12. Regional- und Minderheitensprachen (3) 13. Regional- und Minderheitensprachen (4) 14. Regional- und Minderheitensprachen (5) 15. Abschlusstest, Kursfazit	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	In jeder Stunde gibt es eine Hausaufgabe: Sie bereiten eine Mini-Präsentation eines Textes vor, schreiben Wortschatz heraus und/oder lernen Wortschatz zum aktuellen Thema.		
テキスト、参考文献	Das Textmaterial wird im Unterricht verteilt.		
評価方法	Aktive Mitarbeit, Hausaufgaben, Minitests, Abschlusstest.		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） a（火3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「哲学的に生きるとは何か」を問う I（火3）</p> <p>「人はどのように生きるべきか」という問いは、昔から考えられ、論じられてきた。では「哲学的に生きる」とはどういうことなのか？ これは、20世紀前半のドイツ哲学を代表したヤスパース（Karl Jaspers, 1883-1969）の思索における究極のテーマだ。この思想家が1953年に著した „Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第11章のIを精読して、日常の「自己忘却」から脱却する「思考」について考えてみよう。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。そのために、最初の数回で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得する。また、ドイツ語自体の理解を妨げる訳読はしない。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法2</p> <p>03. Philosophische Lebensführung I-1</p> <p>04. Philosophische Lebensführung I-2</p> <p>05. Philosophische Lebensführung I-3</p> <p>06. Philosophische Lebensführung I-4</p> <p>07. Philosophische Lebensführung I-5</p> <p>08. Philosophische Lebensführung I-6</p> <p>09. Philosophische Lebensführung I-7</p> <p>10. Philosophische Lebensführung I-8</p> <p>11. Philosophische Lebensführung I-9</p> <p>12. Philosophische Lebensführung I-10</p> <p>13. Philosophische Lebensführung I-11</p> <p>14. Philosophische Lebensführung I-12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・ 思想 ） b（火3）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（思想）「哲学的に生きるとは何か」を問う II（火3）</p> <p>「人はどのように生きるべきか」という問いは、昔から考えられ、論じられてきた。では「哲学的に生きる」とはどういうことなのか？ これは、20世紀前半のドイツ哲学を代表したヤスパース（Karl Jaspers, 1883-1969）の思索における究極のテーマだ。この思想家が1953年に著した „Einführung in die Philosophie“（『哲学入門』）の第11章のIIを精読して、「自己省察」と「コミュニケーション」とが「思考」とどう関わるかについて考えてみよう。文法的にも論理的にも精確な分析と論旨の把握に重点を置いて精読すれば、「学習用教科書」の日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。そのために、最初の数回で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得する。また、ドイツ語自体の理解を妨げる訳読はしない。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法2</p> <p>03. Philosophische Lebensführung II-1</p> <p>04. Philosophische Lebensführung II-2</p> <p>05. Philosophische Lebensführung II-3</p> <p>06. Philosophische Lebensführung II-4</p> <p>07. Philosophische Lebensführung II-5</p> <p>08. Philosophische Lebensführung II-6</p> <p>09. Philosophische Lebensführung II-7</p> <p>10. Philosophische Lebensführung II-8</p> <p>11. Philosophische Lebensführung II-9</p> <p>12. Philosophische Lebensführung II-10</p> <p>13. Philosophische Lebensführung II-11</p> <p>14. Philosophische Lebensführung II-12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所に予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） a（水2）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）近代ドイツの名詩を読む（水2）</p> <p>ドイツ語の詩には、ドイツ語の特徴が凝集している。その独特のリズムや母音と子音の響きから、具象的なイメージに抽象的な概念、それらをつなぐさまざまな比喩的表現や修辞、文法的構造が合わさって、詩はすばらしい言語の世界なのだ。原文のドイツ詩のそうした要素を分析し、ドイツ語の世界を読み解くためにも、その障害となる訳読はしない。「学習用教科書」の日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語を読み解く楽しさを味わうために、まずは、文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法の習得が必要だ。次にドイツ近代詩を代表する大詩人ゲーテ（Johann Wolfgang Goethe, 1749-1832）とヘルダーリン（Friedrich Hölderlin, 1770-1843）の作品をいくつか読めば、「ドイツ語を習った」と言えるようになるだろう。</p>		01. 文章ドイツ語読解のための文法 1 02. 文章ドイツ語読解のための文法 2 03. Goethe 1 04. Goethe 2 05. Goethe 3 06. Goethe 4 07. Goethe 5 08. Hölderlin 1 09. Hölderlin 2 10. Hölderlin 3 11. Hölderlin 4 12. Hölderlin 5 13. Hölderlin 6 14. Hölderlin 7 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（語学・ <u>文学</u> ・思想） b（水2）	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（文学）『枕草子』のドイツ語訳を読む（水2）</p> <p>日本最初の随筆文学とされる『枕草子』は、日本文学の古典中の古典だ。平安中期に成立したこの作品には、日常生活や四季の自然を観察し、草木鳥虫や歌枕を記した「ものづくし」、宮廷社会を振り返った回想など、ドイツ語にはない事物や心情、ものの見方、感じ方、考え方が名文で綴られている。それらはドイツ語の世界でどのように理解され、どのように表されるのだろうか？ この点に着目して、Helmut Bode版の„Kopfkissenbuch der Dame Sei Shonagon“（1975）から昨年度とは異なる名場面を読み、日本語の原文とも比較対照する。「学習用ドイツ語」ではない本物のドイツ語を文法的にも意味的にも精確に分析することで、ドイツ語そのものの理解を目指し、訳読はしない。最初の数週間で文章ドイツ語読解のために開発された高橋文法を習得してから、読解に入る。</p>		01. 文章ドイツ語読解のための文法 1 02. 文章ドイツ語読解のための文法 2 03. Blüten 1 04. Blüten 2 05. Blüten 3 06. Blüten 4 07. Blüten 5 08. Worüber man die Geduld verliert 1 09. Worüber man die Geduld verliert 2 10. Worüber man die Geduld verliert 3 11. Worüber man die Geduld verliert 4 12. Worüber man die Geduld verliert 5 13. Zahnschmerzen 6 14. Zahnschmerzen 7 15. まとめ	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所に予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語 4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・思想） a	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではドイツ語の基礎を習得した学生を対象にドイツ語の準専門的な文章を読んでいくうえで必要な中級(B2～C1)程度の文法知識の理解と習得を目指します。</p> <p>春学期は主に専門語彙に対応できるように造語論の基本知識を中心に紹介していきます。参照講読するテキストは、ドイツの「温暖化防止」の取り組みを取り上げているものになります。環境分野の用語を造語論的観点から考えていきます。</p> <p>講読が中心になる授業ですが、訳だけを考えるのではなく、ドイツ語のテキストを理解しようとする積極的な姿勢を求めます。表面的な独和辞典の使い方を見直す機会になる授業を目指していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画と課題について。 2. テキスト・テーマへの導入 – 温暖化防止 3. 専門用語に見られる造語的特徴 4. テキスト講読(1) 5. テキスト講読(2) 6. テキスト講読(3) 7. 文法と語彙の整理 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. テキストへのアプローチの整理 12. 到達度の確認 – テキスト講読(7) 13. 専門語彙対応力のチェック 14. テキストを読むための文法を考える 15. 春学期のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。事後は授業で提供された情報の整理をする。		
テキスト、参考文献	教材はすべてプリントで配布します。参考文献は授業の中で紹介していきます。		
評価方法	授業への参加度(50%)と運用力の改善(20%)、学期末の課題(30%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・思想） b	担当者	中山 純
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では春学期に続いてドイツ語の中級文法(B2～C1)を学んでいきます。秋学期は主にSyntax(統語論)に焦点を当て、副文の種類や挿入句など専門文献によく見られる文型を取り上げます。</p> <p>参照するテキストのトピックは、ドイツのエネルギ政策の1つであるEnergiewendeから選んでいきます。春学期のトピックである温暖化防止といっしょに考えると、最近のドイツの環境政策の姿が見えて来るはずです。単純な運用論だけではなく、言葉が映し出す背景にある社会の動きにも目配りをしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画と課題について。 2. テキスト・テーマへの導入 – エネルギー転換 3. 専門テキストの統語論的特徴 4. テキスト講読(1) 5. テキスト講読(2) 6. テキスト講読(3) 7. 文法と語彙の整理 8. テキスト講読(4) 9. テキスト講読(5) 10. テキスト講読(6) 11. テキストへのアプローチの整理 12. 到達度の確認 – テキスト講読(7) 13. 述語領域における文成分の語順 14. テキストを読むための文法を考える 15. 秋学期のまとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題テキストを読み、語彙などの下調べをしておく。事後は授業で提供された情報の整理をする。		
テキスト、参考文献	教材はすべてプリントで配布します。参考文献は授業の中で紹介していきます。		
評価方法	授業への参加度(50%)と運用力の改善(20%)、学期末の課題(30%)で評価します。		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・思想） a	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年春学期に続き、多和田葉子『雪の練習生』（2011）を、著者本人によるドイツ語訳で読みます。</p> <p>北極熊3世代の物語ですが、今学期は、第2章Der Todeskussに取り組みます。第2世代の主人公はToskaといっています。</p> <p>原作と翻訳の差異（省略と追加、副文の主文化、擬音-擬態語、受動態と能動態、分解と接合、間接話法と直接話法など）に注目していきます。</p> <p>読解力を涵養し、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. Das zweite Kapitel (I) 3. Das zweite Kapitel (II) 4. Das zweite Kapitel (III) 5. Das zweite Kapitel (IV) 6. Das zweite Kapitel (V) 7. Das zweite Kapitel (VI) 8. Das zweite Kapitel (VII) 9. Das zweite Kapitel (VIII) 10. Das zweite Kapitel (IX) 11. Das zweite Kapitel (X) 12. Das zweite Kapitel (X I) 13. Das zweite Kapitel (X II) 14. Das zweite Kapitel (X III) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	Yoko TAWADA: “Etüden im Schnee“ (konkursbuch) 2014（コピーを配布） 多和田葉子『雪の練習生』（新潮文庫）		
評価方法	定期試験 50% 平常点 30% レポート 20%		

09年度以降	テキスト研究（語学・文学・思想） b	担当者	本橋 右京
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、多和田葉子『雪の練習生』（2011）を、著者本人によるドイツ語訳で読みます。第3章Im Andenken an den Nordpolでは、ベルリン動物園のKnutという孫世代が主人公です。</p> <p>原作と翻訳の差異（省略と追加、副文の主文化、擬音-擬態語、受動態と能動態、分解と接合、間接話法と直接話法など）に注目していきます。</p> <p>読解力を涵養し、ドイツ語力を磨く機会にしてもらえればと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Das dritte Kapitel (I) 2. Das dritte Kapitel (II) 3. Das dritte Kapitel (III) 4. Das dritte Kapitel (IV) 5. Das dritte Kapitel (V) 6. Das dritte Kapitel (VI) 7. Das dritte Kapitel (VII) 8. Das dritte Kapitel (VIII) 9. Das dritte Kapitel (IX) 10. Das dritte Kapitel (X) 11. Das dritte Kapitel (X I) 12. Das dritte Kapitel (X II) 13. Das dritte Kapitel (X III) 14. Das dritte Kapitel (X IV) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、語学・文学・思想に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	指定箇所を事前に精読しておいて下さい。		
テキスト、参考文献	Yoko TAWADA: “Etüden im Schnee“ (konkursbuch) 2014（コピーを配布） 多和田葉子『雪の練習生』（新潮文庫）		
評価方法	定期試験 50% 平常点 30% レポート 20%		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 a	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><講義概要> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。</p> <p>春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン派までを扱う。</p> <p>春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. ルネサンス・宗教改革期① 3. 同② 4. 同③ 5. 三十年戦争・バロック期① 6. 同② 7. 同③ 8. 啓蒙主義時代① 9. 同② 10. 同③ 11. ロマン派① 12. 同② 13. 同③ 14. グリムのメルヒェン 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト、参考文献	テキスト： 特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献： テーマごとのレジュメ末尾に記載する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏芸術・文化概論 b	担当者	山本 淳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><講義概要> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。</p> <p>秋学期は、19世紀後半から現代までを扱う。</p> <p>春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2. 19世紀後半① ニーチェとヴァーグナーをめぐって 3. 同② 4. 世紀転換期① ウィーン世紀末を中心に 5. 同② 6. モダニズム① ドイツ表現主義を中心に 7. 同② 8. ヴァイマル文化① 9. 同② 10. ナチズムと芸術① 11. 同② 12. 同③ 13. 現代へ：新たな芸術の展開① J. ボイスをめぐって 14. 同② 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の芸術・文化に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。		
テキスト、参考文献	テキスト： 特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献： テーマごとのレジュメ末尾に記載する。		
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%の割合で評価を行う。詳細は授業中に指示する。		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 a	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2017年はドイツの神学者ルターによる宗教改革からちょうど500年にあたる年である。ドイツ本国でもさまざまな行事が企画されている。</p> <p>本講義では宗教改革500年を迎える年に、とりわけルターと親交が深く、ルターが押し進めた宗教改革を聖書の挿絵と出版、ならびにルターの肖像画の制作によって大きく後押ししたルーカス・クラナハの芸術に焦点をあてる。</p> <p>前期はとりわけクラナハの肖像画家としての活動に注目しながら、クラナハの画業を概観したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 ルーカス・クラナハのウィーン時代 3 宮廷画家としてのクラナハ① 4 宮廷画家としてのクラナハ② 5 宮廷画家としてのクラナハ③ 6 挿絵画家としてのクラナハ① 7 挿絵画家としてのクラナハ① 8 挿絵画家としてのクラナハ① 9 肖像画家としてのクラナハ① 10 肖像画家としてのクラナハ① 11 肖像画家としてのクラナハ② 12 肖像画家としてのクラナハ③ 13 クラナハとデューラー① 14 クラナハとデューラー② 15 総括 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修として、授業のテーマに関連する書籍を検索、読んでまとめることが求められる。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示します		
評価方法	筆記試験		

09年度以降	ドイツ語圏の美術 b	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2017年はドイツの神学者ルターによる宗教改革からちょうど500年にあたる年である。ドイツ本国でもさまざまな行事が企画されている。</p> <p>本講義では宗教改革500年を迎える年に、とりわけルターと親交が深く、ルターが押し進めた宗教改革を聖書の挿絵と出版、ならびにルターの肖像画の制作によって大きく後押ししたルーカス・クラナハの芸術に焦点をあてる。</p> <p>後期はとりわけ宗教改革期に大きな役割を果たした活版印刷の挿絵を取り上げる。中でも新約聖書の最後の一書である『黙示録』の挿絵連作に注目しながら、「黙示録」という主題が宗教改革時代にどのように利用され、展開したかという観点を中心に宗教改革時代に果たした絵画の役割について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 アルブレヒト・デューラーの『黙示録』挿絵① 3 アルブレヒト・デューラーの『黙示録』挿絵② 4 アルブレヒト・デューラーの『黙示録』挿絵③ 5 クラナハの『9月聖書』の挿絵① 6 クラナハの『9月聖書』の挿絵② 7 クラナハの『9月聖書』の挿絵③ 8 マティアス・ゲールングの『黙示録』① 9 マティアス・ゲールングの『黙示録』② 10 マティアス・ゲールングの『黙示録』③ 11~14 15世紀ドイツの『黙示録』本の概観 15 総括 	
到達目標	ドイツ語圏の美術に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修として、授業のテーマに関連する書籍を検索、読んでまとめることが求められる。		
テキスト、参考文献	授業中に適宜指示します		
評価方法	筆記試験		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽（いわゆるクラシック音楽）をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等についても理解を深めていただきたいと思います。（音楽理論の予備知識は特になくても大丈夫です。）</p> <p>春学期には、中世から 18 世紀までに書かれた多様な音楽作品をとりあげます。普段耳にする機会の少ない作品もあるかも知れませんが、関心をもって耳を傾けていただければと思います。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 中世の音楽 3. 15～16 世紀の声楽作品 4. シュッツとブクステフーデの声楽作品 5. 15～17 世紀のオルガン音楽 6. 南ドイツのバロック音楽 7. J. S. バッハの生涯と器楽作品 8. J. S. バッハの声楽作品 9. ヘンデルの音楽 10. テレマンと前古典派の音楽 11. J. ハイドンの音楽 12. W. A. モーツァルトの生涯と器楽作品 13. W. A. モーツァルトの声楽作品 14. 授業内試験 15. まとめ <p>*理解度等に応じて変更する場合があります。</p>	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照したり、図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」（音源）を利用したりしてください。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	ドイツ語圏の音楽 b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ語圏の国々の音楽をたくさんの録音資料（主に CD）で聴き、親しんでいただく授業です。</p> <p>秋学期には、18 世紀終わり頃から現在までに書かれた音楽を、主に「作曲家とその作品」という観点からとりあげます。そのなかで、作曲の背景、書法上の特徴、音楽様式の変遷等についても理解を深めていただきたいと思います。秋学期の終わり頃には、ドイツ語圏の国歌や民謡等も扱う予定です。</p> <p>秋学期は、春学期の授業内容（18 世紀までのドイツ語圏の音楽史および音楽用語等）を知っていることを前提に講義を行いますので、なるべく春学期から通年で履修してください。</p> <p>◇注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ベートーヴェン（1） 2. ベートーヴェン（2） 3. シューベルト 4. メンデルスゾーン 5. シューマン 6. リスト 7. ヴァーグナー 8. ブラームス 9. 19 世紀終わりのドイツ語圏の音楽 10. 20 世紀のドイツ語圏の音楽 11. ドイツ語圏の国歌 12. ドイツ語圏のクリスマスの音楽 13. ドイツ語圏の民謡、ポップス 14. 授業内試験 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の音楽史を概観し、ドイツ語圏の音楽に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照したり、図書館 HP から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」（音源）を利用したりしてください。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 a	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ドイツ語圏の音楽劇（オペラ・オペレッタ・ミュージカル）、それに対応する映画、あるいは映画の中の音楽の使われ方も取り上げます。その実例として、授業中にさまざまな映像を見せます。参加人数にもよりますが、学生の方からの意見をなるべく聞きたいと思うので質問や印象を求めますから、積極的に発言してください。</p> <p>なお、近年は授業中に携帯を使いメールを書いたりしている学生も見受けられますが、これは禁止します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 - 内容と進め方 2. 音楽劇の歴史と発展 3. 古典的なオペラの例 1 4. 古典的なオペラの例 2 5. モーツァルト「魔笛」1 6. モーツァルト「魔笛」2 7. オペレッタ 1 8. オペレッタ 2 9. 舞台と音楽のまとめ 10. 映画と音楽 無声映画からトーキーへ 11. オペレッタ映画 1 12. オペレッタ映画 2 13. ミュージカル映画 14. その他の音楽映画 15. 映画と音楽のまとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前もって関連テキスト（ドイツ語、日本語）も配布します。区切りごとにショートレポートを提出してもらいますから（2000字程度、2回）、それを書くときに引用してください。		
テキスト、参考文献	適切なテキストをコピーして配布		
評価方法	2回のショートレポート50%、学期末レポート50%		

09年度以降	ドイツ語圏の演劇 b	担当者	上田 浩二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本に生活しているとドイツの舞台そのものを見る機会は、ほとんどないので、演劇と近いジャンルにある映画を取り上げます。映画の初期から、俳優は舞台と映画の両方で活躍する人が少なくなく、お互いに影響しあってきました。今回は、第2次大戦後のドイツの映画を取り上げます。映画には、その社会と考え方を色濃く反映します。</p> <p>前半は、ドイツ再統一前の東西ドイツの代表的な、そして特徴のある映画を扱います。後半はで話題となった作品のいくつかを取り上げます。受講者の皆さんには、前もってそれぞれの映画の基本構想や登場人物を紹介し、映画を撮る側になったつもりでストーリー展開や場面を考えてもらいます。積極的な参加を期待しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の概要 2. 戦争直後の映画 3. 西ドイツの映画 1 4. 西ドイツの映画 2 5. 東ドイツの映画 1 6. 東ドイツの映画 2 7. まとめと統一後の傾向 8. 特徴のある映画 1-1 9. 特徴のある映画 1-2 10. 特徴のある映画 2-1 11. 特徴のある映画 2-2 12. 特徴のある映画 3-1 13. 特徴のある映画 3-2 14. 特徴のある映画 4-1 15. 特徴のある映画 4-2 	
到達目標	ドイツ語圏の演劇に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	前もって関連テキスト（ドイツ語、日本語）も配布します。区切りごとにショートレポートを提出してもらいますから（2000字程度、2回）、それを書くときに引用してください。		
テキスト、参考文献	適切なテキストをコピーして配布		
評価方法	2回のショートレポート50%、学期末レポート50%		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 a	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、<想像力×歴史・社会×制度>をテーマとします。映画を通して、ドイツ社会の歴史的事象がどのように描き出されているのかを分析するのが目的です。たとえば歴史を扱った映画作品は、<歴史>そのものではないし、芸術家の<想像力>のみの賜物でもありません。制作された時代の<制度>=思想、経済、政策の枠組みの中で作り出されるものです。それゆえに、作品の背景を知るとは、その作品を生み出したドイツの社会を読み解くひとつの手がかりとなります。</p> <p>講義でとりあげる作品には、比較的良好に知られたドイツの歴史的事象や社会事情が描かれています。映画作品をメインに考察しつつも、文献資料などで情報を補っていくので、作品に描かれている美学化された「歴史」や「現代社会」を「疑って」みてください。そして作者が歴史や社会をそう描いた「意図」を理解し、受けとってあげてください。作品には必ず、制作者の意図・社会の影響・制度や技術・資金の限界からくる制約があります。作品を楽しみつつも、映像メディアを通してドイツ社会を「読む」ための方法を考えていきましょう。</p>		<p><映画を通してドイツ社会を「読む」></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2. イメージの政治 3. 文化の政治性① 4. 文化の政治性② 5. 好ましいナチス?① 6. 好ましいナチス?② 7. “娯楽”化し、消費される負の歴史遺産 8. 学生運動からテロへ—現代ドイツ、若者の主張?① 9. 学生運動からテロへ—現代ドイツ、若者の主張?② 10. 政治の装置としての劇場・ミュージアム 11. 文化施設は「敷居が高い」のからくり 12. 監視国家—東西ドイツの心の壁① 13. 監視国家—東西ドイツの心の壁② 14. 現代ドイツにおける多文化共生と表現の自由 15. ドイツのメディア文化政策と対外文化政策の課題 	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、初回授業時および授業内でも指示をします。		
評価方法	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。		

09年度以降	ドイツ語圏のメディア文化 b	担当者	秋野 有紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><想像力×近代国家×制度>をテーマに、ドイツ語圏を中心として、ヨーロッパの成立事情を「読む」ことを試みます。この授業のシラバスを読んでいる皆さんはきっとドイツやヨーロッパについて知りたいと思っていることでしょう。でも、その「ドイツ」や「ヨーロッパ」が、実は自明の存在ではなかったとしたら……？この講義では、現代の欧州やドイツの政治事情と映画の世界とを行ったり来たりします。映画では、政治的権力を持ち、人々の「視線」を集める使命を与えられた人物たちに焦点を当てます。近代国家ドイツの成立史をおさえた上で、現代の欧州政治を見ているならば、欧州の国々が経験してきた／している動揺、そしてそこに住む普通の人々の政治への地道な関与こそが、「歴史」を作っており、現在もその試行錯誤の途上にあることが分かってきます。正解のない政治の世界は、真面目な話のみで構成されているわけではありません。偶然・欲望・笑い・失言が溢れる、ツッコミどころの多い世界だったりします。その面白さを味わいながらも、その先に、周りの世界を自分で「批判」する為の立脚点を築いていってください。</p>		<p><映画を通してヨーロッパ成立事情を「読む」></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と評価、参考文献について 2.3. 現代欧州の政治とドイツの課題 I, II 4. 領邦国家から近代国家へ 5. 神聖ローマ帝国 6.7. オーストリア=ハンガリー帝国①, ② 8. 対外文化政策とパブリックディプロマシー 9. 国家のイメージ戦略 10. 視線の操作とポリティクス—文化施設の制度化 11.12. ミュージアムという装置と思想①, ② 13.14. バイエルン王国①, ② 15. 「文化国家」の罠—ナチスへの道 <p>※ 一年を通して、映画を素材としつつ、作品の背景となる歴史や政治制度をすべて解説しながら進めていきますので、ドイツについてまったく知らないけれどちょっと興味がある、というような学生の受講を歓迎します。</p>	
到達目標	ドイツ語圏のメディア文化に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	受講者の関心により、内容を変更したり、順番が前後する可能性があります。		
テキスト、参考文献	プリントを配布します。参考文献は、初回授業時および授業内でも指示をします。		
評価方法	学期末のレポート（80%）により評価しますが、平常授業におけるレスポンスペーパーなどの実績（20%）も評価対象となります。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	I. アルブレヒト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Unterricht lesen wir Texte aus der Bibel, d.h. aus dem Alten Testament.</p> <p>Kenntnisse der wichtigsten Episoden und Geschichten der Bibel sind unabdingbare Voraussetzung zum Verständnis zahlloser Werke der europäischen Kultur, auf dem Gebiet der Bildenden Kunst, der Musik, der Literatur.</p> <p>Die Texte werden in Absprache mit den TeilnehmerInnen festgelegt. Eine mögliche Auswahl ist:</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Genesis, Erschaffung der Welt 2. Adam und Eva 3. Kain und Abel 4. Noah 5. Noah 6. Der Turmbau zu Babel 7. Lot 8. Abrahams Opfer 9. Josef und seine Brüder 10. Josef und seine Brüder 11. Moses 12. Moses 13. Die ägyptischen Plagen 14. Auszug aus Ägypten 15. Jona 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Vorbereitende Lektüre der Texte, schriftliche Zusammenfassungen, Recherche typischer Kunstwerke, Musikstücke etc. zu einzelnen Bibeltexten. (ca. 90 Minuten)		
テキスト、参考文献	Kopien, der Texte und Bilder werden im Unterricht verteilt		
評価方法	Regelmäßige aktive Mitarbeit, Vorbereitung, Aufgaben, Tests		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a （春学期 水2）	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2017年はドイツの神学者ルターによる宗教改革から500年を記念する年である。ルターの親友であった、ヴィッテンベルクの宮廷画家ルーカス・クラナハは、ルターの肖像を銅版画ならびに油彩画で制作し、後世にルターの風貌を伝えた。この授業では、宗教改革期に聖書の挿絵と出版、ならびに絵画で大きく貢献したルーカス・クラナハの作品について、クラナハの専門書の解説を読みながら学ぶ。ドイツ語テキストの講読練習と平行して、クラナハの画業ならびに当時のドイツの歴史を学ぶ。</p> <p>授業では課題テキストの中からクラナハの主要作品を選び出し、講読する。その際に、一枚の絵画がどのようにドイツ語でディスクリプションされているのか、描かれている主題はどのような意味を持つのか、描かれている作品はクラナハの画業の中でどのような位置づけにあるのか、といった点に特に注意して読む練習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakシヨン 2 作品解説講読 3 作品解説講読 4 作品解説講読 5 作品解説講読 6 作品解説講読 7 作品解説講読 8 作品解説講読 9 作品解説講読 10 作品解説講読 11 作品解説講読 12 作品解説講読 13 作品解説講読 14 作品解説講読 15 まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に必ず予習を、事後にはきちんと授業の内容を復習すること。内容に関連した書籍を読みまとめることが求められる。		
テキスト、参考文献	A. M. Bonnet/ D. Görres, Lucas Dranach d. Ä. Maler der deutschen Renaissance, 2015		
評価方法	筆記試験		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b （秋学期 木3）	担当者	青山 愛香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き、この授業では宗教改革に聖書の挿絵と出版、ならびに絵画で大きく貢献したルーカス・クラナハの作品について、クラナハの専門書の解説を読みながら学ぶ。</p> <p>授業では課題テキストの中からクラナハの主要作品を選び出し、講読する。その際に一枚の絵画がどのようにドイツ語でディスクリプションされているのか、描かれている主題はどのような意味を持つのか、描かれている作品はクラナハの画業の中でどのような位置づけにあるのか、といった点に特に注目しながら読み解いてゆく。</p> <p>ドイツ語を読んで理解する練習と同時に、作品をディスクリプションする方法についても考えてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakシヨン 2 作品解説講読 3 作品解説講読 4 作品解説講読 5 作品解説講読 6 作品解説講読 7 作品解説講読 8 作品解説講読 9 作品解説講読 10 作品解説講読 11 作品解説講読 12 作品解説講読 13 作品解説講読 14 作品解説講読 15 まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に必ず予習を、事後にはきちんと授業の内容を復習すること。内容に関連した書籍を読みまとめることが求められる。		
テキスト、参考文献	A. M. Bonnet/ D. Görres, Lucas Dranach d. Ä. Maler der deutschen Renaissance, 2015		
評価方法	筆記試験		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思います。</p> <p>2017年度は、19世紀の作曲家メンデルスゾーンに焦点をあて、関連する文章を読んでいきたいと思ひます。また、文の内容に関連した音楽 CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>◇注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。文献には音楽の専門用語や19世紀のドイツ語特有の表現等が出てきます。予め了解しておいてください。ドイツ語の書籍やHPから生の文章をとり出してきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって授業に積極的に参加することのできる学生の受講を期待いたします。</p>		<p>1. メンデルスゾーンの生涯と音楽について *初回の授業で分担のしかた等を決めたいと思ひますので、受講予定者は必ず出席してください。 (やむをえず欠席する場合は、予めメール連絡を。)</p> <p>2～13. メンデルスゾーンの生涯と作品 おおむねメンデルスゾーンが 20 代前半になる頃までの生涯と作品についてのドイツ語文を読みます。文法事項も復習していきます。</p> <p>14. 授業内試験 15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習・復習やテキストの内容に関する調査		
テキスト、参考文献	テキストはコピーで配布します。辞書は小学館の『独和大辞典』を用いてください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽関連のドイツ語文献を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただきたいと思います。和訳するにあたっては、日本語としてなめらかな文章にすることを、みなさんと一緒に考えたいと思ひます。</p> <p>2017年度は、19世紀の作曲家メンデルスゾーンに焦点をあて、関連する文章を読んでいきたいと思ひます。また、文の内容に関連した音楽 CD 等を授業中にお聴かせします。鑑賞中は特に静粛にしてください。</p> <p>◇注意事項：毎週必ず予習し、あてられても答えられないことがないように、充分準備して授業に臨んでください。文献には音楽の専門用語や19世紀のドイツ語特有の表現等が出てきます。予め了解しておいてください。ドイツ語の書籍やHPから生の文章をとり出してきて読みますので、じっくり時間をかけて予習に取り組み、内容に関心をもって授業に積極的に参加することのできる学生の受講を希望します。</p>		<p>1. メンデルスゾーンについて *初回の授業で分担のしかた等を決めたいと思ひますので、受講予定者は必ず出席してください。 (やむをえず欠席する場合は、予めメール連絡を。)</p> <p>2～13. メンデルスゾーンの生涯と作品 春学期の続きの部分を読みます。文法事項も復習していきます。</p> <p>14. 授業内試験 15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の予習・復習やテキストの内容に関する調査		
テキスト、参考文献	テキストはコピーで配布します。辞書は小学館の『独和大辞典』を用いてください。		
評価方法	授業への参加度 30%、試験 70%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界遺産にドイツ中世の教会建築を学ぶ（水3）</p> <p>ヨーロッパの多くの都市には、中世のロマネスク様式やゴシック様式の教会建築がある。これを知らずしてはドイツの芸術・文化も語れない。そこで、本学の協定校があるHildesheimで世界遺産（Weltkulturerbe）に登録された教会建築のドイツ語解説文により、ドイツ中世の教会建築について学ぶとともに、文章ドイツ語を読めるようになる。そのためには、文章ドイツ語の文法構造と意味を正確に把握する必要がある。最初の数回で文章ドイツ語読解用に開発された高橋文法を習得する。続くテキスト読解にあたっては、日本語とドイツ語における意味のずれに着目するので、そのずれを隠蔽する訳読はしない。そうすれば、「学習用教科書」の安直な日常ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法 1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法 2</p> <p>03. Hildesheimer Weltkulturerbe 1</p> <p>04. Hildesheimer Weltkulturerbe 2</p> <p>05. Hildesheimer Weltkulturerbe 3</p> <p>06. Hildesheimer Weltkulturerbe 4</p> <p>07. Hildesheimer Weltkulturerbe 5</p> <p>08. Hildesheimer Weltkulturerbe 6</p> <p>09. Hildesheimer Weltkulturerbe 7</p> <p>10. Hildesheimer Weltkulturerbe 8</p> <p>11. Hildesheimer Weltkulturerbe 9</p> <p>12. Hildesheimer Weltkulturerbe 10</p> <p>13. Hildesheimer Weltkulturerbe 11</p> <p>14. Hildesheimer Weltkulturerbe 12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	高橋 輝暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本庭園を語るドイツ語（水3）</p> <p>私たちが、ドイツ語で日本について発信するとき、ドイツ語母語者の語る内容には含まれないことを語らざるをえない。日本にはドイツにはない文化的事象や文化現象があるからだ。そこで、ドイツの日本美術史家 Schaar-schmidt-Richter の „Gartenkunst in Japan”（『日本の庭園芸術』）を読んで、日本の伝統文化を説明するドイツ語を学ぶ。庭園の写真や図版も、われわれがドイツ語を理解する助けになる。文章ドイツ語の文法構造と意味の把握に力を入れ、日本語とドイツ語における意味のずれを覆い隠して原語の理解を妨げる訳読はしない。「学習用教科書」ドイツ語とは違う本物のドイツ語の文章を読み解く楽しさが分かるだろう。最初の数回で文章ドイツ語読解のための高橋文法を習得する。</p>		<p>01. 文章ドイツ語読解のための文法 1</p> <p>02. 文章ドイツ語読解のための文法 2</p> <p>03. Ryōan-ji（竜安寺） 1</p> <p>04. Ryōan-ji（竜安寺） 2</p> <p>05. Ryōan-ji（竜安寺） 3</p> <p>06. Ryōan-ji（竜安寺） 4</p> <p>07. Ryōan-ji（竜安寺） 5</p> <p>08. Ryōan-ji（竜安寺） 6</p> <p>09. Ryōan-ji（竜安寺） 7</p> <p>10. Ryōan-ji（竜安寺） 8</p> <p>11. Ryōan-ji（竜安寺） 9</p> <p>12. Ryōan-ji（竜安寺） 10</p> <p>13. Ryōan-ji（竜安寺） 11</p> <p>14. Ryōan-ji（竜安寺） 12</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	【事前学習】テキストの予定箇所を予め読んでおく。 【事後学習】当該授業の内容について、指定の要領でリアクションメールを担当教員に送る。		
テキスト、参考文献	【テキスト】プリント【参考文献】中島悠爾ほか『必携ドイツ文法総まとめ』改訂版（白水社）2003；羽鳥茂雄ほか『ドイツ重要単語4000』改訂新版（白水社）2003；Duden Deutsches Universalwörterbuch.		
評価方法	授業での貢献度と事後学習のリアクションメール（60%）、および宿題と授業内小テスト（40%）の総合による平常点評価		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニーチェ（1844-1900）の処女作『悲劇の誕生』（Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872）のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の底流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>古代ギリシアにおける「アポロ的なもの」と「ディオニュソス的なもの」という同書の中心概念を把握しつつ、この両極性の対立的協同の最大の果実ともいべきギリシア悲劇の誕生と死について、また彼の芸術観について個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p>		<p>1回目 ガイダンス及び概説</p> <p>2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予定の部分を辞書だけでなく、翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳しておいて下さい。事後に再度精読して下さい。		
テキスト、参考文献	原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）		
評価方法	期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と学習への取組度を基に総合的に評価する。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	辻本 勝好
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続いて、ニーチェの『悲劇の誕生』のなかからいくつかの章を厳選し、それらの原典講読を通じて、ヨーロッパの芸術・文化の源流の一端に触れるのと同時に、ドイツ語の読解力が更に飛躍的に向上することを目的とする。</p> <p>春学期に得られた内容の理解に基づいて「美的現象としてなら我々は依然として生存に耐えることができる」という彼のいわゆる「芸術家の形而上学」について、要するに実人生にとっての芸術・文化の意義について、悲劇の誕生と死と再生という本書の主題に添って個別の関連作品の解説やビデオ鑑賞などを織り交ぜながら考察して行きたい。</p>		<p>1回目 ガイダンス及び概説</p> <p>2回目～15回目 『悲劇の誕生』の原典講読（厳選する章は未定、ビデオ鑑賞を含む）</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前に予定の部分を辞書だけでなく、翻訳書も手掛かりにして、なるべく自分なりの言葉で訳しておいて下さい。事後に再度精読して下さい。		
テキスト、参考文献	原典講読に必要な部分のみプリント配布する。 副読本として：ニーチェ著・秋山英夫訳『悲劇の誕生』（岩波文庫、1966年）		
評価方法	期末試験（辞書持込可、60%）を基に平常点（40%）を加味して総合的に評価する。平常点も平素の授業態度と学習への取組度を基に総合的に評価する。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。 2) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3) ドイツ語によるオペラ作品を鑑賞する。</p> <p>講義概要</p> <p>教材の『作曲家と作品』を精読する。ドイツ語によるオペラを作品別に扱う。作品の一部を映像又は音源にて鑑賞する。受講者自身の調査による研究発表、またはレポート提出も実施の予定。</p> <p>尚、オペラの知識は問わないが、音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 I</p> <p>3. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 II</p> <p>4. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 III</p> <p>5. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 IV</p> <p>6. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 V</p> <p>7. E. フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』 VI</p> <p>8. W. A. モーツァルト『魔笛』 I</p> <p>9. W. A. モーツァルト『魔笛』 II</p> <p>10. W. A. モーツァルト『魔笛』 III</p> <p>11. W. A. モーツァルト『魔笛』 IV</p> <p>12. W. A. モーツァルト『魔笛』 V</p> <p>13. W. A. モーツァルト『魔笛』 VI</p> <p>14. 研究発表</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：「<i>HÄNSEL UND GRETEL</i>」 Kurt Pahlen, Atlantis Musikbuch-Verlag 2000</p> <p>テキスト：「<i>DIE ZAUBERFLÖTE</i>」 Kurt Pahlen, Schott Music GmbH 2011</p>		
評価方法	期末試験 60%, 個人発表 20%, 授業への参加度 20% / テキストの一部をプリントにて配布。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） b	担当者	前田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>1) 教材の『作曲家と作品』を通して芸術の理解を深める。 2) 教材を通してさらなるドイツ語の構文解析を習得する。 3) ドイツ語によるオペラ作品を鑑賞する。</p> <p>講義概要</p> <p>教材の『作曲家と作品』を精読する。ドイツ語によるオペラを作品別に扱う。作品の一部を映像又は音源にて鑑賞する。受講者自身の調査による研究発表、またはレポート提出も実施の予定。</p> <p>尚、オペラの知識は問わないが、音楽を愛好する積極的な受講生の参加を希望する。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 I</p> <p>3. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 II</p> <p>4. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 III</p> <p>5. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 IV</p> <p>6. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 V</p> <p>7. R. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』 VI</p> <p>8. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 I</p> <p>9. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 II</p> <p>10. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 III</p> <p>11. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 IV</p> <p>12. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 V</p> <p>13. R. ヴァーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』 VI</p> <p>14. 研究発表</p> <p>15. まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	教材の指定された箇所を必ず予習しておくこと。また授業後はノート整理等の復習を必ず行うこと。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：「<i>TRISTAN UND ISOLDE</i>」 Richard Wagner, Jazzybee Verlag 2016</p> <p>テキスト：「<i>DIE MEISTERSINGER VON NÜRNBERG</i>」 Egon Voss, Philipp Reclam jun. GmbH 1994</p>		
評価方法	期末試験 60%, 個人発表 20%, 授業への参加度 20% / テキストの一部をプリントにて配布。		

09年度以降	テキスト研究（芸術・文化） a	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の目的は、大きく分けて2つあります。</p> <p>第1に、ドイツ語で世界の名画に関する記述を理解し、ドイツ語の読解能力を向上させること。</p> <p>第2に、絵画を読み解く力の最初歩を身につけること。</p> <p>授業では、テキストを読むと同時に、画家や作品などについて、グループで簡単な発表をしてもらいます（日本語かドイツ語）。</p> <p>発表を準備する都合上、第1回の授業には必ず参加してください。参加できない場合には、必ず前もって矢羽々までメールをください（Mail: tyahaba@dokkyo.ac.jp）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（授業の概要、評価などの説明、分担） 2. 絵画を読むために1 3. 絵画を読むために2 4. 発表1 5. 発表2 6. 発表3 7. 発表4 8. 発表5 9. 発表6 10. 発表7 11. 発表8 12. 発表9 13. 発表10 14. まとめ 15. 期末試験 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、芸術・文化に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱うテキストをていねいに読んでおくこと。発表担当の場合にはしっかり準備すること。		
テキスト、参考文献	Rosie Dickins, u.a., Kunst für Kinder. Berühmte Maler und ihre Meisterwerke entdecken, Würzburg (Arena) 2013, 他。授業時にコピーを配布します。参考文献は授業時に適宜指示します。		
評価方法	授業への参加度（コメントシート、発表など）＝50％，期末試験＝50％。 詳細については、第1回の授業時に指示します。		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 a	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この講義の目的は、現代ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を、わかりやすく受講生に提供することである。また、ドイツ語圏諸国で現在何が問題となっているかについても検討する。</p> <p><講義概要> この講義では、政治・経済だけではなく、多様な視角からドイツ、オーストリアに加えてスイスの実情を明らかにする。毎回授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツ語圏の基本情報 3. ドイツの地形と自然 4. オーストリアおよびスイスの地形と自然 5. ドイツの政党と政治システム(1) 6. ドイツの政党と政治システム(2) 7. オーストリアの政党と政治システム 8. スイスの政党と政治システム 9. EU や世界との関係 10. 経済と産業 11. メディア 12. 食文化 13. ドイツのスポーツ 14. オーストリアとスイスのスポーツ 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	①学期末試験 70%、②レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏現代社会概論 b	担当者	古田 善文
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この講義の目的は、現代のドイツとオーストリア（秋学期はスイスを除く）の社会と文化を理解するために必要な基本情報を受講生にわかりやすく提供することである。また、ドイツ、オーストリア両国で現在何が問題となっているかについても検討する。</p> <p><講義概要> 秋学期ではまずドイツ、オーストリア両国の戦後史を概観する。その後、多様な視角からドイツ、オーストリア両国の実情を明らかにしていく。春学期に続いて今学期も、授業の冒頭でドイツ語圏の最新ニュースを受講生に紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ドイツの戦後史(1) 分割占領から東西ドイツの成立 3. ドイツの戦後史(2) ドイツ統一まで 4. ドイツの戦後史(3) 現代まで 5. オーストリアの戦後史(1) 分割占領から永世中立まで 6. オーストリアの戦後史(2) 現代まで 7. 若者と教育(1) 8. 若者と教育(2) 9. 雇用と労働 10. 社会福祉と医療 11. ジェンダーと家族関係 12. 宗教 13. 移民・難民問題(1) 14. 移民・難民問題(2) 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の現代社会に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修：指示された資料や参考文献を予め読んでおくこと。 事後学修：授業で扱った内容を復習し、その日のテーマについて調べ学習すること。		
テキスト、参考文献	資料は適宜プリントを配布する。参考文献は必要に応じて指示する。		
評価方法	①学期末試験 70%、②レポート 30%		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 a	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は19世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。 春学期は、ドイツ語圏の歴史過程に大きな影響を与えていたハプスブルク君主国を中心に、神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について扱う。</p>		<p>第1回 授業ガイダンス、 第2回 総論「ハプスブルク君主国の特色」 第3回 婚姻政策による拡大 第4回 オーストリア家、世界帝国への道 第5回 宗教改革、宗派化の時代 第6回 三十年戦争 第7回 ヴェストファーレン体制 第8回 第二次ウィーン包囲とその記憶 第9回 国事詔書と継承戦争 第10回 マリア・テレジア 第11回 ヨーゼフ2世の啓蒙改革 (I) 第12回 ヨーゼフ2世の啓蒙改革 (II) 第13回 ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国解体 第14回 まとめ 第15回 達成目標の確認テスト</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題（100%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。		

09年度以降	ドイツ語圏歴史概論 b	担当者	上村 敏郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。</p> <p>【講義概要】 春学期に引き続き、秋学期では19世紀以降のドイツ語圏の歴史について扱っていく。本講義には二つの軸がある。ハプスブルク君主国の解体過程とドイツ国民（帝国）の形成過程である。 多様な民族構成を持っていた近代のハプスブルク君主国について学ぶことは、移民の背景を持つ人々が増加傾向にある現代のドイツ語圏の社会を考える上でも、あるいは我々自身の社会を考えていく上でも非常に重要なことである。 また、それまでバラバラの領邦国家に分散していたドイツ国民がいかんして誕生したのか、いかんしてドイツ国民というアイデンティティを生み出したのかについても考えていく。 理解を深めるため、春学期と継続して履修することが好ましい。</p>		<p>第1回 授業ガイダンス、19世紀までのドイツ語圏の歴史概観 第2回 ウィーン会議とウィーン体制 第3回 三月前期 第4回 1848年革命 (I) 第5回 1848年革命 (II) 第6回 ドイツ帝国の誕生 (I) 第7回 ドイツ帝国の誕生 (II) 第8回 ドイツ帝国誕生の裏側：その時、ハプスブルクは 第9回 第一次世界大戦 (I) 第10回 第一次世界大戦 (II) 第11回 ヴァイマル共和国 第12回 ポスト・ハプスブルクの時代 第13回 ナチズムの時代 第14回 まとめ 第15回 達成目標の確認テスト</p>	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する概論的な知識、分野特有の思考・研究方法の基礎を習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。		
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。		
評価方法	平常授業での課題（100%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2017年はヨーロッパの大きな転機となることが予想されます。ドイツでも難民やテロ問題をきっかけに、排外主義の動きが強まっており、9月の連邦議会選挙の結果も予断を許しません。EU解体の可能性も論じられるなか、EUの要石であるドイツの帰趨は、国際政治に大きな影響を及ぼすことになるでしょう。ドイツ政治はどのような方向に動こうとしているのでしょうか。</p> <p>春学期はこうした動きを横目に見ながら、政治領域に注目し、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。</p> <p>日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 連邦主義：連邦制－単一国家、中央集権－地方自治 3. 立法：間接民主主義－直接民主主義 4. 行政：大統領制－議院内閣制 5. 司法：一元性－多元性、憲法裁判所 6. メディア：第四権力のあり方 7. 中央銀行：行政からの自立か、従属か 8. コーポラティズム：国際比較とドイツの特徴 9. 社会国家：ドイツの福祉国家の特徴は？ 10. 選挙：小選挙制か、比例代表制か 11. 政党：どのような政党があるか？ 12. 社会主義－共産主義－社会民主主義、東ドイツ 13. ポピュリズム：民主主義と何が違うか？ 14. ナショナリズム：ドイツのナショナリズムの特徴は？ 15. 市民運動、住民参加 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏の政治・経済 b	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般にドイツは高度な福祉国家として知られています。ドイツでは福祉国家を表す場合、Sozialstaat（社会国家）という言葉がよく用いられています。ところがドイツにおいても、グローバル化の進展と国際競争の激化のなか、雇用の不安定、貧困率の増大、社会的格差の拡大が大きな経済的・社会的問題となっており、伝統的な社会国家が揺らいできています。</p> <p>秋学期は、経済・社会の領域を対象とし、様々な切り口から考えていきます。毎回のテーマごとにドイツのあり方を国際比較のなかで特徴づけ、歴史と現状、現在の問題点などを見ていきます。</p> <p>日本との比較を意識しながら進めていきます。参加者には時事問題に関するアンテナを広げておくことを期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス——講義の概要 2. 職業教育：職業資格の意味 3. 大学教育：勉強と就職の関係は？ 4. 教育と雇用へのつながり：日本との比較 5. 雇用システム：内部労働市場か、外部労働市場か 6. ワーク・ライフ・バランス：働き方の比較 7. 女性の就労：ドイツの特徴は？何が課題か？ 8. 労働組合：ドイツの特徴は？ 9. 労働者文化：特徴は？どのように変化してきたか？ 10. 経済民主主義、共同決定、コーポレート・ガバナンス 11. グローバリズム：メリットか、デメリットか？ 12. ネオ・リベラリズム：市場は善か、悪か？ 13. 貧困化：なぜ拡大するのか？課題は？ 14. 少子・高齢化：どのように対応すべきか？ 15. 外国人（移民、難民）：統合に限界はあるか？ 	
到達目標	ドイツ語圏の政治・経済に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	西田慎・近藤正基『現代ドイツ政治 統一後の20年』ミネルヴァ書房、2014年。		
評価方法	毎回コメントペーパーを提出してもらう。学期末試験（70%）と平常点（30%）により評価する。		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀は「戦争の世紀」とも言われ、2度にわたる世界的規模での戦争を経験しました。その経験を踏まえて人々は21世紀には「平和な時代」を期待したはずでした。ところが、相変わらず戦争はなくなっていない。そこで私たちはもう一度20世紀の戦争を分析・検討する意義があるのではないのでしょうか。特に、第一次世界大戦の敗北がヒトラーの台頭を招いたといわれるドイツの歴史では、2つの戦争は相互に密接な関連を持っています。そのため、ドイツの中学校・高等学校ではかなりの時間(1~2年間)を割いて20世紀の歴史を学習しています。春学期は、第一次世界大戦を経てヴァイマル共和国に至る経緯と国民意識の変遷に焦点を当てます。戦争が終わったのち、特に敗戦国では戦争をどのように認識するかが、その後の歴史に大きな影響を与えることとなります。「開戦」に至るまでの政治的背景や戦後の国民意識を分析することによって、歴史的事象に対する皆さんの視野が広がることを期待しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 国民国家と民族問題 3. 第一次世界大戦(1)映像で見る世界大戦 4. (2)戦争プロパガンダ 5. (3)開戦をめぐる議論 6. (4)「戦争の大義」と戦争目的 7. (5)戦争の終結と革命 8. 講和条約(1)ヨーロッパの再編とヴェルサイユ条約 9. (2)戦争責任と賠償問題 10. (3)戦争責任と被害意識 11. ヴァイマル共和国(1)敗戦と革命・敗戦責任論 12. (2)共和国憲法と民主主義 13. (3)司法と民主主義 14. ナチ党の発展と国民の支持 15. まとめ 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義をより理解するために前もって出す課題と講義の内容を理解したうえで考察する課題があります。		
テキスト、参考文献	適宜指示します。		
評価方法	課題(5回~7回程度)で評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏の歴史 b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、ドイツのナチズムに焦点をあてて、国民がナチに傾倒し、熱狂的に支持した背景を考察していきます。そのうえで第二次世界大戦後、ドイツではナチズムと戦争の歴史をどのように認識しようとしているのかを、日本と比較しながら考察していきたいと思えます。また、ユダヤ人の迫害から虐殺への経緯については、少し詳しくみていく必要があります。</p> <p>ドイツの歴史の授業は、事項や年号の暗記ではなく、事項や史料の分析に重点がおかれています。そこでこの授業では、できるだけドイツの中学生や高校生の学ぶ歴史の授業を意識して、学生が自分で考え、史料を分析できる力を養うことを目指したいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ファシズムの台頭(1)ヨーロッパのファシズム運動 3. (2)ナチ党への支持 4. (3)ヴァイマル共和国の崩壊 5. 「ユダヤ人」への迫害(1)反ユダヤ主義の系譜 6. (2)反ユダヤ主義から反セム主義へ 7. (3)ホロコーストへの道程 8. ヒトラー神話(1)プロパガンダと国民 9. (2)ドイツの対外政策 10. ナチズムに対する受容と抵抗(1)命令と服従 11. (2)国防軍の犯罪 12. (3)抵抗運動 13. 日独歴史意識の比較(1)「荒れ野の40年」をめぐって 14. (2)ドイツの歴史教育 15. ドイツにおける戦後の歴史認識の変遷 	
到達目標	ドイツ語圏の歴史に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義をより理解するために前もって出す課題と講義の内容を理解したうえで考察する課題があります。		
テキスト、参考文献	適宜指示します。		
評価方法	課題(5回~7回程度)で評価します。		

09年度以降	ドイツ語圏とEU a	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏とEUについて、歴史的な背景から考察します。</p> <p>春学期では、二つの世界大戦と「ドイツ」をめぐる問題、そして冷戦が、ヨーロッパ統合（現在のEU、欧州連合）に決定的な役割を果たしたことに留意し、ドイツ語圏とEUの歴史的な側面を重点的に論じます。この中でも、ヨーロッパ統合のはじまりから現在のEUに至るまで、中心的役割を果たしているドイツの歴史に的を絞って、ヨーロッパ統合とドイツの関係を見ていきます。授業では、二つの世界大戦と冷戦を経て、現在のヨーロッパ統合の形が出来あがるまでを、基本的に時系列を追う形で考えていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. ドイツ帝国と第一次世界大戦 3. ヴァイマル共和国とヨーロッパ 4. ナチ・ドイツと第二次世界大戦 5. ドイツの敗戦と第二次世界大戦の帰結 6. 占領時代のドイツと冷戦のはじまり 7. 西ドイツ国家の誕生と西欧統合の始まり 8. アーデナウアーと西欧結合路線の推進 9. 西ドイツの「長い60年代」と西欧社会 10. ブラントの東方外交とヨーロッパ 11. 東ドイツ国家とヨーロッパ1949-1985 12. 1960-80年代の欧州統合の危機と進展 13. 冷戦終結と1989年の東欧革命 14. 東西ドイツ統一 15. 統一ドイツとEUの課題 	
到達目標	「ドイツ語圏とEU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%を目安に、総合的に判断する。		

09年度以降	ドイツ語圏とEU b	担当者	伊豆田 俊輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ地域論</p> <p>本講義では、ドイツ語圏とEUについて、特にドイツ連邦共和国とEUはどのような特徴を備えており、また、現在どのような課題を抱えているのかに焦点を当てることで論じていきます。</p> <p>第4回目までの講義では、ドイツとEUの基本的な政治制度について概説します。5-7回では、現在のヨーロッパにおける、広い意味での統合（＝歴史観や市民権などの「ソフト」な統合）を扱います。8-11回では、ヨーロッパ・ドイツ語圏における、冷戦後の変容について、東ドイツの問題、移民問題、EUの東方拡大、EUの対外政策の変容という側面から扱います。12-15回では、現在のEUが直面している複合的「危機」について、欧州憲法条約の失敗、通貨危機、Brexit、ポピュリズムと言われる政治運動を通じて見ていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスに基づいた授業ガイダンス 2. 概説①—ドイツの政治制度 3. 概説②—EUの制度と課題 4. 概説③—ドイツのEU内における「大国化」？ 5. 「ソフト」な統合①—歴史認識 6. 「ソフト」な統合②—教育 7. 「ソフト」な統合③—EU市民権 8. ドイツとEUの変容①—東ドイツ問題 9. ドイツとEUの変容②—ドイツの移民国化 10. ドイツとEUの変容③—EUの東方拡大 11. ドイツとEUの変容④—EUの対外政策 12. EUの「危機」①—「統合」の終焉？ 13. EUの「危機」②—ユーロ危機 14. EUの「危機」③—Brexit 15. EUの「危機」④—ポピュリズム政治 	
到達目標	「ドイツ語圏とEU」に関する専門的な知識、分野特有の思考・研究方法を発展的に習得し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に文紹介した文献を読み進める以外にも、現在ヨーロッパの動向についてのニュースを集めるなどして、自分なりの関心・興味を育ててください。		
テキスト、参考文献	教科書は指定しない。 参考文献は毎回レジュメに記載する。		
評価方法	期末テスト 85%、授業への参加度 15%を目安に、総合的に判断する。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Schwerpunkt des Kurses ist das Arbeiten mit Texten und damit der Verbesserung des Leseverstehens. Dabei verwenden wir Lesetexte aus dem Bereich Moderne Gesellschaft und Soziologie im historischen Kontext.</p> <p>Wir lernen verschiedene Techniken kennen, die man beim Lesen verwenden kann, und erproben diese Techniken an konkreten Texten aus den oben genannten Bereichen.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt. Das besprechen wir zu Beginn des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts in verschiedenem Umfang, abhängig vom jeweils behandelten Stoff.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein Test aus dem Bereich Leseverstehen.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	H. W. ラーデケ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In Anlehnung an die Kursinhalte im Sommersemester (siehe oben) ist der Schwerpunkt dieses Kurses der weitere Ausbau des Leseverstehens auf dem Gebiet Moderne Gesellschaft und Soziologie im geschichtlichen Kontext.</p> <p>Je nach Bedarf werden bereits erlernte Lesetechniken vertieft bzw. neue hinzugenommen.</p> <p>Ziel ist es, das Leseverstehen der Studierenden so zu festigen, dass sie in der Lage sind, das Gelernte unabhängig von der Unterrichtssituation selbständig auf Texte eigener Wahl anzuwenden.</p> <p>Zur Unterstützung des Leseverstehens können auch andere Fertigkeiten wie Sprechen, Schreiben oder Hören einbezogen werden.</p> <p>Der Inhalt der Übungen orientiert sich an der aktuellen sprachlichen Kompetenz der Kursteilnehmer. Auch die Wünsche der Studierenden werden, wo immer möglich, berücksichtigt. Das besprechen wir zu Beginn des Kurses.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einstufung der Kursteilnehmer und Einstieg 2. Übung 1 3. Übung 2 4. Übung 3 5. Übung 4 6. Übung 5 7. Übung 6 8. Übung 7 9. Übung 8 10. Übung 9 11. Übung 10 12. Übung 11 13. Übung 12 14. Übung 13 15. Übung 14 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Hausaufgaben oder Vorbereitung außerhalb des Unterrichts in verschiedenem Umfang, abhängig vom jeweils behandelten Stoff.		
テキスト、参考文献	Die Übungsmaterialien werden vom Kursleiter zur Verfügung gestellt.		
評価方法	Vor allem die aktive Teilnahme und Leistung während des Kurses und bei den Hausaufgaben. Gegebenenfalls auch ein Test aus dem Bereich Leseverstehen.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	S. ヴィーク
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In diesem Kurs wollen wir deutsche Lieder lesen und singen. Anhand der Texte lernen wir, was die deutsche traditionelle Musik ausdrücken will.</p> <p>Wir machen kleine Interviews zu Themen, die Sie interessieren, damit Sie lernen, Ihre Ideen auf Deutsch auszudrücken. Sie sprechen, nicht ich.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Vorstellung, Einleitung, "Froh zu sein" 2. "Der Winter ist vergangen" 3. "Komm lieber Mai" 4. "Wie schön blüht uns der Maien" 5. "Heut kommt der Hans zu mir" 6. "Sah ein Knab ein Röslein stehn" 7. "Fuchs du hast die Gans gestohlen" 8. "Die Lorelei" 9. "Das Wandern ist des Müllers Lust" 10. "Horch was kommt von draussen rein" 11. "O du lieber Augustin" 12. "Auf einem Baum ein Kuckuck" 13. Weihnachtslieder 14. "Heissa Kathreinerle" 15. "Kein schöner Land" 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	2-3mal im Semester schreiben Sie zu Hause einen Aufsatz mit 200 Wörtern zu Themen, die sich beim Besprechen der Lieder ergeben.		
テキスト、参考文献	Wir benutzen Kopien.		
評価方法	Für die schriftlichen Hausaufgaben gibt es Punkte. Am Semesterende halten alle ein Referat.		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gehen und seine kulturellen Implikationen</p> <p>Der Mensch geht seit einigen Millionen Jahren. Wann genau wir auf bipedale Fortbewegung umgestellt haben, wird von den Anthropologen immer noch untersucht. Das Gehen und die den Hominiden gegebene Neugier hatten und haben zur Folge, dass wir uns hauptsächlich gehend über den Planeten ausgebreitet haben. Welche kulturellen Folgen hat das Gehen, welche Rituale sind mit dem Gehen verbunden?</p> <p>Im Sommersemester werden wir vom deutschen Regisseur Werner Herzog „Vom Gehen im Eis“ lesen, eine Geschichte, die beschreibt, wie Herzog von München nach Paris gegangen ist, um einer kranken Freundin beizustehen.</p>		<p>1 Einführung und Vom Gehen im Eis 1</p> <p>2 Vom Gehen im Eis 2</p> <p>3 Vom Gehen im Eis 3</p> <p>4 Vom Gehen im Eis 4</p> <p>5 Vom Gehen im Eis 5</p> <p>6 Vom Gehen im Eis 6</p> <p>7 Vom Gehen im Eis 7</p> <p>8 Vom Gehen im Eis 8</p> <p>9 Vom Gehen im Eis 9</p> <p>10 Vom Gehen im Eis 10</p> <p>11 Vom Gehen im Eis 11</p> <p>12 Vom Gehen im Eis 12</p> <p>13 Vom Gehen im Eis 13</p> <p>14 Vom Gehen im Eis 14</p> <p>15 Prüfung im Rahmen des Unterrichts</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Im Unterricht werden wir ziemlich viel Text lesen, eine Vorbereitung dazu ist notwendig. Ausserdem sollten auch Vokabeln gelernt werden.		
テキスト、参考文献	Alle notwendigen Texte werden im Unterricht verteilt werden		
評価方法	Semesterendtest 50%, und Impression 50%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	T. カーラー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Das Gehen und seine kulturellen Implikationen</p> <p>Im Sommersemester hatten wir von Werner Herzog “Vom Gehen im Eis” gelesen, im Wintersemester wollen wir spezifische kulturelle Aspekte des Gehens aufgreifen.</p> <p>Es gibt weltweit verschiedene Pilgerwege, auf denen der Mensch Körper und Seele reinigt, bevor das Treffen mit der jeweiligen Gottheit beginnt.</p> <p>Es gibt berühmte Wanderstrecken, auf denen oft gegangen wird und die von Menschen mit Inhalt angereichert worden sind.</p> <p>Dann gibt es seminomadisch und nomadisch lebende Menschen, für die das Gehen eine ganz besondere Bedeutung hat.</p> <p>Politische Märsche haben in der Geschichte eine wichtige Bedeutung erlangt. Davon auch ein paar.</p>		<p>1 Bekannte Pilgerwege: 88 Stationen auf Shikoku</p> <p>2 Bekannte Pilgerwege: Santiago de Compostella</p> <p>3 Bekannte Pilgerwege: Qollur Riti in den Anden</p> <p>4 Berühmte Wanderwege: Oku no hosomichi</p> <p>5 Berühmte Wanderwege: Tokaido</p> <p>6 Berühmte Wanderwege: Pacific Trail</p> <p>7 Ureinwohner Australiens I</p> <p>8 Ureinwohner Australiens II</p> <p>9 Nomaden Afrikas I</p> <p>10 Nomaden Afrikas II</p> <p>11 Nomaden Borneos I</p> <p>12 Nomaden in Kanada</p> <p>13 Politische Märsche I</p> <p>14 Politische Märsche II</p> <p>15 Prüfung im Rahmen des Unterrichts</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Es ist wichtig, nach jedem Unterricht die wichtigsten Vokabeln zu memorisieren.		
テキスト、参考文献	Die notwendigen Unterlagen und Texte werden alle im Unterricht verteilt werden		
評価方法	Semesterendtest 50%, und Impression 50%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Die Teilnehmer sollen einen Überblick über die großen Tageszeitungen und Magazine in Deutschland erhalten, um später selbstständig die gesellschaftlichen Diskussionen verfolgen zu können. Im Fokus stehen dabei die (voraussichtlich) großen Themen (Flüchtlingskrise, Rechtspopulismus, Wahlkampf etc.), die unter dem Aspekt einer allgemeinen Medienkrise kritisch betrachtet werden sollen. Themenvorschläge der Teilnehmer sind jederzeit willkommen.</p> <p>Die Studenten sollen unter anderem medien-theoretisches und politisches Vokabular erwerben, um den gesellschaftlichen Diskurs im medialen Vergleich kritisch verfolgen und beurteilen zu können.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Kurs- und Themenvorstellung 2. Thema 1 3. Thema 2/1 4. Thema 2/2 5. Thema 3/1 6. Thema 3/2 7. Thema 4/1 8. Thema 4/2 9. Thema 5/1 10. Thema 5/2 11. Thema 5/3 12. Thema 6/1 13. Thema 6/2 14. Thema 6/3 15. Zusammenfassung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils in einem Rahmen zwischen 15 und 30 Minuten bewegen..		
テキスト、参考文献	Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.		
評価方法	Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht (60%) und einem Multiple-Choice-Test (40%), der sich auf die bearbeiteten Themen und daran anschließenden Diskussionen bezieht.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	T. マイヤー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Im Kontext der regelmäßig wiederkehrenden Diskussion um eine so genannte „deutsche Leitkultur“, erschien 2011 das Buch „Die deutsche Seele“ von Thea Dorn, einer Philosophin und Literaturwissenschaftlerin, und Richard Wagner, einem aus Rumänien stammenden Schriftsteller (Ehemann der Literaturnobelpreisträgerin Herta Müller). Anhand verschiedener Themen versuchten sie herauszuarbeiten, was im 21. Jahrhundert eigentlich noch “typisch deutsch” ist. Die Texte geben Einblick in die deutsche Alltagskultur und Geschichte.</p> <p>Im Unterricht sollen einige Kapitel aus dem Buch gelesen und diskutiert werden. Es können je nach Interessenlage und Diskussionsentwicklung noch Themenänderungen vorgenommen werden.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Buch und Themenvorstellung 2. Abendstille 3. Rabenmutter 4. Querdenker 5. Kitsch 6. Feierabend 1 7. Feierabend 2 8. German Angst 1 9. German Angst 2 10. Freikörperkultur 1 11. Freikörperkultur 2 12. Freikörperkultur 3 13. Wiedergutmachung 1 14. Wiedergutmachung 2 15. Zusammenfassung 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Die Texte werden in der Regel im Unterricht gelesen und sind bisweilen zu Hause vorzubereiten. Im Unterricht unerledigte Aufgaben sind eventuell als Hausaufgabe zu beenden. Dies sollte sich jeweils in einem Rahmen zwischen 15 und 30 Minuten bewegen..		
テキスト、参考文献	Die Texte werden digital übermittelt oder als Kopien ausgeteilt.		
評価方法	Die Note setzt sich zusammen aus der Mitarbeit im Unterricht (60%) und einem Multiple-Choice-Test (40%), der sich auf die bearbeiteten Themen und daran anschließenden Diskussionen bezieht.		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの戦争責任とEUの東方拡大/日本の戦争責任と東アジア</p> <p>第二次世界大戦後のドイツと中央・東ヨーロッパの国々との関係と、日本と東アジアの国々との関係には差があるとされる。現代社会に今なお影を落とす戦争責任の問題に着目し、それがなぜかを考えたい。まずヨハネス・ボブロフスキーの短篇とインタビュー、ジークフリート・レンツの短篇とエッセーを取り上げる。彼らはいずれも「東プロイセン」という「辺境」出身であり、このことが戦争責任との関連で、EUの東方拡大がもたらす現代社会の問題を考察する上で意味のある視点になるのではないかと。また(日独比較の観点から)村上春樹の短篇「中国行きのスロウ・ボート」(1980)も考察したい。これは彼が『海』という文芸誌に初めて発表した短篇で、その後2度も改稿し発表し直している(1983/1990)。何を書き足し、何を削除したのか、またそれはなぜか、テキストを精緻に読み解くことにより、「戦争責任とは本来どのようなものであるべきか」を考える機会にもなればよいと思う。</p>		<p>1-2.ドイツ語基礎の復習(→履修者が確定するまで、これまでに学習したドイツ語基礎を、ドイツ語で書かれたまとまった分量のテキストを読むためのknow-howを理解しているかを徹底的に確認したい。何らかの理由で履修登録できなくとも、この2回分のみを受講するだけでも、ある程度の値打ちはあると思う。)</p> <p>3-5. Johannes Bobrowski: Mäusefest.</p> <p>6-8. Johannes Bobrowski: Betrachtung eines Bildes.</p> <p>9-11. Johannes Bobrowski: Meinen Landsleuten erzählen, was sie nicht wissen. Ein Interview von Irma Reblitz.</p> <p>12-15. Haruki Murakami: Frachtschiff nach China (「中国行きのスロウ・ボート」)</p> <p>※進度により、扱うテキストの増減が考えられる。</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Rom ist nicht an einem Tag erbaut worden: 時間をかけて丁寧に予習し不明な点を洗いざらい書き出した上で授業に臨むことが肝要です。		
テキスト、参考文献	テキスト: プリントを配布する。参考文献: アライダ・アスマン『記憶の中の歴史—個人的経験から公的演出へ』磯崎康太郎訳 松籟社 2011年, アライダ・アスマン『想起の空間—文化的記憶の形態と変遷』水声社 安川晴基訳 2007年		
評価方法	(1) 授業には綿密に準備した上で積極的に参加すること。(2) 期日までに課題を提出すること(→課題の出来、またやり直しを提出したかも含む)。: 100% ※万が一履修者が多い場合には、学期末テストあるいはレポートを課します。		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	秋山 大輔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの戦争責任とEUの東方拡大/日本の戦争責任と東アジア</p> <p>同上。</p> <p>(付記1)ドイツ語基礎(文法)を一通り学習していることを履修の前提とします(→この条件を満たせば、3・4年生以外の、あるいはドイツ語学科以外の学生の聴講も歓迎します)。2017年4月あるいは2017年9月の時点でのその習熟の度合いは問いません。ただ予習を比較的多くしなければなりません。そして復習をそれより多くしなければなりません。またその努力が必ずしもすぐに目に見える結果となり表れるとは限りません。しかしそうした中でも熱心に課題に取り組み、継続して努力する学生が集うことを期待しています。</p> <p>(付記2)一方的な教授に終始せず、テキストの内容について討論する機会に加えて、場合によっては研究発表の機会も設けます。</p>		<p>1-2.ドイツ語基礎の復習(→およそ2か月間の休養明けであることを考慮し、履修者が確定するまで、これまでに学習したドイツ語基礎を、ドイツ語で書かれたまとまった分量のテキストを読むためのknow-howを理解しているかを確認したい。何らかの理由で履修登録できなくとも、この2回分のみを受講するだけでも、ある程度の値打ちはあると思う。)</p> <p>3-5. Siegfried Lenz: Über das Gedächtnis.</p> <p>6-8. Siegfried Lenz: Geschichte erzählen—Geschichten erzählen.</p> <p>9-11. Siegfried Lenz: Nachzahlung.</p> <p>12-15. Auszug aus Haruki Murakamis Mister Aufziehvogel (『ねじまき鳥クロニクル』) und Afterdark (『アフターダーク』)</p> <p>※進度により、扱うテキストの増減が考えられる。</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	Rom ist nicht an einem Tag erbaut worden: 時間をかけて丁寧に予習し不明な点を洗いざらい書き出した上で授業に臨むことが肝要です。		
テキスト、参考文献	テキスト: プリントを配布する。参考文献: アライダ・アスマン『記憶の中の歴史—個人的経験から公的演出へ』磯崎康太郎訳 松籟社 2011年, アライダ・アスマン『想起の空間—文化的記憶の形態と変遷』水声社 安川晴基訳 2007年		
評価方法	(1) 授業には綿密に準備した上で積極的に参加すること。(2) 期日までに課題を提出すること(→課題の出来、またやり直しを提出したかも含む)。: 100% ※万が一履修者が多い場合には、学年末テストあるいはレポートを課します。		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、ドイツ中世史の中でも激動の時代の一つであり、伝説的な王フリードリヒ・バルバロッサを輩出したシュタウフェン朝（12～13世紀）について、入門書のK. Görich, <i>Die Staufer</i> (C. H. Beck, München 2006)の講読を通じて学んでいく。</p> <p>前半は全員でテキストを読み、研究文献の読み方や専門用語を学ぶ。後半は個人もしくはグループで発表してもらい、発表内容をまとめてレポートにしてもらう。</p> <p>学生の関心と必要に応じてG. Merville/ M. Staub (Hg.), <i>Enzyklopädie des Mittelalters</i>, Bd. 1 (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 2008)及び<i>Lexikon des Mittelalters</i>の当該項目も参照する。使用するテキストはコピーを配布する。参考文献は初回授業時に指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義 2. 発表の振り分け、講義、テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. 学生による発表 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 学生による発表 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定範囲を事前に精読してきてください。学期後半の発表の準備を順次進めてください。		
テキスト、参考文献	K. Görich, <i>Die Staufer</i> (C. H. Beck, München 2006)、G. Merville/ M. Staub (Hg.), <i>Enzyklopädie des Mittelalters</i> , Bd. 1 (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 2008)		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 30%、レポート 20%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	有信 真美菜
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ヨーロッパ中世の騎士」と言われて、大抵の人は何となくイメージが思い浮かぶと思うが、騎士とは何かを説明するのは意外に難しい。この授業では、中世の騎士に関する基本的な文献であるW. Paravicini, <i>Die ritterlich-höfische Kultur des Mittelalters</i> (R. Oldenburg Verlag, München 1999)の講読を通じて、中世の騎士とは何かを具体的に学ぶ。</p> <p>前半は全員でテキストを読み、研究文献の読み方や専門用語を学ぶ。後半は個人もしくはグループで発表してもらい、発表内容をまとめてレポートにしてもらう。</p> <p>学生の関心と必要に応じてG. Merville/ M. Staub (Hg.), <i>Enzyklopädie des Mittelalters</i>, Bd. 1 (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 2008)の当該項目も参照する。使用するテキストはコピーを配布する。参考文献は初回授業時に指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、講義 2. 発表の振り分け、講義、テキスト精読 3. テキスト精読 4. テキスト精読 5. テキスト精読 6. テキスト精読 7. テキスト精読 8. テキスト精読 9. テキスト精読 10. 学生による発表 11. 学生による発表 12. 学生による発表 13. 学生による発表 14. 学生による発表 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定範囲を事前に精読してきてください。学期後半の発表の準備を順次進めてください。		
テキスト、参考文献	W. Paravicini, <i>Die ritterlich-höfische Kultur des Mittelalters</i> (R. Oldenburg Verlag, München 1999)、G. Merville/ M. Staub (Hg.), <i>Enzyklopädie des Mittelalters</i> , Bd. 1 (Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt 2008)		
評価方法	授業への参加度 50%、発表 30%、レポート 20%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	大重 光太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、ドイツの雇用と社会保障の領域についてのドイツ語文献を読み、ドイツの現状と問題点について考えていきます。</p> <p>具体的には、低賃金・不安定雇用問題、格差問題、少子化・高齢化、年金、介護問題、外国人労働、移民の職業教育などを念頭においています。</p> <p>文献は主としてDeutsche Welle のWeb記事を考えています。Deutsche Welle はドイツの国外向け公共放送ですので、国内向けの記事よりもわかりやすく書かれています。必要に応じて、それ以外の文献資料も取り上げます。</p> <p>学期末には、各自で授業の内容に関わったテーマを設定してもらい、日本語資料に頼らず、ドイツ語文献・資料のみをもとにレポート（日本語でよい）を作成・提出してもらいます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第13回 テキスト講読と討論</p> <p>第14回 全体討論</p> <p>第15回 まとめ</p>	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前の予習、レポート作成に向けた各自の学習。		
テキスト、参考文献	主として Deutsche Welle の記事。適宜、他のメディア記事や雑誌記事を扱う。		
評価方法	授業での参加度、期末レポートの総合評価		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） a	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思ひます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなつてきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を得る機会となるでしょう。</p> <p>この授業では、ドイツの歴史の教科書を読むことによつてドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することに重点を置いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方・評価方法・テキストについて) 2. ドイツの教育制度と歴史教育について 3. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 4～14. 講読と解説、教科書の内容や課題に関する検討 (必要に応じて、映像資料を見たり、討論の時間をとります) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。		
テキスト、参考文献	ドイツの歴史教科書より抜粋してプリント配布します。		
評価方法	試験 60%、授業中の発表 40%		

09年度以降	テキスト研究（現代社会・ <u>歴史</u> ） b	担当者	黒田 多美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ドイツの学校ではどのような教科書で歴史を学んでいるのでしょうか。またどのような学習目標とコンセプトで教科書が編集されているのでしょうか。この授業では、実際にドイツの中学校で使われている教科書から、受講者の関心のある項目を選んで読んでいきたいと思ひます。</p> <p>ドイツの中学校の歴史教育では、現代に近づけば近づくほど詳しく、資料も多くなつてきます。そして資料解釈と討論が歴史授業での重要な要素になっています。日本の中学校や高等学校で、事項の説明や年号の暗記を中心に歴史を学んできた学生にとっては、ドイツの教科書を読解することで歴史への新しい視点を得る機会となるでしょう。</p> <p>この授業では、ドイツの歴史の教科書を読むことによつてドイツ史に関する知識を習得するとともに、単にドイツ語を日本語に翻訳するのではなく、内容を正確に把握して著者の意図を解析することに重点を置いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(授業の進め方・評価方法・テキストについて) 2. ドイツの教育制度と歴史教育について 3. ドイツの歴史教科書と学習に関する概説 4～14. 講読と解説、教科書の内容や課題に関する検討 (必要に応じて、映像資料を見たり、討論の時間をとります) 15. まとめ 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業には予習をして臨むことが前提で、自発的に発表することが求められます。		
テキスト、参考文献	ドイツの歴史教科書より抜粋してプリント配布します。		
評価方法	試験 60%、授業中の発表 40%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では新聞またはインターネットで配信された時事ニュースを読むこと、さらにテーマに基づいて各自がレポートを書き、学期の最後までに完成させることの二本立てで進めます。春学期のテーマは「ドイツの難民・移民」を予定しています。本授業のレポートはただ調べてまとめるものではなく、問題意識を持ち、自分なりの主張や解決策を具体的に提案するものです。テーマはドイツの難民・移民に関するものであれば自由です。社会・文化・言語・教育など多角的な検討を通じて、様々な問題について考えていきたいと思ひます。授業では各自のテーマ選びから文献収集、アウトライン執筆、第1稿から第3稿提出まで段階的に行います。全てのプロセスは授業内でグループワーク、発表などを通じ、ディスカッションしながら行います。レポートは2500字～3000字程度、授業内で中間発表、最終発表など随時発表と検討の機会を設けます。		毎回のテキスト読解のほか、レポート作成は以下の段階で進めます。 第1回 インTRODクシヨン 第2～3回 レポートテーマ、資料整理 第4回 用語の定義・レポートの主張を整理 第5～6回 中間発表 第7～8回 アウトライン・参考文献 第9～10回 アウトラインチェック・第1稿執筆 第11～12回 第1稿チェック・第1稿評価 第13～15回 第2稿発表、第3稿提出	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。レポートは家での準備と執筆が中心になります。本講座の参加は資料を調べ、執筆を行う時間があることを前提とします。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントにて授業内で配布します。		
評価方法	アウトライン 10% 第1稿 10% 第2稿 20% 第3稿 40% 小テスト 10% 授業への参加度 10%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	中川 純子
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では新聞またはインターネットで配信された時事ニュースを読むこと、さらにテーマに基づいて各自がレポートを書き、学期の最後までに完成させることの二本立てで進めます。秋学期のテーマは春に引き続き「難民・移民」を予定しています。本授業のレポートはただ調べてまとめるものではなく、選んだ問題について自分なりの主張や解決策を具体的に提案するものです。テーマは難民・移民に関するものであれば自由です。社会・文化・言語・教育など多角的な検討を通じて、様々な問題について考えていきたいと思ひます。授業では各自のテーマ選びから文献収集、アウトライン執筆、第1稿から第3稿提出まで段階的に行います。全てのプロセスは授業内でグループワーク、発表などを通じ、ディスカッションしながら行います。レポートは2500字～3000字程度、授業内で中間発表、最終発表など随時発表と検討の機会を設けます。		毎回のテキスト読解のほか、レポート作成は以下の段階で進めます。 第1回 インTRODクシヨン 第2～3回 レポートテーマ、資料整理 第4回 用語の定義・レポートの主張を整理 第5～6回 中間発表 第7～8回 アウトライン・参考文献 第9～10回 アウトラインチェック・第1稿執筆 第11～12回 第1稿チェック・第1稿評価 第13～15回 第2稿発表、第3稿提出	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。レポートは家での準備と執筆が中心になります。本講座の参加は資料を調べ、執筆を行う時間のあることを前提とします。		
テキスト、参考文献	テキストはプリントにて授業内で配布します。		
評価方法	アウトライン 10% 第1稿 10% 第2稿 20% 第3稿 40% 小テスト 10% 授業への参加度 10%		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) a	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>若きハイデガーの『存在論 - 事実性の解釈学』(1923)は、『存在と時間』の「現存在の予備的分析」(1926)で繰り返されています、人が自分で有ることの真性と事実性の解釈をテキスト研究します。公共性のマスクしたヒトという非本来的実存の謎、伝統的な存在論解体の根本動機に迫ります。いわゆる対話弁証法でない。問うても答えがない、答えようが無い、解釈学的循環からする思索の道として出口無し、死へと向かう生(本来的実存)を先取りする姿勢に、アリストテレス的運動論との係わりを解明します。ヴェーバーの「理解社会学」を念頭に、何処からの問い、(出自)を隠さず公共性に身を晒すヒトを重視するアレントとの比較は避けがたい。己の実存を「終り」から考えるか、それとも「初め」(出自)から受け止め直すか、ドイツ語で自分の人生を考え直す良い機会です。メディアにパワーポイントを使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 導入 2. Ontologie -Hermeneutik der Faktizität (1) 3. Ontologie -Hermeneutik der Faktizität (2) 4. Ontologie -Hermeneutik der Faktizität (3) 5. Ontologie -Hermeneutik der Faktizität (4) 6. Ontologie -Hermeneutik der Faktizität (5) 7. Sein und Zeit (1), Einleitung 8. Sein und Zeit (2), Interpretation des Daseins 9. Sein und Zeit (3), Interpretation des Daseins 10. Sein und Zeit (4), Über „das Man“ im Alltag 11. Referat (1) 個人発表 12. Referat (2) 個人発表 13. Referat (3) グループ発表 14. Fazit: 全体討議と課題確認 15. Fazit: 最後の総括と展望 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	<i>Sein und Zeit</i> の原書または邦訳に目を通し、難解な訳語に手こずらないように準備すること。		
テキスト、参考文献	Martin Heidegger, <i>Ontologie – Hermeneutik der Faktizität</i> , 1923 (GA. 63), und <i>Sein und Zeit</i> , §9, 19 35, S. 41 ff.		
評価方法	基本的にはレポート提出、個人またグループでの課題発表		

09年度以降	テキスト研究 (現代社会)・歴史) b	担当者	宮村 重徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>存在は教養でない、存在の真性(覆われの無さ)を問題とするハイデガーの理解とプラトン講義「洞窟の譬喩」をテキスト研究に取り上げます。『道標』と『杵臼』では、後期ハイデガーの言語経験への深まりが注目されます。東洋の仏教哲学や西田の「無の哲学」との近さと遠さを紐解く中で、『黒いノート』解明にも役立つでしょう。逆説を説いても所詮は自己との対話に変わりありません。ハイデガーの存在論即真理論には答が無い、安易な回答を予測させない。だからこそ、終りから或いは初めから、じっくり自分の人生を考える・仕切り直すにまたないチャンス、かけがえのない布石の一手となるでしょう。全体としてハイデガーがフッサールともシェーラーとどう違うか、逆説的真理論の真意に迫ります。アリストテレスの現象学的解釈が重要な鍵となります。メディアにパワーポイントを使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Einführung 導入 2. Platons Lehre von der Wahrheit (1) 3. Platons Lehre von der Wahrheit (2) 4. Platons Lehre von der Wahrheit (3) 5. Platons Lehre von der Wahrheit (4) 6. Platons Lehre von der Wahrheit (5) 7. Platons Lehre von der Wahrheit (6) 8. Phänomenologische Interpretation zu Aristoteles 9. Aristoterische Interpretation, in Fortsetzung (2) 10. Arendts Kritik, Was ist die Existenz? 11. Heideggers Begegnis mit Basho 12. Referat (1) 個人発表 13. Referat (2) 個人発表+グループ発表 14. Fazit: 全体討議と課題確認 15. Fazit: 最後の総括と展望 	
到達目標	専門的なドイツ語テキストを講読し、現代社会・歴史に関する分野について背景知識を含めて総合的に研究し、分析を行い見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	プラトン講義のドイツ語テキスト或いは邦訳に目を通し、大意を掴んでおくことをお勧めします。		
テキスト、参考文献	Martin Heidegger, <i>Platons Lehre von der Wahrheit</i> , 1931 / 32, in: <i>Wegmarken</i> . Klostermann, Frankfurt am Main 2004. (GA.Bd.9, Bd.31)		
評価方法	基本的にはレポート提出、個人またグループでの課題発表		

交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものに対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 1章 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3章 5. 教育・学び・文化 4章、5章 6. ジェンダーとフェミニズム 6章 2 7. 宗教と社会開発 NGO 7章 2 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 7章 3 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8章 2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 8章 3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。 ※DUOで各自購入してください		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、多様化など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要： 本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。また、様々なビジネス理論の解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 最近の航空産業の動きなど 3. 航空産業とキャリアデザイン 4. 航空とは何か 5. 航空の歴史 6. LCC（低コスト航空会社）が世界を変える 7. 航空事業の特性と運賃 8. 米国チャプター11（連邦破産法第11章） 9. JALの破綻と復活 10. 規制緩和とオープンスカイ政策 11. 航空機製造ビジネス 12. 三菱リージョナルジェット（MRJ）飛翔 13. 空港 14. 国際航空法 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）		
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）：『最新・航空事業論（第2版）』（2016年12月、日本評論社）		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画50%、最終試験50%		

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	学期中レポート課題図書 トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。※各自で DUO で購入すること。		
評価方法	期末試験（70%）、学期中レポート1回（30%）。		

13年度以降	交流文化論（ツーリズム特殊講義 （紛争事例から学ぶ旅行契約法入門））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、旅行契約に関する具体的な紛争事例の解決策を検討することを通じて、旅行契約に関する法（主に民法）のあり方と基本的な考え方を学びます。全部で3つの紛争事例を課題として取り上げる予定ですが、各事例の解決に向けて、グループで活動しながら、課題の解決に必要な知識や技能、態度を協調的・自立的に学習していきます。最後に総仕上げとして、口頭発表会を開催して、各自（履修者数によってはグループごと）の学習成果を発表します。</p> <p>この授業を通じて、旅行契約において生じる法的問題のうち、少なくとも1つについて、法律学を学習したことのない人に対して、分かりやすく、自分の言葉で、簡潔に（口頭3分、文書1200字程度）、ただし法的思考の作法に従って、解答することができるようになることを目指します（これがこの授業の獲得目標の一つになります）。</p> <p>具体的な授業の進め方や成績評価の方法などについては、第1回のオリエンテーションで詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. PBLウォーミングアップ 3. 第1事例（その1） 4. 第1事例（その2） 5. 第1事例（その3） 6. 第2事例（その1） 7. 第2事例（その2） 8. 第2事例（その3） 9. 第3事例（その1） 10. 第3事例（その2） 11. 第3事例（その3） 12. 口頭発表会の準備 13. 口頭発表会（その1） 14. 口頭発表会（その2）（予備を兼ねる） 15. まとめと振り返り（予備日） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各事例1回目の授業後は、授業中の活動を通じて抽出した学習課題について、各自が調査・検討し、2回目の授業では、その結果を持ち寄り、さらに学習課題を抽出し、授業後は、その課題について各自が調査・検討して、3回目の授業にその結果を寄せ合い、検討してまとめる、というサイクルになります。		
テキスト、参考文献	学習に必要な文献・資料は、原則として受講者自身が協力し合って調査・収集するのが基本としますが、必要に応じて、教員が指示ないし配布します。		
評価方法	ラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）による評価とします。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 3. ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 4. ツーリズム産業の競争環境 5. パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 6. パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 7. パッケージツアー③：身体化される団体旅行 8. パッケージツアー④：商品企画における「知識」 9. 空間の管理とテーマ化 10. テーマ化された空間とハイブリッド消費 11. 感情労働 12. テーマ化された空間に暮らす 13. 生活とツーリズム 14. 「ツーリズムの終焉」とツーリズム産業 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル化と子ども））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界では約2億6000万人の子どもが児童労働に従事している。こうした子どもたちが抱える問題やその背景を理解すると同時に、グローバル化や私たちがどのようにかかわっているのかを理解する。また、問題を解決するために、国際機関やNGOの取り組みについて理解する。</p> <p>この授業を通じて、世界の子どもの問題について単に「かわいそう」というだけでなく、社会科学的に理解し説明できるようになります。また、「子どもの権利条約」を理解して、現状を分析し、解決方法について考えることができるようになります。また、国際社会の規範の変容における国連の役割、国家・社会の規範や政策の変容プロセスを理解し、説明することができるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（概要と、予習・復習について） 2. アジアの児童労働 3. タイのストリート・チルドレン 4. 赤ちゃんの値段－国際養子縁組問題 5. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part I 6. 女性と子どものヒューマン・トラフィック Part II 7. ヒューマン・トラフィック撲滅への取り組み 8. 日本の子どもの貧困 9. 在日外国人の子どもの問題（アクティブラーニング） 10. アフリカの子ども兵士 11. イラク戦争と子どもたち 12. 子どもの権利の実現に向けての国連の役割 13. 子どもと教育について（アクティブラーニング） 14. 国連の安全保障と子どもの保護 15. 今学期のまとめ（質疑応答など） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの指定された部分を事前に読んでおくこと。授業で示されるポイントに従って復習する。あるいは、授業で出された課題に取り組むこと。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト 初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲編『国際関係の中の子どもたち』（晃洋書房、2015年）</p> <p>参考文献 授業中に紹介</p>		
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは? 2. メディアの源流①:メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②:宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①:ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④:ニューヨーク・タイムズの19世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20世紀とメディア①:国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20世紀とメディア②:ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20世紀とメディア③:湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②:ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③:トランスナショナル・メディアと わたしたち 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。</p> <p>本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。</p> <p>具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思ひます。受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌1 4. グローバリゼーションの民族誌2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急1』 7. 表象の政治学—情報資本主義と観光 8. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム—タイの事例 13. エスニック・ツーリズム—タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権—北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光—広島および西アフリカの事例 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（戦争の記憶と表象—記念碑とミュージアムを中心に）</p> <p>昨年の授業に引き続いて、戦争の記憶と表象について、記念碑とミュージアムを中心に考察します。</p> <p>今年は、若手の社会学者である古市憲寿が、やはり学生など若い読者を想定して書いた『誰も戦争を教えられない』をテキストとして使うので、少し身近な問題として考えてもらえるかな、と思っています。</p> <p>靖国神社と「女たちの戦争と平和資料館」は、週末を利用して、授業のフィールドワークとして訪問したいと考えています。それ以外にもミュージアムの見学、映画鑑賞、学外でのセミナーへの参加など、積極的に行動してくれる学生に取って欲しい授業です。</p> <p>テーマは昨年と同じですが、授業内容は変わります。続けて履修したい方は相談してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その1） 2. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その2） 3. 映画『西部戦線異状なし』と『カサブランカ』（その3） 4. パールハーバーと南京 5. 「慰安婦」（その1） 6. 「慰安婦」（その2） 7. 靖国（その1） 8. 靖国（その2） 9. 東京 10. 広島 11. 沖縄 12. ロンドン 13. ベルリン 14. ワシントンDC 15. まとめのディスカッション 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	必ず事前にテキストを読み、自分の意見や質問をまとめた上で授業に臨んでください。事後は教室でのディスカッションをふまえ、クラスで作成するフェイスブック非公開グループにコメントを掲載してください。		
テキスト、参考文献	藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001、800円）、古市憲寿『誰も戦争を教えられない』（講談社+α文庫、2015、850円）、その他、論文、英文の新聞雑誌記事など。		
評価方法	学期末に提出するレポートに加えて、教室での発表、フェイスブックへのコメントを評価対象とします。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル社会での平和））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平和とは単に戦争やテロがない状態をいうのではなく、構造的暴力（貧困や差別・偏見によって生じる不平等や権力の非対称性など）のない状態をいう。今日のグローバル社会の中で、どのような構造的暴力が存在するのか、それに対して私たちは何ができるのだろうか。また、私たちにとって身近なアジアとの関係はどのような歩みを経て、何が問題となっているのかを振り返り、アジアの平和についても考えてみたい。そして、現代の紛争と平和構築の問題や環境問題についても取り上げる。この授業を通して、みなさんが国際社会の様々な問題についての構造を分析し、解決方法について考える力を身につけてくれることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 平和学の基本概念について 2. 低価格の洋服から考える平和 3. ファストファッションの是非を考える 4. モノから考えるグローバル経済と私たちがつくる平和 5. アジアのフェアトレード（民衆交易）とNGO 6. アジアの戦争と平和の歴史（1） 7. アジアの戦争と平和の歴史（2） 8. アジアの戦争－和解に向けての市民交流やNGOの役割 9. 地球人として平和を創るピースボート 10. グローバル時代の紛争と平和構築（1） 11. グローバル時代の紛争と平和構築（2） 12. 移民・難民問題と日本 13. 環境と平和について（1） 14. 環境と平和について（2） 15. これまでのまとめ（質疑応答など） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業に該当するテキストの部分を予習・あるいは復習としてまとめるよう、適宜指示していきます。		
テキスト、参考文献	<p>テキスト：堀芳枝編『学生のためのピースノート2』コモンズ、2015年。 参考文献：授業で紹介する</p>		
評価方法	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 2020年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議などについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. イベント・コンベンションについて① 3. イベント・コンベンションについて② 4. 国際博覧会 5. 2020年東京オリンピック・パラリンピック 6. 障害者スポーツとパラリンピックについて 7. 国際会議・イベントについての「ディスカッション」 8. 古代オリンピック 9. ビジネスの視点からのオリンピック① 10. ビジネスの視点からのオリンピック② 11. プレゼンテーション： 「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① 12. " ② 13. " ③ 14. " ④ 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	授業での発言、受講姿勢、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要： ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ツーリズムの基本構造（1） 3. ツーリズムの基本構造（2） 4. マーケティングとは何か？ 5. ツーリズム政策とマーケティング理論 6. ツーリズム政策の変遷 7. ツーリズム政策における我が国の課題 8. (ツーリズム政策に関する) ディスカッション 9. 世界のツーリズム政策（シンガポール） 10. 世界のツーリズム政策（ドイツ） 11. 世界のツーリズム政策（スイス） 12. 世界のツーリズム政策（フランス） 13. 日本各地のツーリズム政策（地域振興など） 14. ツーリズムとキャリアデザイン 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に予習しておくこと		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する		
評価方法	受講姿勢、ディスカッションでの発言など講義参画 50%、最終試験 50%		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章） 3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章） 4. 生ゴミリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（3章） 5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（4章） 6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグラン（10章） 8. スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） 9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根県（7章） 10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11章） 12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章） 15. まとめ、試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読		
テキスト、参考文献	<p>（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版</p> <p>※DUOで各自購入してください</p>		
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。		

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「<u>共生</u>」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 社会学とは 3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 在日コリアンを例に 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。		
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。		
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が1回ある（15%）。		

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動向について考える視野を身につけることを目標とする。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3. おみやげとスーベニア 4. 観光みやげの近代 5. 「民芸品」をめぐるまなざし 6. 観光みやげと真正性 7. 観光みやげのギフト性 8. 観光みやげの儀礼的倒錯性 9. 観光みやげと「ものがたり」 10. こけしと木彫り熊 11. 旅するマトリョーシカ① 12. 旅するマトリョーシカ② 13. 民芸品としてのアジア雑貨 14. アジアン雑貨が創る旅 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度／講義内小課題 20% 期末試験 80%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバル経済とジェンダー））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済のグローバル化が進展しているが、女性はどうの影響を受けているのだろうか。それを知るためには、現在経済成長が著しいアジアに着目するとよいだろう。アジア開発銀行は『アジア2050ーアジアの世紀の誕生』（2012）の中で、現在のアジアの成長が続けば、その名目GDPは世界全体の50%を超えるとし、21世紀はまさしくアジアの世紀だと述べた。したがって、アジア経済の成長（および日本）と女性（ジェンダー）の関係に着目しながら、グローバル経済の実態を解いてゆく。この授業を通して、古典的国際分業から今日のグローバル経済を構成している3つの新国際分業、金融領域のグローバル化、そしてそれぞれにおける女性の労働の問題を理解し、自分自身の問題として考えることができるようになってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスー授業の内容、進め方、予習復習について 2. 古典的国際分業の成立と植民地・女性 3. 冷戦とアジアの工業化政策（1950・60年代） 4. 新国際分業体制（1970年代）とアジアNIES・中国 5. 再生産領域の新国際分業とフィリピン（1980年代） 6. フィリピンの「移住労働の女性化」が抱える課題 7. サービスの新国際分業インド・フィリピン（2000年代） 8. グローバリゼーションと新自由主義 9. 日本の女性の労働力の商品化“輝ける女性の活躍”？ 10. 金融領域のグローバル化とは？ 11. アジア通貨危機を考える 12. 金融領域のジェンダー化の問題 13. ASEANと東アジア共同体について 14. これからの中国の経済成長について考える 15. 今学期のまとめ（質疑応答など） 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業の指示に従って予習を行うこと。復習は授業で示されるポイントに従って、プリントやノートに書かれたことをまとめておくこと。		
テキスト、参考文献	授業の初回で参考文献リストを配布		
評価方法	定期試験 80%、授業中に課すリアクションペーパー 20%		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆にSNSへアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&ラーソン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。</p> <p>そのためこの講義では、(1) 海外の研究成果を日本の社会文脈に導入し、(2) 写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、(3) また「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNSフォト」など最近のトランスナショナルな社会現象を考えること、を試みます。そうして「観る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探り、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：「観る」ことと「まなざし」 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：写真が「写真」になるとき 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：天皇のイメージとイマジネーション 8. 「撮る」の政治学①：「動く画」の衝撃（映画の誕生） 9. 「撮る」の政治学②：映画が「映画」になるとき 10. 「撮る」の政治学③：ディズニー映画とdomestication 11. 「撮る」の政治学④：「まなざし」の政治と主体 12. 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 写真とツーリズム②：「自撮り」とセルフ・ポートレート 14. 写真とツーリズム③：SNS時代の「観る」体験 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （シティズンシップ教育論））	担当者	花本 広志
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シティズンシップ教育とは、citizenship（市民性）、すなわち、市民社会の一員としての知識、技能、態度や価値観を育む教育のことです。「主権者教育」と呼ばれることもあります。もっとも、そもそも「市民性」とは何かについては議論のあるところですし、主権者教育と同じなのかについても議論があります。さらには、法教育との関係も問題となります。これらの点も含めて、この授業では、シティズンシップ教育とは何か、どうあるべきか、その教育方法などについて、協同学習の手法の1つである「LTD話し合い学習法」により学習していきます。そのうえで、最終的には、受講者が協同して、小学校高学年～中学生向けのシティズンシップ教育用教材（1時限分）を作成することを目指します。</p> <p>第1回のオリエンテーションでは、授業の目的と概要、成績評価の方法などについてより詳しく説明します。受講者のみなさんの主体的な参加が必須となる授業ですので、受講希望者は、可能な限り第1回目のオリエンテーションに出席して、どのような授業か理解したうえで履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. LTD導入ガイダンスとグループ分け 3. LTDの説明、予習及びミーティングの練習 4. LTDウォーミングアップ（練習用教材使用） 5. LTD第1回（市民性論・市民社会論） 6. LTD第2回（シティズンシップ教育） 7. LTD第3回（主権者教育） 8. LTD第4回（法教育） 9. LTD第5回（道徳教育との関係） 10. シティズンシップ教育用教材作成（その1） 11. シティズンシップ教育用教材作成（その2） 12. 教材発表会（受講者作成教材による模擬授業）1 13. 教材発表会 （受講者作成教材による模擬授業）2（予備） 14. 教材発表会の反省会（予備） 15. 授業全体のまとめと振り返り、 ラーニング・ポートフォリオの説明 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	事前学修では、LTDの方法に従って、教材となる文献につき予習ノートを作成します。事後学修では、授業でのLTDミーティングの結果を受けてノートを整理します。また、教材作成では、素材の選定や原案の作成、発表会の準備などを授業外で行うことがあります。		
テキスト、参考文献	教材は、必要に応じてその都度配布します。LTD話し合い学習法について予め知りたい人は、安永悟『実践・LTD話し合い学習法』（ナカニシヤ出版、2006年）などを参照してください。		
評価方法	成果物とラーニング・ポートフォリオ（受講者自身による学習成果のまとめ）により評価します。		

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要： 旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテルビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイント使用によって行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 3. 旅行産業の現状と課題① 4. 旅行産業の現状と課題② 5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① 6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② 7. リゾートホテル・ビジネス 8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） 9. 航空産業の最近の動向① 10. 航空産業の最近の動向② 11. プレゼンテーション① 12. プレゼンテーション② 13. プレゼンテーション③ 14. プレゼンテーション④ 15. 講義全体の“まとめ” 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。		
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。		
評価方法	受講姿勢、発言、講義参画 70%、プレゼンテーションとレポート 30%		

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害（生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等）を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。</p> <p>本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 貧困の商品化—スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略 6. 環境主義の商品化—エコリゾート 7. 世界遺産と観光1—ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光2—中国・麗江の事例 9. 先住民とアート—北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム—アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民1 12. エコツーリズムと先住民2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。		
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。		
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。		

13年度以降 12年度以前	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」や「観光くにつくり（観光立国）」のシンボルにもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的發展や地域再生などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」が埋立てた記憶 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の真正性と観光 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めてください。		
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。		
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。		

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （グローバリゼーションと市民社会））	担当者	堀 芳枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化が進む今日の国際社会において、NGOやNPOは市民社会の形成にどのような役割を果たしているのか。NGO（非政府組織）、NPO（非営利団体）、PO（住民組織）といった市民社会における主要なアクターの概念を理解し、アジアにおける平和運動や市民社会がどのような歴史を歩んできたのかについて考える。また、企業と異なるNGOやNPOはどのような組織形態で、どのようにマネージメントをしているのだろうか。非営利組織の運営という観点からもNGOやNPOを分析できるような力を身につけていきたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. NPO、NGO、POについての概要 3. NPOの組織とマネージメント（1） 4. NPOの組織とマネージメント（2） 5. 国際社会における市民運動の歴史を振り返る 6. 日本の市民社会とNGO・NPO（1） 7. 日本の市民社会とNGO・NPO（2） 8. フィリピンの市民社会とNGO（1） 9. フィリピンの市民社会とNGO（2） 10. タイの市民社会とNGO 11. カンボジアの市民社会とNGO（1） 12. カンボジアの市民社会とNGO（2） 13. バングラディッシュの市民社会とNGO 14. アジア諸国の市民社会とNGOのまとめ 15. 授業全体のまとめ 質疑応答など 	
到達目標	交流文化に関する各種分野について特定の専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業に該当する資料の予習、あるいは復習を適宜指示しますので、それに従ってください。		
テキスト、参考文献	参考文献：秦辰也編『アジアの市民社会とNGO』晃洋書房、2014年。ピーター・ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。		
評価方法	授業中に出す課題 20% 期末テスト 80%		

外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座	担当者	大重 光太郎 (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「今、ナショナリズムについて改めて考える」</p> <p>グローバリズムの進展がさまざまな弊害をもたらす中、それへの反動としてナショナリズムが強まっているように思われる。欧州でのイギリスのEU離脱、各国での極右・排外的ナショナリズムの台頭、アメリカ大統領選挙などは、そうした例とみることができる。こうしたなか、次のような問いが出てくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のナショナリズムの動きをどうとらえるべきなのか？ ・グローバリズムとナショナリズムの関係は？ ・グローバリズムの対案はナショナリズムなのか？ ・ナショナリズムは悪なのか？ ・「健全な」ナショナリズムとは何か？ ・日本のナショナリズムの現在とは？ 今後は？ <p>こうした問いを念頭におきながら、地域的・歴史的に多様な角度から、また社会科学だけでなく人文科学の立場も含めて、あらためてナショナリズムという問題を考えてい。</p> <p>なお第5回は英語のみでの授業です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション (大重光太郎) 2. スイス学入門：スイスのパンは、なぜ美味しくないのでか (田中善英) 3. ナショナリズムとハプスブルク君主 (上村敏郎) 4. ドイツにおけるナショナリズムの変遷 (黒田多美子) 5. Nationalism and Language (J. Wendel) 6. イギリスの女性参政権運動が現在に伝えるもの (片山重紀) 7. Origin of Jewish Nationalism (佐藤唯行) 8. モバイルネーション——移民・ディアスポラ、国民国家 (上野直子) 9. 日本のナショナリズムをどう見るか (渡辺治 一橋大学名誉教授) 10. 日本の難民受け入れの現状と課題 (新島彩子 NPO法人難民支援協会) 11. “Stop the boats” —オーストラリアの難民政策 (永野隆行) 12. 冷戦とナショナリズムの交錯 (水本義彦) 13. 2015年バリテロ事件 (横地卓哉) 14. ローカリズムともう1つのグローバル化 (北野取) 15. まとめ 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	講義の後、プリントならびに授業で紹介した文献を読み、自分で関心を持ったテーマを調べてほしい。		
テキスト、参考文献	大澤真幸ほか『ナショナリズムとグローバリズム 越境と愛国のパラドックス』新曜社、2014年。 塩川伸明『民族とネイション—ナショナリズムという難問』岩波書店 (岩波新書)、2008年。		
評価方法	期末テストは行わない。毎回提出のコメントペーパーをもとに成績評価を行う。		

09年度以降	総合講座	担当者	M. ビティヒ (コーディネーター)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「文化の学問的多様性 — 学際的概念とアプローチ」</p> <p>我々現代人は様々な場面で「文化」という言葉、そして「文化」を用いた合成語 (食文化、文化遺産等) や外来語 (コーポレート・カルチャー、カルチャー・ショック等) に出会う。「文化」「カルチャー」という表現は日常的にメディアにおいても溢れている。</p> <p>本講座では「文化」の語源、定義、概念等を議論するだけでなく文化科学、1960年代から文化一般に関する学問研究を進めているカルチュラル・スタディーズの様々な研究分野 (文化理論、比較文化論、政治経済、社会学、メディア論、映画理論、哲学、芸術史等) のアプローチと具体的な研究テーマを (サブ/ポップカルチャー) 挙げ、紹介することが目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門：文化とは何か 2. 文化—教養—学問 3. 大衆文化としての西洋絵画—カレンダーとルノワール 4. 世界文学とはなにか - フランスにおける外国文学の受容 5. ドイツの文化施設のあり方に文化学はどのような影響を与えたか？ 6. 芸術に想像力は必要か？ - 哲学的概念史と作品制作の観点から 7. 異文化間コミュニケーション 8. Tawaraya Sotatsu and the creative re-imagination of themes from classical Japanese culture 9. 〈越境〉のデザイン史：1920年代ウィーン・キネティシズム派の検証を例に 10. オペラ文化の現状と展望 11. GAMANする身体—アメリカのスラップスティック・コメディの系譜から考える我慢の精神 12. 芸術作品における「傑作」の条件とは何か - 美術史学の観点から 13. 文化を超えたコミュニケーション方略を探る 14. まとめ 15. 復習 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各講義後コメントペーパーを提出するため出席と前講義の内容の復習が不可欠である。		
テキスト、参考文献	授業内で指示する。		
評価方法	各講義が70分かかる。その後担当の先生の各テーマについて20分ほどのテストを行う。		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（1） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（1） フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（2） イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（3） イタリアを中心に 8. バロック音楽（1） イタリアを中心に 9. バロック音楽（2） フランスを中心に 10. バロック音楽（3） リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（4） イギリスを中心に 12. バロック音楽（5） ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（6） ドイツを中心に 14. バロック音楽（7） J.S. バッハを中心に 15. 授業内試験 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	総合講座	担当者	木村 佐千子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を踏まえて話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすしめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。音楽の専門的な知識は必要ありませんが、楽譜を用いて説明することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典派の音楽（1） ハイドン 2. 古典派の音楽（2） モーツァルト 3. 古典派の音楽（3） ベートーヴェン 4. 19世紀の音楽（1） ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19世紀の音楽（2） ヴィルトゥオーソの時代 6. 19世紀の音楽（3） フランスを中心に 7. 19世紀の音楽（4） ロシアを中心に 8. 19世紀の音楽（5） 北欧と東欧を中心に 9. 19世紀の音楽（6） スペインを中心に 10. 19～20世紀の音楽（1） チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20世紀の音楽（2） フランスを中心に 12. 19～20世紀の音楽（3） イタリアを中心に 13. ヨーロッパのクリスマス音楽 14. 19～20世紀の音楽（4） イギリス、アメリカを中心に 15. 授業内試験 	
到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。		
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。		
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）		

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度情報化社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学の発展 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。		
事前・事後学修の内容	サーバー上に開示するテキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。		
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。		
評価方法	定期試験の成績、課題の完成度、授業への参加度を併せて評価します。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ヨーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、ExcelおよびPowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPointの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArtグラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArtグラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excelとの連携(1) 13. Excelとの連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Wordの使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excelとの連携(1) 13. Excelとの連携(2) 14. まとめ 15. まとめ 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

16年度以降 15年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 a） 情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>コーパス言語学aでは、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」という基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際にコーパスデータを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 第1章「コーパス言語学への招待」 第2章「コーパスとは何か」 第3章「さまざまなコーパス」 第5章「コーパス検索の技術」 第6章「コーパス頻度の処理」 第7章「コーパスと語彙」(1) 第7章「コーパスと語彙」(2) 第8章「コーパスと語法」(1) 第8章「コーパスと語法」(2) 第9章「コーパスと文法」(1) 第9章「コーパスと文法」(2) プレゼンテーション準備(1)：RQを検討 プレゼンテーション準備(2)：データ分析 プレゼンテーション準備(3)：資料作成 プレゼンテーション 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著 ひつじ書房）		
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

16年度以降 15年度以前	情報科学各論（コーパス言語学 b） 情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、演習が中心になります。コーパス言語学aを履修していなくても構いません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か 学習者の言語データと第二言語習得 学習者コーパスの仕組み 学習者データの収集(1) 学習者データの収集(2) 学習者データの入力 学習者データの加工 学習者コーパスの語彙分析 学習者コーパスの文法分析 学習者コーパスの流暢さ分析 学習者コーパスの誤り分析 プレゼンテーション準備(1)：RQを検討 プレゼンテーション準備(2)：データ分析 プレゼンテーション準備(3)：資料作成 プレゼンテーション 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。		
テキスト、参考文献	テキストは使用せず。講義支援システムに掲載する PPT スライドを使用する。		
評価方法	テキストは使用せず。講義支援システムに掲載する PPT スライドを使用する。 毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要： この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWWとホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストとHTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造とHTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的・概要： この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、受講生の習熟度等によって、進度・扱う内容が多少異なることがある。		1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWWとホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストとHTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造とHTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。		
テキスト、参考文献	適宜指示する。		
評価方法	担当教員より指示する。		

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意：評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTMLとFTPの復習 (1) 3. HTMLとFTPの復習 (2) 4. インタラクティブなページ (HTMLとCGI) 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript (1) 7. JavaScript (2) 8. JavaScript (3) 9. JavaScript (4) 10. JavaScript (5) 11. CGIの利用 12. 総合課題 (1) 13. 総合課題 (2) 14. 総合課題 (3) 15. 鑑賞会 	
到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。		
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。		
評価方法	授業中に作成する課題 (60%) と平常点 (課題の途中経過等 40%) で総合評価する。		

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動①－効用の概念と予算制約 3. 家計の行動②－効用最大化 4. 家計の行動③－消費者余剰の概念 5. 企業の行動①－生産技術の決定 6. 企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7. 企業の行動③－生産者余剰の概念 8. 市場価格の決定 9. 不完全競争市場 10. 厚生経済学の基本定理 11. 市場の失敗 12. 所得分配の決定 13. 政府の役割①－規制および補助金政策 14. 政府の役割②－租税政策 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 企業投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. 財政政策の有効性 9. 金融政策の有効性 10. 国際収支と為替レートの決定要因 11. 開放マクロ経済下での経済政策 12. 公債発行と財政赤字 13. 経済成長の決定要因 14. 日本の公的債務と経済成長 15. まとめ 	
到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。		
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。		
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		
評価方法	定期試験の成績（80％）に授業内での小テストの結果（20％）を加味して評価する。		

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは、個人の心の働きに主に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・「社会心理学」講義の前に 2. 社会心理学の概要 3. 社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4. 社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5. 社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6. 社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる 7. 自己(1)：自分はどんな人間か 8. 自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9. 態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10. 社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11. 社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12. 社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13. 社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14. 期末試験と振り返り 15. 社会的影響(5)：人間の力 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通していただくこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出していただくこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)、『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』有斐閣；池田謙一 他(2010)、『社会心理学』有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験60%、その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
講義目的、講義概要		授業計画	
人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a, bでは、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学bでは、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2. コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション 3. コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5. ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6. ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7. ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8. 信頼社会と安心社会 9. 社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝 10. 社会的感情(2)：表情と感情 11. 社会的感情(3)：生死を分ける感情 12. 健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13. 健康行動と社会心理学(2)：感染予防のための挑戦 14. 期末試験と振り返り 15. 社会心理学の未来 	
到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。		
事前・事後学修の内容	毎回、事前に配布する資料に目を通していただくこと。またリアクションペーパーにコメントした内容について、授業後に自らの答えを出していただくこと。		
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)、『複雑さに挑む社会心理学ー適応エージェントとしての人間』有斐閣；池田謙一 他(2010)、『社会心理学』有斐閣		
評価方法	中間レポート30%、期末試験60%、その他10%で評価する。なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。		

シラバス ドイツ語学科

2017年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	